ThinkVantage

System Migration Assistant デプロイメント・ガイド バージョン 6.0

更新: 2009年10月15日

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 155 ページの『付録 D. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

第1版第1刷 2009.10

目次

まえがき

本ガイドに記載した情報は、ThinkVantage プログラムはサポートしますが、Lenovo 3000 テクノロジーはサポートしません。Lenovo 3000 テクノロジーに関する情報については、Lenovo Web サイトを参照してください。

http://www.lenovo.com/thinkvantage

本書は、ThinkVantage System Migration Assistant (SMA) 6.0 のインストールと使用について説明しています。

本ガイドは IT 管理者または組織に新規コンピューターを展開する責任者向けです。 SMA は、システム管理者がユーザーの作業環境を、あるコンピューターから別のコンピューターに移行する場合に使用できるソフトウェア・ツールです。

移行には、「カスタム移行」および「簡易移行」の 2 つのタイプがあります。カスタム移行は、GUI、コマンド行プロンプトのいずれかを使用して実行できます。このタイプの移行では SMA に関する高度な知識が必要であるため、IT 管理者などのユーザーにお勧めします。簡易移行は、グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して実行することができます。デフォルトでは非表示になっていますが、IT 管理者が SMA 構成を変更することで、すべてのユーザーに対して簡易移行を公開できるようになります。

本デプロイメント・ガイドは、主にコマンド行インターフェースについて記述し、大規模組織の IT 管理者に最適な例を示しながら、有用な移行シナリオを提示します。

本デプロイメント・ガイドは、IT の専門家とその専門家が遭遇する課題を対象に作成されています。提言およびコメントがある場合は、Lenovo の認可済み担当者に連絡してください。本ガイドは定期的に更新されるので、新しい資料がないか次の Web サイトでご確認ください。

http://www.lenovo.com/thinkvantage

第 1 章 Migration Assistant の紹介

System Migration Assistant (SMA) は、以下のような「作業環境」を移行する場合に使用できるソフトウェア・ツールです。

- オペレーティング・システム設定 (例えば、デスクトップおよびネットワーク接続設定)
- ファイルとフォルダー
- カスタマイズされたアプリケーション設定 (例えば、Web ブラウザーのブックマーク、Microsoft® Word の編集設定)
- ユーザー・アカウント

システム管理者は SMA を使用して、企業の標準作業環境をセットアップしたり、個々のユーザーのコンピューターをアップグレードしたりできます。個々のユーザーは SMA を使用して、コンピューターをバックアップしたり、設定とファイルを 1 つのコンピューター・システムから別のコンピューター・システム (例えば、デスクトップ・コンピューターからモバイル・コンピューター) に移行したりできます。

SMA の機能

SMA は、コンピューターの作業環境のスナップショットを取ることから開始します。次に、このスナップショットを原画として使用して、作業環境を別のコンピューターに複写します。 SMA がスナップショットを取るコンピューターはソース・コンピューター です。スナップショットが複写されるコンピューターはターゲット・コンピューターです。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、物理的に別々の場所に設置することもでき、さらにそれぞれ異なる時間帯にあってもかまいません。

SMA は、次の 3 つのフェーズを使用して 1 つのコンピューターから別のコンピューターに作業環境を移行します: すべてのユーザーのための*取り込み*フェーズ、コンピューターにローカル管理者としてログオンしているユーザーのための*適用*フェーズ、および、初期適用フェーズ時にログオンしていないローカルまたはドメイン・ユーザーのための*遅延適用*フェーズ。

移行には、「*カスタム移行*」および「*簡易移行*」の 2 つの方法があります。簡易移行は、移行のために推奨される設定とファイルを自動的に選択します。カスタム移行は、移行設定の選択または選択解除に使用するユーザー・インターフェースを提供します。カスタム移行は上級者にお勧めします。移行ファイルの作成およびソース・コンピューターから移行を開始する機能を含め、すべての移行オプションが使用可能です。

デフォルトでは、簡易移行は SMA GUI 上で非表示になっており、config.ini ファイルを構成することでアクティブにできるようになっています。config.ini ファイルの構成について詳しくは、 17 ページの表 3を参照してください。

簡易移行

ユーザーが 1 人の場合に行う簡易移行の*取り込みフェーズ* では、以下の項目がソース・コンピューターからコピーされます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定
- ファイルとフォルダー

これらの設定とファイルは、PC から PC への移行の間にターゲット・コンピューターに直接転送されます。

「*適用フェーズ*」では、取り込み済みの設定とファイルが SMA によりターゲット・コンピューターに適用されます。

カスタム移行

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*取り込みフェーズ* では、ソース・コンピューターから以下の項目を選択およびコピーすることができます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定
- ファイルとディレクトリー
- バックグラウンド・ユーザーのユーザー・プロファイル

これらの設定とファイルは、SMA 移行ファイルに保存されるか、PC から PC への移行の間にターゲット・コンピューターに直接転送されます。

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*適用フェーズ* では、SMA で以下の 2 つのタスクが行われます。

- 移行ファイルをターゲット・コンピューターの管理者ユーザーに適用する。この場合、移行ファイル全体を適用するか、移行ファイルの中から適用するコンポーネントを指定するかを、ユーザーが選択できます。
- 他のユーザーのために遅延適用タスクの準備をする。

その他のバックグラウンド・ユーザーがコンピューターに最初にログオンするときに、そのユーザーのプロファイルの設定は自動的に適用されます。

SMA コンポーネント

SMA には、以下のコンポーネントが含まれています。

1. 実行可能コンポーネント:

sma.exe
: 設定とファイルをソース・コンピューターから取り込み、移行ファイルにコピーする GUI 実行可能ファイル。この実行可能ファイルによって、移行ファイルのターゲット・コンピューターへの適用も行われます。

smabat.exe
: バッチ・モードで使用するためのコマンド行インターフェースを提供する実行可能ファイル。

2. DLL ライブラリー:
   - SMA 5 DLL
   - システム・プラグイン DLL
   - 取り込み/適用プラグイン DLL
3. 制御ファイル:

GUI_default_commands.XML
: 取り込みおよび適用プロセスを駆動するために使用するコマンド・ファイル。

config.ini
: SMA.EXE をカスタマイズするために使用する構成ファイル。

<*Application name*>.xml
: SMA によるアプリケーションの取り込みおよび適用方法を定義するために使用するアプリケーション・ファイル。

システム要件

このセクションでは、ハードウェアおよびユーザー・アカウントの要件と、サポートされるオペレーティング・システムについて記載します。さらに、移行シナリオについても説明します。

ハードウェア要件

ソース・コンピューターは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ハードディスクに、SMA インストール・ファイル用に 60 MB のフリー・スペースがある。
- ハードディスクに、取り込みフェーズで作成される一時ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがある。一時ファイルのサイズは、移行されるファイルのサイズによって異なります。

ターゲット・コンピューターは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ハードディスクに、SMA インストール・ファイル用に 60 MB のフリー・スペースがある。
- ハードディスクに、適用フェーズで作成される一時ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがある。一時ファイルのサイズは、移行されるファイルのサイズによって異なります。

- ターゲット・コンピューターが SMA 移行ファイルにアクセスできる。この場合、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)、取り外し可能メディア (USB 取り外し可能ストレージ・デバイスなど)、またはイーサネット・クロスケーブルを使用することができます。
- PC から PC への移行の場合、ターゲット・コンピューターのハードディスク上には、移行ファイルの合計サイズと同等のフリー・スペースが必要です。

サポートされるオペレーティング・システム

SMA 6.0 は、以下のオペレーティング・システムにインストールできます。

- Microsoft Windows® 2000 Professional
- Windows XP Home
- Windows XP Professional
- Windows XP Tablet PC Edition 2005
- Windows Vista® Home Basic 32 ビット および 64 ビット
- Windows Vista Home Premium 32 ビット および 64 ビット
- Windows Vista Business 32 ビット および 64 ビット
- Windows Vista Ultimate 32 ビット および 64 ビット
- Windows 7 Home Basic 32 ビット
- Windows 7 Home Premium 32 ビット および 64 ビットt
- Windows 7 Professional 32 ビット および 64 ビット
- Windows 7 Enterprise 32 ビット および 64 ビット
- Windows 7 Ultimate 32 ビット および 64 ビット

以降、Windows XP Professional、Windows XP Home および Windows XP Tablet PC Edition 2005 は、区別されない限り Windows XP と呼びます。さらに、区別されない限り、すべてのバージョンの Windows Vista は Windows Vista、すべてのバージョンの Windows 7 は Windows 7 と、それぞれ呼びます。

注: ユーザー・プロファイルの移行は、Windows 2000 Professional、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 でサポートされます。

サポートされる移行シナリオ

SMA を使用すると、オペレーティング・システム内およびオペレーティング・システム間でユーザーの作業環境を移行できます。 5 ページの表 1 に、各オペレーティング・システムに対する有効な移行シナリオを示します。「**はい**」は有効な移行シナリオを示し、「**いいえ**」は無効な移行シナリオを示します。

表 1. SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ

ソース・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム												
	Windows 2000Professional	**Windows XP Home**	**Windows XP Professional**	**Windows XP Tablet PC Edition 2005**	**Windows Vista Home Basic**	**Windows Vista Home Premium**	**Windows Vista Business**	**Windows Vista Ultimate**	**Windows 7 Home Basic**	**Windows 7 Home Premium**	**Windows 7 Professional**	**Windows 7 Enterprise**	**Windows 7 Ultimate**
Windows 2000 Professional	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows XP Home	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows XP Professional	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
Windows XP Tablet PC Edition 2005	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
Windows Vista Home Basic	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Windows Vista Home Premium	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい
Windows Vista Business	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
Windows Vista Ultimate	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
Windows 7 Home Basic	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい
Windows 7 Home Premium	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい
Windows 7 Professional	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
Windows 7 Enterprise	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows 7 Ultimate	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい

注:

1. 32 ビット・オペレーティング・システムから 64 ビット・オペレーティング・システムへ作業環境を移行することは可能です。ただし、64 ビット・オペレーティング・システムから32 ビット・オペレーティング・システムへ作業環境を移行することはできません。
2. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、Windows の同じ言語版を実行している必要があります。

SMA 6.0 の新機能

SMA 6.0 には、以下の新機能と改善機能が含まれます。

- Microsoft Windows 7 オペレーティング・システムのサポート:
  - Windows 7 Home Basic 32 ビット
  - Windows 7 Home Premium 32 ビット および 64 ビットt
  - Windows 7 Professional 32 ビット および 64 ビット
  - Windows 7 Enterprise 32 ビット および 64 ビット
  - Windows 7 Ultimate 32 ビット および 64 ビット
- 以下のアプリケーションのサポート:
  - Adobe Illustrator CS4
  - Adobe Photoshop CS4
  - AOL Instant Messenger 7.0
  - Apple iTunes 8.1
  - Firefox 3.5
  - Google Picasa 3.1
  - Internet Explorer® 8
  - Lotus Notes® 8.5
  - Microsoft Windows Media® Player 12
  - Skype 4.0
- 新規バージョンの ThinkVantage Technology アプリケーションのサポート
  - Access Connections 5.4
  - Password Manager for Client Security Solution 8.3
  - Rescue and Recovery® 4.3

前のリリースからのアップグレード

SMA 6.0 には SMA 5.x からのアップグレードが可能です。 SMA 6.0 をインストールする前に、古いバージョンの SMA をアンインストールする必要はありません。

SMA 6.0 移行ファイルのデータ・フォーマットは SMA 4.x 以前のバージョンと互換性がありません。 SMA 4.x によって取り込まれた SMA プロファイルは、SMA 6.0 では適用できず、その逆もまた同様です。

SMA 5.x 移行ファイルは SMA 6.0 で適用可能ですが、 SMA 6.0 移行ファイルは SMA 5.x では適用できません。

ユーザー・アカウントの要件

SMA がサポートするすべての設定を移行するには、ソースおよびターゲットの両コンピューターに管理特権を持つアカウントでログオンする必要があります。ユーザー・アカウントの要件について詳しくは、 145 ページの『付録 B. SMA 6.0 でサポートされるユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。

表 2 は、それぞれのユーザー・アカウントごとに移行可能なタイプと移行可能な設定を示します。

表 2. それぞれのユーザー・アカウントごとに移行される、有効な移行タイプと設定

ソースおよびターゲット両コンピューター上のユーザー・アカウントのタイプ	移行のタイプ		設定	
	マルチユーザーの移行	PC から PC への移行	システム設定	個人用設定
Administrator	はい	はい	はい	はい
パワー・ユーザー	いいえ	はい	はい[1]	はい
標準ユーザー	いいえ	はい	いいえ	はい
限定ユーザー	いいえ	いいえ	いいえ	はい

[1]パワー・ユーザー・アカウントとしてログオンしたユーザーには、次のネットワーク設定は移行できません。

- TCP/IP 構成
- ネットワーク識別
- 共用フォルダー/ドライブ

Windows Vista または Windows 7 にパワー・ユーザーとしてログオンしたユーザーは、ユーザー・プロファイル・フォルダー内のファイルおよび HKLM レジストリー・ファイルを移行することはできません。

マルチユーザー・プロファイルを同時に移行する、またはシステム設定を移行するためには、ソースおよびターゲットの両コンピューターに管理特権を持つアカウントでログオンする必要があります。マルチユーザー移行の詳細については、 8 ページの『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。

PC から PC への移行を実行するためには、管理特権またはパワー・ユーザー特権を持つアカウントとしてログオンします。

デスクトップ設定のような個人用設定を移行するためには、あるいは、例えば C:¥Documents and Settings¥*username* のようなユーザー・プロファイルのパスのファイルを移行するためには、制限ユーザー特権を持つアカウントとしてログオンできます。

遅延適用フェーズでは、プロファイルが移行されているユーザーは、ローカル管理者アカウント、ローカル制限ユーザー・アカウント、またはドメイン・クライアント・ユーザー・アカウントを使用してターゲット・コンピューターにログオンできます。

マルチユーザー・プロファイルの移行

マルチユーザー移行には、3 種類のユーザー・アカウントが関係しています。

1. フォアグラウンド・ログオン・ユーザー

   移行時にコンピューターにログオンしているユーザー。このユーザーは管理特権を持つ必要があります。SMA はこのユーザー・アカウントから起動する必要があります。

   このユーザー名は、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」の 1 つとして表示されます。このチェック・ボックスは常時選択されており、クリアすることはできません。
2. バックグラウンド・ローカル・ユーザー

   現在ローカル・コンピューターにログオンしていない、ローカル・コンピューターのユーザー・アカウント。それらは、管理特権を持たない一般ユーザー・アカウントの場合があります。

   これらのユーザーは、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」として表示されます。
3. バックグラウンド・ドメイン・ユーザー

   現在ドメインにログオンしていない、ネットワーク・ドメインでのユーザー・アカウント。ドメイン・コントローラーはそれらのアカウント情報を制御し、ローカル・クライアント PC はそれらのプロファイル情報を所有しています。

   これらのユーザーは、ローカル・コンピューターの「GUI ユーザー・プロファイル」パネルに「ネットワーク・ユーザー」としてリストされます。また、コントローラー PC のローカル・ポリシーでユーザーがローカルでコントローラー PC にログオンできるように指定されている場合は、ドメイン・コントローラーの「GUI ユーザー・プロファイル」パネルに「ローカル・ユーザー」としてリストされます。

ソースおよびターゲットの両コンピューターにログオンしているフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの移行方法については、「*ThinkVantage System Migration Assistant 6.0 ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。

バックグラウンド・ローカル・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、45 ページの『バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行』を参照してください。

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、46 ページの『バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行』を参照してください。

マルチユーザー・プロファイルの移行には以下の制約事項が適用されます。

- ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が一致していないと、バックグラウンド・ユーザー用の設定は移行されません。ログオン・ユーザー用の設定のみが移行されます。
- 設定を適用するには、ドメイン・コントローラーがネットワーク上で認識されることが必要です。検索のためには、ドメイン・ユーザーが PDC になければなりません。
- ローカル・ユーザーの PC から PC への移行の場合はクロスケーブルを使用できますが、ドメイン・ユーザーの移行には使用できません。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルを適用するには、まずネットワーク・ドメイン設定を移行する必要があります。ネットワーク・ドメイン設定の移行についての詳細は、「*ThinkVantage System Migration Assistant 6.0 ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルの一部の設定のみを移行し、設定のすべてを移行しない場合は、ローミング・ユーザー・プロファイルを選択しないでください。これを選択すると、デフォルトですべての設定が移行され、選択内容が無効になってしまいます。
- Double Byte Character Set (DBCS) 文字を使用するアカウント名のバックグラウンド・ユーザーを移行する場合、ターゲット・コンピューターに新たに作成したユーザー・アカウントのログオン・パスワードは、「**Passw0rd**」で、大/小文字の区別をします。

注: 移行ファイルはターゲット・コンピューターのローカル・ハードディスク上に置く必要があります。別の場所に保存すると、バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはバックグラウンド・ドメイン・ユーザーの設定が、遅延適用フェーズで正しく適用できません。 SMA では、ネットワーク・ドライブや取り外し可能メディア・ドライブにある移行ファイルは見つけられません。これらのドライブは、ユーザーがコンピューターにログオンした直後は使用準備ができていない可能性があるためです。

移行の方法

ソースおよびターゲット・コンピューターを LAN 経由で、あるいはイーサネット・ケーブルで直接接続することにより、または取り外し可能ストレージ・デバイスを使用することにより移行を行うことができます。

PC から PC への移行

作業環境をソース・コンピューターから直接ターゲット・コンピューターに移行するには、PC から PCへの移行を実施します。 PC から PC への移行は、ソース・コンピューターに SMA 移行ファイルを保存する空きディスク領域が十分に確保できない場合に有効です。

PC から PC への接続のセットアップ

PC から PC への移行を行うには、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方にネットワーク・インターフェース・カード (NIC) が装備されている必要があります。TCP/IP プロトコルが使用可能に設定され、両方のコンピューターが同じ LAN 内のノードであることも必要です。

イーサネット・ケーブルを使用すると、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間のネットワーク接続を以下の方法で確立することができます。

直接接続:

- **クロスケーブルを使用した直接接続:** クロスケーブルは 2 つのコンピューター間を、ネットワーク・インターフェース・カード (NIC) アダプターの片方のアダプターの送信ペアが別のアダプターの受信ペアに向けて送信することによりアダプター間の接続を可能にして、ネットワーク接続を確立します。これに必要となる交差はこのケーブルにより行われます。
- **ストレート・ケーブルを使用した直接接続:** コンピューターのモデルによっては、通常のイーサネット・ケーブルを使用して、必要となる交差を内部交差をサポートする更新されたネットワーク・インターフェース・カード (NIC) アダプターを通して行い、ネットワーク接続を確立することができます。この内部交差により、ネットワークあるいはクロスケーブルを使用しないでコンピューター間の直接接続の確立が可能になります。この場合、必ず両方のコンピューターの IP アドレスが同じネットワークを指定していることを確認してください。 Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 では、IP アドレスは自動的に発行されます。

非直接接続:

- **ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) を使用した非直接接続:** LAN は、さまざまなコンピューター間のブリッジとして働きネットワーク接続を作成します。このネットワークは、クロスケーブルを使用しないコンピューター間の直接接続の確立を可能にします。

イーサネット接続を使用して、データと設定をターゲット・コンピューターに直接的に移行できます。ただし、System Migration Assistant をソース・コンピューターにインストールするため、メモリー・キーのような小型の取り外し可能メモリー・デバイスが必要となる場合があります。

接続性の決定

現行の構成を使用してソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間の接続が可能かどうかを決定するには、以下の手順に従ってください。

1. ソース・コンピューターで以下の手順を実行します。
   a. 「**スタート → ファイルを指定して実行**」をクリックして、「`cmd`」と入力します。
   b. コマンド・プロンプトから「`IPCONFIG`」と入力して Enter を押します。これにより現在の IP アドレスが表示されます。
   c. コンピューターの IP アドレスを記録します。
2. 上記手順をターゲット・コンピューターで繰り返します。
3. ソース・コンピューターのコマンド・プロンプトで、「`PING` *`xxx.xxx.xxx.xxx`*」と入力します。ここで、*xxx.xxx.xxx.xxx* はターゲット・コンピューターの IP アドレスです。
4. ソース・コンピューターがターゲット・コンピューターから応答を受信し、要求タイムアウトにならないことを確認します。

5. ターゲット・コンピューターのコマンド・プロンプトで、「`PING` *`xxx.xxx.xxx.xxx`* 」と入力します。ここで、*xxx.xxx.xxx.xxx* はソース・コンピューターの IP アドレスです。
6. ターゲット・コンピューターがソース・コンピューターから応答を受信し、要求タイムアウトにならないことを確認します。

上記手順が成功すれば、2 つのコンピューターはネットワークを介して正常に通信できます。上記手順が失敗する場合は、すべてのファイアウォールが一時的にオフにされていたか、あるいは SMA のネットワーク接続を許可するように構成されていたかを検査します。ファイアウォールの管理方法については、13 ページの『第 2 章 ファイアウォールの管理』を参照してください。

ファイル転送による移行

ファイル転送による移行では、ネットワーク接続を確立せずに移行を行うことができます。この場合、移行ファイルの保存用に、USB ハードディスクなどの、十分なフリー・スペースを持つ取り外し可能メディアが必要です。ファイル転送による移行は、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターが別の場所にあり、相互のネットワーク接続を確立することが不可能な場合に便利です。

第 2 章 ファイアウォールの管理

System Migration Assistant (SMA) が PC から PC の移行を実行しようとするとき、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間のネットワーク接続が確立されている必要があります。ファイアウォール・アプリケーションは、コンピューター間のネットワーク接続を規制するセキュリティー・システムです。 SMA が接続を確立するためには、コンピューター上のファイアウォール・ソフトウェアが無効になっているか、または SMA のネットワーク・アクセスを許可するように構成されている必要があります。

重要:

1. PC から PC の接続の確立に問題がある場合は、ファイアウォール・アプリケーションが妨害していることがあります。ファイアウォールを無効にすると問題が解決することがあります。ファイアウォール・アプリケーションを無効にするには、このセクションをお読みください。
2. VPN 接続 (AT&T ネットワーク・クライアントなど) を使用している場合、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方でファイアウォールの無効に失敗すると、移行機能の遅延を無効にできないことがあります。

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのネットワーク接続の確立を許可するには、いかの操作のどれかを実行します。

ファイアウォールを無効にする

ファイアウォールをオフにすることにより、コンピューターはネットワーク接続を受け付けるようになります。一般的に、ファイアウォールをオフにするには、ファイアウォールのユーティリティーを開いて「オフ」または「無効」を選択します。両方のコンピューターでファイアウォールを無効にする必要があります。

ファイアウォールが SMA アクセスを許可するように構成する

ファイアウォール・アプリケーションは、ファイアウォールが着信ネットワーク接続を受け付ける承認済みアプリケーションのリストを保持しています。このリストに SMA を追加することにより、コンピューターは別のコンピューターからのネットワーク接続を受け付けることができます。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で、承認済みアプリケーションのリストに SMA を追加しておく必要があります。アプリケーションを承認済みアプリケーション・リストに追加する方法についての説明は、該当のファイアウォール・アプリケーションの資料を参照してください。Windows ファイアウォールの構成については、Microsoft Windows ヘルプを参照してください。

以下の手順は、一般的なファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。

注: これらの手順は、ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例にすぎません。完全な説明については、ご使用のファイアウォール・アプリケーションの資料を参照してください。

Windows Firewall を無効にする

以下の手順は、Windows ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は異なる可能性があります。より具体的な手順については、Microsoft Windows の資料を参照してください。

1. 管理者グループのメンバーとしてのユーザーを使用して Windows にログオンします。
2. 「**ネットワーク接続 (Network Connections)**」フォルダーを開き、求める接続を右クリックして、「**プロパティー (Properties)**」を選択します。
3. 「**詳細 (Advanced)**」タブを選択します。
4. 「**Windows ファイアウォールの設定 (Settings for Windows Firewall)**」をクリックします。
5. 「**オフ (推奨されません) (Off (not recommended))**」をクリックします。

BlackICE PC Protection を無効にする

以下の手順は、BlackICE(TM) PC Protection ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。より具体的な手順については、BlackICE(TM) PC Protection の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**BlackICE**」アイコンを右クリックします。
2. 「**Stop BlackICE Engine**」を選択します。BlackICE は着信トラフィックのモニターを停止して、赤色の斜線が BlackICE アイコンの上に表示されます。
3. 「**BlackICE**」アイコンをもう一度右クリックします。
4. 「**Stop BlackICE Application Protection**」を選択します。BlackICE は、非承認アプリケーションおよびアプリケーションのネットワーク接続のためのシステムのモニターを停止します。

McAfee Personal Firewall Plus を無効にする

以下の手順は、McAfee Personal Firewall Plus ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。より具体的な手順については、McAfee Personal Firewall Plus の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**McAfee SecurityCenter**」アイコンをダブルクリックします。「McAfee SecurityCenter」が開きます。
2. ウィンドウの左サイドで、「**Personal firewall plus**」をクリックします。
3. ウィンドウの右上方で、「**Disable personal firewall plus**」をクリックします。アラート・ウィンドウが開きます。
4. 「**Yes**をクリックします。

注: McAfee Personal Firewall Plus アプリケーションは、システム・トレイの「McAfee SecurityCenter」アイコンを右クリックし「**Personal Firewall > Disable**」を選択しても無効にすることができます。

Norton Personal Firewall を無効にする

以下の手順は、Norton Personal Firewall アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。より具体的な手順については、Norton Personal Firewall の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**Norton Internet Security**」アイコンをダブルクリックします。
2. ウィンドウの左サイドで、「**Norton Internet Security**」をクリックし、「**Status & Settings**」をクリックします。
3. ウィンドウの右サイドで、「**Personal Firewall**」をクリックし、次に「**Turn Off**」をクリックします。Protection Alert ウィンドウが開きます。
4. 「OK」をクリックします。

注: Norton Personal Firewall アプリケーションは、システム・トレイの「Norton Internet Security」アイコンを右クリックし「**Disable Norton Internet Security**」を選択しても無効にすることができます。

Check Point Integrity Client を無効にする

以下の手順は、Check Point Integrity Client ファイアウォール・アプリケーションを無効にする方法の例です。実際の手順は、コンピューターにインストールされたアプリケーションのバージョンにより異なる場合があります。詳しい手順については、Check Point Integrity Client の資料を参照してください。

1. システム・トレイの「**Check Point Integrity Client**」アイコンをダブルクリックします。
2. 画面の左サイドで、「**Firewall**」をクリックします。
3. ウィンドウの右サイドで、「**Internet Zone Security**」を「**Low**」に設定します。

第 3 章 System Migration Assistant のカスタマイズ

この章では、System Migration Assistant のグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) で使用可能なカスタマイズ・オプションについて説明します。

標準移行のカスタマイズ

グローバル・オプション

表 3 は、グローバル・オプションの設定に関する情報を示しています。

表 3. Config.ini ファイル: グローバル・オプション設定

変数	値	作業の内容
Import_Command_File	完全修飾ファイル名	取り込みに使用するコマンド・ファイルの名前とパスを指定します。ソース・コンピューターのデフォルトの選択項目のうち、パスワード保護の設定を除くすべての項目をコマンド・ファイルでカスタマイズできます。デフォルトで移行ファイルがパスワードによって保護されるようにするには、Enable_Password_protection を「Yes」に設定してください。
Import_Command_File_For_Apply	完全修飾ファイル名	適用に使用するコマンド・ファイルの名前とパスを指定します。パスワード保護の設定を除く、すべてのデフォルト選択項目をコマンド・ファイルでカスタマイズできます。
Export_Command_File	完全修飾ファイル名	生成されるコマンド・ファイルの名前とパスを指定します。デフォルトでは、(*install directory*)¥commands.xml に設定されます。
Just_Create_Command_File	「Yes」または「No」	移行ファイルを作成するかどうかを指定します。移行ファイルを作成せずにコマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、Just_Create_Command_File を「Yes」に設定します。これによって、コマンド・ファイルが Export_Command_File の指定どおりに生成されます。
Enable_4GFat32_warning	「Yes」または「No」	「Yes」に設定すると、移行ファイルが 4 GB より大きくなる場合に、FAT32 区画に書き込めないことをユーザーに警告します。
Preprocess_Executable	完全修飾ファイル名	オプション付きの実行可能ファイルの名前とパスを指定します。この実行可能ファイルは SMA を開始する前の前処理として実行できます。
Begin_Page_Show_Page	「Yes」または「No」	簡易移行およびカスタム移行から選択できるページを公開するには、この変数を「Yes」に設定します。

表 3. Config.ini ファイル: グローバル・オプション設定 (続き)

変数	値	作業の内容
Show_Previous_File_Selection_Dialog	「Yes」または「No」	前に選択済みのファイルを選択するかどうかを尋ねるメッセージを表示するには、この変数を「Yes」に設定します。
Show_P2P_Messagebox	「Yes」または「No」	ソース・コンピューター上で P2P キーワードを入力するようにユーザーにプロンプトを出すには、この変数を「Yes」に設定します。
Show_File_Dialog	「Yes」または「No」	移行ファイル場所を指定するようにユーザーにプロンプトを出すには、この変数を「Yes」に設定します。
Show_Start_Processing_Dialog	「Yes」または「No」	SMA 移行ファイルの作成、または SMA 移行ファイルからの設定の適用を開始するかどうかを尋ねるメッセージを表示するには、この変数を「Yes」に設定します。
Show_Reboot_Dialog	「Yes」または「No」	マシンを再起動するようにメッセージを表示するには、この変数を「Yes」に設定します。
Show_All_Progressbar_Dialogs	「Yes」または「No」	処理の進行中にユーザーにダイアログを表示するには、この変数を「Yes」に設定します。
Show_All_Warning_Dialogs	「Yes」または「No」	ユーザーにすべての警告メッセージを表示するには、この変数を「Yes」に設定します。
Enable_Password_Protection	「Yes」または「No」	パスワード・オプションのチェック・ボックスをアクティブにするには、この変数を「Yes」に設定します。このオプションは、ソース・コンピューターにのみ適用できます。
ATTFW_Auto_Disabled	「Yes」または「No」	AT&T Net ファイアウォールを自動的に無効にするには、この変数を「Yes」に設定します。

ページ表示オプション

Show/Not Show Window Options セクションには、以下の変数が含まれます。

*SpecificPage*_Page_Show_Page

ここで、*SpecificPage* は、以下のいずれかです。

- Splash
- Welcome
- Begin
- TopOptions
- MigOptions
- Profiles
- デスクトップ
- Applications
- Network
- Printers
- Selection

- AutoManual
- P2P_Logon
- P2P_Auto_SRC
- P2P_Manual_TGT
- P2P_Manual_SRC
- P2P_SourceIni
- P2P_Keyword
- Receive_Data
- Log
- SummaryTypical

注: 「Begin ページ」とは「*このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?*」ウィンドウのことです。「TopOptions」ページは「*移行のタイプを選択してください。*」ウィンドウのことです。「AutoManual」 ページは、「*System Migration Assistant のインストール*」ウィンドウのことです。「*P2P_*」で始まるページは、「接続の確立」ウィンドウのことです。

SMA の実行時にウィンドウを表示しないようにするには、この変数を「No」に設定します。それ以外の場合は、「Yes」に設定するか、何も指定しないでおきます。ウィンドウが表示されない場合、SMA はインポートされたコマンド・ファイルに指定されているデフォルト設定に従って、取り込みまたは適用を行います。

ウィンドウ・タイトルのオプション

Window Title Options セクションには、以下の変数があります。

*SpecificPage*_Page__Title

ここで、*SpecificPage* は、以下のいずれかです。

- Welcome
- Begin
- TopOptions
- MigOptions
- Profiles
- デスクトップ
- Applications
- Network
- Printers
- Selection
- AutoManual
- P2P_Logon
- P2P_Auto_SRC
- P2P_Manual_TGT
- P2P_Manual_SRC
- P2P_SourceIni

- P2P_Keyword
- Receive_Data
- Log
- SummaryTypical

注: 「Begin ページ」とは「*このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?*」ウィンドウのことです。「TopOptions」ページは「*移行のタイプを選択してください。*」ウィンドウのことです。「AutoManual」 ページは、「*System Migration Assistant* のインストール」ウィンドウのことです。「*P2P_*」で始まるページは、「接続の確立」ウィンドウのことです。

この変数では、ページ・タイトルとして表示される代替テキストを指定します。

ガイダンス・テキスト・オプション

Guidance Text Options セクションには、以下の変数が含まれます。

`SpecificPagePage_Guidance_Text`

ここで、*SpecificPage* は、以下のいずれかです。

- Welcome
- Begin
- TopOptions
- MigOptions
- Profiles
- デスクトップ
- Applications
- Network
- Printers
- Selection
- AutoManual
- P2P_Logon
- P2P_Auto_SRC
- P2P_Manual_TGT
- P2P_Manual_SRC
- P2P_SourceIni
- P2P_Keyword
- Receive_Data
- Log
- SummaryTypical

注:

「Begin ページ」とは「*このコンピューターはソースですか、ターゲットですか?*」ウィンドウのことです。「TopOptions」ページは「*移行のタイプを選択してくださ*

い。」ウィンドウのことです。「AutoManual」 ページは、「*System Migration Assistant* のインストール」ウィンドウのことです。「*P2P_*」で始まるページは、「接続の確立」ウィンドウのことです。

この変数では、ガイダンス・テキストとして表示される代替テキストを指定します。

Splash ページ

「Splash Page」セクションには、以下の変数が含まれます。

- Splash_Page_Display_Time

この変数では、スプラッシュ画面が表示される時間を秒数で指定します。デフォルトでは、Splash_Page_Display_Time は 2 に設定されています。

Begin ページ

「Begin Page」セクションには、以下の変数があります。

`Begine_Page_Choice_Type`

この変数は移行タイプの「簡易」または「カスタム」のどちらかを指定します。

TopOptions ページ

「TopOptions Page」セクションには、以下の変数が含まれます。

- TopOptions_Page_Choice_Mode
- TopOptions_Page_Choice_TransferMode
- TopOptions_Page_Target_Initiated_Migration

TopOptions_Page_Choice_Mode では、移行モードを指定します。この PC が移動先の場合は「Target」と設定します。この PC が移動元の場合は「Source」と設定します。

TopOptions_Page_Choice_TransferMode では、移行方法を指定します。取り込んだファイルと設定を直接ターゲット・コンピューターに送るには、この変数を P2P に設定します。取り外し可能ストレージ・デバイスを使用してファイルと設定をコピーするには、この変数を FileTransfer に設定します。

TopOptions_Page_Target_Initiated_Migration では、Target Initiated 移行を指定します。この変数は、TopOptions_Page_Choice_Mode が Target で、TopOptions_Page_Choice_TransferMode が P2P のときにのみ有効です。この変数を「Yes」に設定すると、ターゲット開始の移行が選択できます。

Install Method Page

Install Method Page セクションには、以下の変数があります。

`InstallMethod_Page_Choice_Method`

ネットワーク・インストールには Auto を選択し、インストールを取り外し可能メディアにコピーするには Manual を選択します。

選択オプション

このセクションでは、次のストリングを含む変数について説明します。

```
_Choice
```

これらの変数は、config.ini ファイルの「Migration Options Page」、「Desktop Page」、および「Network Page」セクションにあります。これらの変数によって、チェック・ボックスを表示するか非表示にするか、アクティブにするか使用不可にするか、またはデフォルトで選択するがどうかを制御できます。

値

これらの各変数は次の値を取ります。

OptionDisplay, *OptionActive*, *OptionSelected*

ここで、

- *OptionDisplay* は、以下のいずれかの値です。
  - HIDE は、チェック・ボックスを非表示にします。
  - DISPLAY は、チェック・ボックスを表示します。
- *OptionActive* は、以下のいずれかの値です。
  - ENABLED は、チェック・ボックスの選択を変更できる状態にすることを指定します。
  - DISABLED は、チェック・ボックスの選択を変更できない状態にすることを指定します。

  OptionDisplay が HIDE に設定されている場合、SMA はこの変数を無視します。
- *OptionSelected* は、以下のいずれかの値です。
  - CHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトで選択することを指定します。
  - UNCHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトでクリアすることを指定します。

  OptionSelected は、「Migration Options page」セクションでのみ使用可能です。

例

以下の例を考察します。

- 「デスクトップ設定」ページの「**カラー**」チェック・ボックスは表示されるが、ユーザーがこのチェック・ボックスの選択を解除できない。

  ```
  Desktop_Page_Choice_Colors = Display, Disabled
  ```
- 「移行オプション」ページの「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスが表示され、このチェック・ボックスの選択が解除されているが、選択ができない。

  ```
  Options_Page_Choice_Files = Display, Disabled, Unchecked
  ```
- 「**タスクバー**」チェック・ボックスが「デスクトップ設定」ページに表示されない。ただし、タスクバー設定がデフォルトで選択されている場合、これらの設定は自動的に選択され、取り込まれる。

  ```
  Desktop_Page_Choice_ Task_Bar = Hide, Checked.
  ```
- 「**プリンター**」チェック・ボックスが「オプション」ページに表示されない。ただし、このチェック・ボックスは自動的に選択され、取り込まれる。

```
Options_Page_Choice_Printers = Hide, Checked.
```

その他のオプション

表 4 は、config.ini ファイルの追加変数に関する情報を示します。

表 4. Config.ini ファイル: その他のオプション

変数	値	作業の内容
Applications_Page_Show_Registry_Button	「Yes」または「No」	「アプリケーション設定の選択」ウィンドウでレジストリー・ボタンを表示するかどうかを指定します。デフォルトは「No」です。
Profiles_Page_Show_GlobalPassword_Dialog	「Yes」または「No」	移行するすべてのユーザー・プロファイルに対して新規パスワードを設定するようにユーザーにプロンプトを出すには、この変数を「Yes」に設定します。デフォルト値は「No」です。このオプションは、ターゲット・コンピューターにのみ適用できます。
Selection_Page_File_Quota	数値 (MB)	取り込むことができる解凍データの最大量を指定します (MB 単位)。
Selection_Page_File_Warning_Message	テキスト・ストリング	ユーザーが特定の拡張子を持つファイルを選択したときに表示される、代替警告メッセージを指定します。

Selection_Page_Warning_Extensions	ファイル拡張子	ここで指定した拡張子のファイルは、ユーザーが移行項目として選択すると、警告メッセージを表示します。
		
		それぞれの拡張子は、別々の行に指定しなければなりません。例えば、次のとおりです。
		
		`[Selection_Page_Warning_Extensions_Start]`
		`exe`
		`com`
		`dll`
		`[Selection_Page_Warning_Extensions_End]`

第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行

この章では、移行をバッチ・モードで実行する方法について説明します。

重要

移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

GUI モードの移行とバッチ・モードの移行は、どちらも同じように使用できます。ファイル移行の動作はどちらのモードでも同じですが、バッチ・モードの場合、特性を組み込んだり除外することによってファイルとフォルダーを選択します。

GUI モード、バッチ・モードのいずれの場合も、作成される移行ファイルは同じです。移行ファイルをバッチ・モードで作成した場合は、ユーザー・インターフェースを使用してそのファイルを開き、内容を調べることができます。同様に、GUI を使用してコマンド・ファイル・テンプレートを作成することができます。ただし、ファイル移行基準を手動で追加しなければなりません。

注:

1. 以下の移行ファイルが指定されたディレクトリーに作成されます。
   - *.sma : 基本移行ファイル
   - *.sma.DriveC : ドライブ C: 用の移行ファイル
   - *.sma.Drive*X* : ドライブ *X* 用の移行ファイル: (ユーザーがドライブ *X* 内の移行ファイルを選択したケースのみ)
2. *d*:¥_SMA ディレクトリーは選択しないでください。ここで、*d*: は SMA がインストールされているドライブです。このディレクトリーは SMA が使用する一時フォルダーです。

SMA 4.x との互換性

SMA 6.0 および SMA 5.x では、XML テクノロジーを使用して、移行用に取り込むデータを記述します。コマンド・ファイルは XML ファイル・フォーマットに変換されています。バージョン 4.2 との互換性については、SMA 6.0 および 5.x は従来のコマンド・ファイル形式も同様に扱えるように設計されています。これら 2 つのバージョンの互換性について詳しくは、149 ページの『付録 C. それ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

smabat コマンドの構文

SMA 実行可能ファイルは smabat.exe です。このファイルはコマンド・プロンプトから開始します。SMA は、デフォルトの場所にインストールすると *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハードディスクのドライブ名です。

smabat コマンドの構文は次のとおりです。

```
smabat /c :cmdfile [/n smafile] | /a [cmdfile] /n smafile [options]
```

注:

1. 絶対パスが記述されたファイル名にスペースが含まれる場合 (例えば、c:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Commandfile.xml)、そのファイル名を引用符で囲む必要があります (例: `"c:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Commandfile.xml"`)。
2. smabat コマンドを指定すると、コマンド・ファイルの設定は指定変更されます。例えば、コマンド・ファイルにログ・ファイルの場所を指定していても、その指定は常に、コマンド「`/o logfile`」によって指定変更されます。
3. Windows Vista で smabat コマンド構文ヘルプを表示するには、「管理者として実行」オプションでコマンド・プロンプトを開く必要があります。

SMABAT コマンドの基本パラメーターを 表 5 に記述します。

表 5. 基本 SMABAT パラメーター

機能	構文	作業の内容
取り込み	/c *cmdfile* /n *smafile* ここで、 • *cmdfile* は、コマンド・ファイルの完全修飾ファイル名です。 • /n *smafile* は移行ファイルを指定する場合のオプショナル・パラメーターであり、*smafile* は移行ファイルの完全修飾名です。	コマンド・ファイルに指定されたファイルと設定を取り込み、移行ファイルを作成します。デフォルトでは、移行ファイルは、コマンド・ファイルで指定されたディレクトリーに書き込まれます。必要であれば、移行ファイルを他のディレクトリーに書き込むことができます。
適用	/a *cmdfile* /n *smafile* ここで、 • *cmdfile* は、コマンド・ファイルを指定するオプショナル・パラメーターです。 • *smafile* は、移行ファイルの完全修飾名です。	移行ファイルに指定されたファイルと設定を適用します。移行ファイルがターゲット・コンピューターに適用される前に、そのファイルに対してコマンド・ファイルを実行することも可能です。
ログ・ファイル	/o *logfile* ここで、*logfile* は、ログ・ファイルの完全修飾ファイル名です。	ログ・ファイルの場所を指定します。
一時ディレクトリー	/t *tmpdir* ここで、*tmpdir* は、一時 SMA ディレクトリーのプロファイルの完全修飾名です。	一時 SMA ディレクトリーの位置を指定します。

表 5. 基本 SMABAT パラメーター (続き)

機能	構文	作業の内容
パスワード	/p *smapwd* ここで、*smapwd* は、以下のいずれかの値です。 • 取り込みフェーズで移行ファイルをパスワードで保護するために使用するパスワード • 適用フェーズでパスワードで保護された移行ファイルにアクセスするときに使用するパスワード 各パスワードは以下の基準を満たしている必要があります。 • 長さは 6 文字から 16 文字であること • 先頭または末尾の文字が数字でないこと • 同一文字が 2 文字連続していないこと	SMA 移行ファイルのパスワードを指定します。
PC から PC への移行による適用	/a /p2p *keyword* /n *smafile* ここで、 • PC から PC への接続を確立するときは、キーワードを使用します。 • 保存する移行ファイルを指定するときは、*smafile* を使用します。*smafile* は移行ファイルの完全修飾名です。	PC から PC への移行によってファイルと設定を適用するときに使用するオプショナル・コマンド。受け取った移行ファイルを保存するときは、*smafile* を使用します。

コマンド・ファイルの作成

取り込みフェーズで、smabat.exe は、コマンド・ファイルの内容を読み取り、移行ファイルを作成します。このセクションでは、コマンド・ファイルおよびその中に指定できるステートメントについて説明します。

SMA にはコマンド・ファイルの例 (GUI_default_commands.xml) があり、このファイルをテンプレートとして使用して、コマンド・ファイルをカスタマイズすることができます。 SMA をデフォルトの場所にインストールすると、このファイルは *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハードディスクのドライブ名です。

注: SMA 6.0 では、XML テクノロジーを使用して、コマンド・ファイル内のコマンドを記述します。 SMA 6.0 はバージョン 4.2 のコマンド・ファイルを扱えるように設計されています。古いコマンド・ファイルを使用するために、バージョン 6.0 と 5.2 の互換性に関する詳しい情報が必要な場合は、149 ページの『付録 C. それ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

SMA 6.0 コマンド・ファイルについては、以下の点を考慮に入れてください。

- XML バージョン 1.0 の構文が使用されます。
- コマンド・ファイルでは大文字と小文字が区別されます。
- 各コマンドおよびパラメーター・セクションは、必ず *<TagName>* で始まり、*</TagName>* で終わり、これらのタグの間にその値を指定する必要があります。

- 構文エラーがあると、SMA の実行時にエラーになります。SMA にエラーが発生すると、SMA はエラー・メッセージをログ・ファイルに書き込んで操作を続行します。重大なエラーの場合は、正しい最終結果が得られない可能性があります。

コマンド・ファイルで使用できるコマンド

表 6 は、コマンド・ファイルで使用可能なコマンドについて説明します。ただし、ファイル移行またはレジストリーに関するものは除きます。

現行ログオン・ユーザーが特定のフォルダーやそのサブフォルダーを指定するときは、Windows 環境変数 (%windir%、%USERPROFILE%、%ProgramFiles% など) を使用することができます。

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<Password>	<PlainPassword>	パスワードを使用して移行ファイルを暗号化するには、<PlainPassword> を 6 から 16 文字の英数字ストリングに設定します。 コマンド行プロンプトから smabat.exe に /p パラメーターを指定して実行すると、ユーザーが指定するパスワードによってコマンド・ファイルで設定されたパスワードが上書きされます。 PC から PC への移行においては、SMA 移行ファイルを作成するためにパスワードを設定したときにのみパスワード・オプションは働きます。

<TransferMode>	<mode>	PC から PC への移行を実行するには、このパラメーターを P2P に設定します。設定しない場合は、何も指定しないでおきます。
		
		例:
		
		PC から PC への接続を介して移行する場合
		
		`<TransferMode>`
		`  <mode>P2P</mode>`
		`</TransferMode>`
		
		移行ファイルによって移行する場合
		
		`<TransferMode>`
		`  <mode></mode>`
		`</TransferMode>`

<P2P>	<connection_id>	ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間で PC から PC への接続を確立するには、英数字ストリングを指定します。
		
		例:
		
		`<P2P>`
		`  <connection_id>mykeyword</connection_id>`
		`</P2P>`

<FilesAndFolders>	<run>	ファイル移行コマンドを使用可能にするには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例

<ArchiveFile>	<filename>	移行ファイルのパス名とファイル名を指定するには、移行ファイルのパス名とファイル名に <filename> を設定します。
		
		例:
		
		`<ArchiveFile>`
		`<filename>C:¥SMA5¥MyData.sma</filename>`
		`</ArchiveFile>`
		
		以下のように表記することにより、移行ファイルの場所を指定することもできます。
		
		`¥¥my computer¥temp¥MyData.sma`
		
		デフォルトで、移行ファイルには以下のファイルが入っています。
		
		• ***.sma ：**
		基本移行ファイル
		• ***.sma.DriveC ：**
		ドライブ C: 用の移行ファイル
		• ***.sma.DriveX ：**
		ドライブ X 用の移行ファイル: (ユーザーがドライブ X の移行ファイルを選択したイベントのとき)
		
		SMA5.0 または SMA5.1 と同じ移行ファイル・フォーマットにしたい場合は、この表の MISC セクションの quick_zip_mode オプションを参照してください。

<Desktop>	• <desktop_settings>
	• <accessibility>
	• <active_desktop>
	• <colors>
	• <desktop_icons>
	• <display>
	• <icon_metrics>
	• <keyboard>
	• <mouse>
	• <pattern>
	• <screen_saver>
	• <sendto_menu>
	• <shell>
	• <sound>
	• <start_menu>
	• <taskbar>
	• <time.zone>
	• <wallpaper>
	• <window_metrics>
		デスクトップ設定を選択するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
		
		例:
		
		`<Desktop>`
		`<colors>true</colors>`
		`<desktop_icons>true</desktop_icons>`
		`<screen_saver>true</screen_saver>`
		`<start_menu>false</start_menu>`
		`<time_zone>true</time_zone>`
		`</Desktop>`

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<Network>	• <ip_subnet_gateway_configuration> • <dns_configuration> • <wins_configuration> • <computer_name> • <computer_description> • <domain_workgroup> • <mapped_drives> • <dialup_networking> • <microsoft_networking> • <odbc_datasources>	ネットワーク設定を選択するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。 例: <Network> <computer_name>true</computer_name> <mapped_drives>false</mapped_drives> </Network>
<Applications>	<Application> サポートされるアプリケーションのリストについては、 103 ページの『第 6 章 移行可能なアプリケーション設定』を参照してください。	サポートされるアプリケーション設定の取り込みまたは適用を行うには、アプリケーション名をパラメーターとしてコマンド・ファイルに指定します。 例: <Applications> <Application>Lotus Notes</Application> <Application>Microsoft Office</Application> </Applications> または <Applications> <Application>$(all)</Application> </Applications>
<IncUsers>	<UserName>	すべてのユーザー・プロファイルを取り込むには、「$(all)」を設定するか、すべてのユーザーを表すワイルドカード文字として「*」を使用します。それ以外の場合は、ユーザーを個別に指定します。次のワイルドカードが使用可能です。 • * は可変長のワイルドカード用です。 • % は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。 例: <IncUsers> <UserName>administrator</UserName> <UserName>Domain¥Jim</UserName> <IncUsers>
<ExcUsers>	<UserName>	移行処理からユーザーを除外するには、ユーザーのドメインおよびユーザー名を指定します。次のワイルドカードが使用可能です。 • * は可変長のワイルドカード用です。 • % は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例

<Printers>	<Printer>
	
	<PrinterName>
	
	<AddPrinter>
	
	<PrinterType>
	
	<PrinterName>
	
	<PortName>
	
	<DriverName>
	
	<InstallExePath>
	
	<InfFilePath>
		この制御ステートメントは、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方で有効です。
		
		すべてのプリンターを取り込むには、このパラメーターを「$(all)」に設定します。それ以外の場合は、各プリンターを個別に指定します。デフォルト・プリンターのみを取り込む場合は、このパラメーターを「$(DefaultPrinter)」に設定します。
		
		例えば、次の例です。
		
		`<Printers>`
		`<Printer>$(all)</Printer>`
		`</Printers>`
		
		`<Printers>`
		`<Printer>`
		`<PrinterName>IBM 5589-L36</PrinterName>`
		`<Printer>`
		`</Printers>`
		
		`<Printers>`
		`<Printer>$(DefaultPrinter)</Printer>`
		`</Printers>`
		
		すべてのプリンターまたはデフォルト・プリンターのいずれも取り込むことができます。個々のプリンターを名前で指定してもかまいません。複数のプリンターを指定した場合は、最初に指定したプリンターのみが処理され、残りは無視され警告メッセージが発行されます。
		
		プリンター設定の移行について詳しくは、 39 ページの『プリンターの移行』を参照してください。新規のプリンターを追加するには、<AddPrinter> タグを使用します。この制御ステートメントは、ターゲット・コンピューターでのみ有効です。
		
		例えば、次のようにします。
		
		`<!-- for OS built-in printer-->`
		`<Printers>`
		`<AddPrinter>`
		`<PrinterType>OS built-in</PrinterType>`
		`<PrinterName>IBM 4029 LaserPrinter</Printer`
		`Name>`
		`<PortName>LPT1:</PortName>`
		`<DriverName>Parallel</DriverName>`
		`<InstallExePath />`
		`<InfFilePath />`
		`</AddPrinter>`
		`</Printers>`

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<Printers> (続き)		<!--for Network printer--> <Printers> <AddPrinter> <PrinterType>Network</PrinterType> <PrinterName>¥¥Server¥IBM 5589-L36 </PrinterName> <PortName /> <DriverName /> <InstallExePath /> <InfFilePath /> </AddPrinter> </Printers> <!-- for UserProvided printer for Setup Install--> <Printers> <AddPrinter> <PrinterType>UserProvided</PrinterType> <PrinterName>My Private Printer </PrinterName> <PortName /> <DriverName /> <InstallExePath>c:¥SMA5¥temp¥printer¥ install.exe</InstallExePath> <InfFilePath /> </AddPrinter> </Printers> <!-- for UserProvided printer for Inf Install (1)--> <Printers> <AddPrinter> <PrinterType>UserProvided</PrinterType> <PrinterName>My Canon Printer</PrinterName> <PortName>USB</PortName> <DriverName>Canon i320</DriverName> <InstallExePath /> <InfFilePath>c:¥myprinter¥i320.inf</InfFile Path> </AddPrinter> </Printers> <!-- for UserProvided printer for Inf Install (2)--> <Printers> <AddPrinter> <PrinterType>UserProvided</PrinterType> <PrinterName>My HP Printer</PrinterName> <PortName>USB</PortName> <DriverName>hp deskjet 995c series </DriverName> <InstallExePath /> <InfFilePath>c:¥HP995C¥hpf995k.inf</InfFile Path> </AddPrinter> </Printers> プリンター設定の移行について詳しくは、 39 ページの『プリンターの移行』を参照してください。

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<MISC>	<bypass_registry>	レジストリー設定の選択をすべて解除するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<overwrite existing files>	既存のファイルを上書きするには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<resolve_icon_links>	アクティブ・リンクが設定されたアイコンのみをコピーするには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<autoreboot>	ターゲット側の移行完了後に、自動的にコンピューターを再起動 (リブート)するには、このパラメーターを「1」に設定します。コンピューターをリブートするかどうかを尋ねるポップアップ・ウィンドウを表示するには、このパラメーターを「2」に設定します。それ以外の場合は、「0」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<PromptBeforeDelayedApply>	SMA がユーザー・データを遅延適用フェーズで移行中であることを示すダイアログ・メッセージを表示するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<quota/>	取り込むことができる解凍データの最大量 (MB 単位) を指定するには、このパラメーターを有効な値に設定します。
	<log_file_location>	SMA でログ・ファイルの書き込み先となるディレクトリーを指定するには、完全修飾ディレクトリー名を入力します。他のコンピューターの共用ディレクトリーを指定できます。 このパラメーターを設定しない場合、SMA ではログ・ファイルが d:¥SMA_Installed_Directory に書き込まれます。ここで、*d* はハードディスクのドライブ名、¥SMA_Installed_Directory は SMA のインストール先ディレクトリーです。
	<file_span_size>	サイズを KB で指定します。このサイズに達した移行ファイルは分割されます。
	<user_exit_after_apply>	移行が完了した後でアプリケーションを起動するには、このパラメーターを実行可能ファイルの完全修飾名に設定します。
	<user_exit_after_capture>	移行ファイルを作成した後にアプリケーションを起動するには、このパラメーターを実行可能ファイルの完全修飾名に設定します。
	<cancel_logon_user>	ソース PC ログオン・ユーザー設定をターゲット PC ログオン・ユーザーに適用しない場合は、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<P2PArchiveFile >	PC から PC への接続を介してターゲット・コンピューターに移行ファイルを保存するには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
	<compression_level>	移行ファイルを圧縮するには、このパラメーターを「1」に設定します。それ以外の場合は、0 に設定するか、何も指定しないでおきます。

表 6. コマンド・ファイルで使用できるコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
<MISC> (続き)	<quick_zip_mode>	移行ファイルを高速モードで作成する場合は、このパラメーターを「true」に設定するか、何も指定しないでおきます。それ以外の場合は、「false」に設定します。 デフォルトで、移行ファイルには以下のファイルが入っています。 • ***.sma** : 基本移行ファイル • ***.sma.DriveC** : ドライブ C: 用の移行ファイル • ***.sma.DriveX** : ドライブ X 用の移行ファイル: (ユーザーがドライブ X の移行ファイルを選択したイベントのとき) SMA5.0/5.1 と同じ移行ファイル・フォーマットにするには、このパラメーターを「false」に設定します。
	<temp_file_location>	SMA が一時ファイルを書き込むディレクトリーを指定するには、完全修飾ディレクトリー名を入力します。他のコンピューターの共用ディレクトリーを指定できます。 このパラメーターを設定しない場合、SMA では一時ファイルが d:¥_SMA に書き込まれます。ここで、d は SMA のインストール先ハードディスクのドライブ名です。

<Registries>	<Registry>
	<hive>
	<keyname>
	<value>
		レジストリー設定の取り込みまたは適用を行うには、コマンド・ファイルのパラメーターとして hive、keyname、および value を指定します。
		
		例えば、次の例です。
		`<Registry>`
		`<hive>HKCU</hive>`
		`<keyname>Software¥Lenovo¥SMA</keyname>`
		`<value></value>`

ファイル移行コマンド

SMA でのファイル移行コマンドの処理は、最初にファイル組み込みコマンド、次に、その組み込みファイルに対応するファイル除外コマンド、という順序で行われます。 SMA 4.2 で必要であった、ファイルの組み込みコマンドと除外コマンドの処理順序を指定する必要はなくなりました。

SMA では、ソース・コンピューター上のファイルとフォルダーの元の場所に応じて、ファイルが選択および選択解除されます。宛先パラメーターは移行ファイルに保存され、適用フェーズで解釈されます。

ファイル名とディレクトリー名の処理では、大文字と小文字は区別されません。

35 ページの表 7 では、ファイル移行コマンドについて説明します。すべてのファイル移行コマンドはオプションです。

表 7. ファイル移行コマンド

コマンド	パラメーター	作業の内容

<FilesAndFolders>	<run>	ファイル移行の取り込みまたは適用を行うには、このパラメーターを「true」に設定します。それ以外の場合は、「false」に設定するか、何も指定しないでおきます。
		
		例:
		
		`<FilesAndFolders>`
		` <run>true</run>`
		`</FilesAndFolders>`

<ExcludeDrives>	<Drive>	スキャンの対象から除外する各ドライブのドライブ名を指定します。
		
		例:
		
		`<ExcludeDrives>`
		` <Drive>D</Drive>`
		` <Drive>E</Drive>`
		`</ExcludeDrives>`

表 7. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容
<Inclusions>	<IncDescription> <Description> <DateCompare> <Operand> <Date> <SizeCompare> <Operand> <Size> <Dest> <Operation> ここで、 <Description> は完全修飾ファイル名です。ファイル名とフォルダー名に対してワイルドカード文字を使用できます。 <DateCompare> は、作成日に基づいてファイルを指定するためのオプショナル・パラメーターです。 – <Operand> は NEWER または OLDER のいずれかです。 – <Date> は基本となる日付で、mm/dd/yyyy 形式で表します。 <SizeCompare> は、サイズに基づいてファイルを選択するためのオプション・パラメーターです。 – <Operand> は LARGER または SMALLER のいずれかです。 – <Size> は MB 単位でのファイル・サイズです。 <Dest> は、ターゲット・コンピューター上の、ファイルが書き込まれる宛先フォルダーの名前を指定するオプショナル・パラメーターです。	指定されたディレクトリーに入っているすべての一致ファイルを検索します。 例 1 <IncDescription> <Description>c:¥MyWorkFolder¥ /s</Description> </IncDescription> **注:** フォルダー名を指定するには、記述の最後に「¥」を付加します。 例 2 <IncDescription> <Description>C:¥MyWorkFolder¥*.*</Description> <DateCompare> <Operand>NEWER</Operand> <Date>07/31/2005</Date> </DateCompare> </IncDescription> 例 3 <IncDescription> <Description>C:¥MyWorkFolder¥*.*</Description> <SizeCompare> <Operand>SMALLER</Operand> <Size>200</Size> </SizeCompare> </IncDescription> 例 4 <IncDescription> <Description>C:¥MyWorkFolder¥*.*</Description> <Dest>D:¥MyNewWorkFolder</Dest> <Operation>P</Operation> <IncDescription>

表 7. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容
<Inclusions> (続き)	• <Operation> は、ファイル・パスの処理方法を指定するオプショナル・パラメーターです。以下のいずれかを指定します。 – 「P」は、ファイルのパスを保存し、<Dest> パラメーターで指定された場所から始まるターゲット・コンピューターにファイルを再作成します。 – 「R」 は、ファイルのパスを除去し、<Dest> パラメーターで指定された場所にファイルを直接入れます。	

表 7. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容
<Exclusions>	<ExcDescription> <Description> <DateCompare> <Operand> <Date> <SizeCompare> <Operand> <Size> ここで、 • <Description> は、完全修飾ファイル名またはフォルダー名です。ファイル名とフォルダー名に対してワイルドカード文字を使用できます。 • <DateCompare> は、作成日によってファイルを選択するためのオプション・コマンドです。 – <Operand> は NEWER または OLDER のいずれかです。 – <Date> は基本となる日付で、mm/dd/yyyy 形式で表します。 • <SizeCompare> は、サイズによってファイルを選択するためのオプション・パラメーターです。 – <Operand> は LARGER または SMALLER のいずれかです。 – <Size> は MB 単位でのファイル・サイズです。	指定されたディレクトリーに入っているすべての一致ファイルを選択解除します。 例 1 <ExcDescription> <Description>C:¥YourWorkFolder¥</Description> </ExcDescription> 例 2 <ExcDescription> <Description>C:¥YourWorkFolder¥</Description> <DateCompare> <Operand>OLDER</Operand> <Date>07/31/2005</Date> </DateCompare> </ExcDescription> 例 3 <ExcDescription> <Description>C:¥YourWorkFolder¥</Description> <SizeCompare> <Operand>LARGER</Operand> <Size>200</Size> </SizeCompare> </ExcDescription>

注:

ファイル移行コマンド用 XML ファイルでは、<Inclusions></Inclusions> および <Exclusions></Exclusions> セクションのすべての <IncDescription> </IncDescription> および <ExcDescription></ExcDescription> タグは、たとえ、サブタグに実際の値がない場合であっても同じサブタグ構造を持つ必要があります。

例:

```
<IncDescription>
 <Description>E:¥TempBox¥src¥test.fm</Description>
 <Dest></Dest>
 <Operation></Operation>
</IncDescription>
<IncDescription>
 <Description>E:¥TempBox¥src¥test.fm</Description>
 <Dest>E:¥TempBox¥tar</Dest>
 <Operation>r</Operation>
</IncDescription>
<IncDescription>
 <Description>E:¥TempBox¥src¥test.fm</Description>
 <Dest></Dest>
 <Operation></Operation>
</IncDescription>
```

プリンターの移行

ターゲット・コンピューター用にプリンター設定を指定する方法は 2 つあります。1 つは <Printer> タグを使用してソース・コンピューターからプリンター設定を移行する方法、もう 1 つは <AddPrinter> タグを使用して新規のプリンターをインストールする方法です。

使用できるプリンターは、以下のとおりです。

OS 組み込みプリンター
: このプリンター名は *ntprint.inf* ファイルにあります。

ネットワーク・プリンター
: このプリンター名は、認識されるネットワーク・プリンターのリストにあります。

ユーザー提供のプリンター
: 上記 2 種類以外のすべてのプリンター。

注:

1. SMA によって移行できないプリンターは、SMA GUI のプリンターのリストには表示されません。
2. すべてのプリンターは、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方からネットワークを通じて認識可能である必要があります。
3. LPR ポート・プリンターを移行するには、ターゲット PC に 印刷サービスがインストールされている必要があります。
   - Windows 2000 または XP の場合:

   「**スタート**」をクリックし、「**コントロール パネル**」を選択します。「**プログラムの追加と除去**」をダブルクリックし、次に「**Windows コンポーネント**

の追加と除去」を選択します。 「**そのほかのネットワークファイルと印刷サービス**」チェック・ボックスを選択し、「**プロパティー**」をクリックして、次に「**UNIX 用印刷サービス**」チェック・ボックスを選択し「**OK**」をクリックします。

- Windows Vista または Windows 7 の場合:

  「**コントロール パネル**」を開き、「**プログラム**」を選択します。「**Windows 機能をオンまたはオフにする (Turn Windows Features on or off)**」をクリックし、「**印刷サービス**」を展開して、「**LPR ポート・モニター (LPR Port Monitor)**」チェック・ボックスを選択し「**OK**」をクリックします。

表 8 は、プリンターの移行で使用されるタグの組み合わせについて説明します。

表 8. プリンターの移行のタグの組み合わせ

		<AddPrinter> タグ			
				ユーザー提供のプリンター	
タグ名	**<Printer> タグ**	**OS 組み込みプリンター**	**ネットワーク・プリンター**	**セットアップインストール**	**Inf によるインストール**
<PrinterName>	**O**	*	**O**	-	*
<PrinterType>	**X**	**O**	**O**	**O**	**O**
<InstallExePath>	**X**	-	-	**O**	-
<InfFilePath>	**X**	-	-	-	**O**
<PortName>	**X**	**O**	-	-	**O**
<DriveName>	**X**	**O**	-	-	**O**

ここで、

O 必ず指定します。

***** オプションです。値を指定しない場合は、<PrinterName /> などのヌル・タグを追加する必要があります。

- 移行には不要ですが、ヌル・タグが必要です。値を指定しても、移行では無視されます。

X 指定しないでください。

取り込まれたプリンターがソース PC でデフォルト・プリンターとして設定されている場合は、ターゲット PC でもデフォルト・プリンターとして設定する必要があります。ソース PC のデフォルト・プリンターがターゲット PC に移行されない場合は、OS がデフォルト・プリンターとしてどのプリンターを設定するかを判断します。

SMA を使用する場合、すべてのプリンターに共通な設定のみを移行できます。プリンターのベンダー固有の設定は移行できません。

ソース・コンピューターで OS 組み込みプリンター・ドライバーの改訂バージョンを手動でインストールした場合は、そのドライバーの元のバージョンがターゲット PC にインストールされます。ターゲット PC に OS 組み込みプリンター・ドライバーの改訂バージョンをインストールするには、<AddPrinter> タグを使用してそのバージョンを指定します。

ユーザー提供のプリンターの移行

指定したプリンターが OS に組み込まれたプリンターでない場合は、ユーザーが提供するインストール・パッケージを使用することにより SMA はインストールします。この機能はターゲット PC のみで使用できます。ソース PC から取り込まれた情報は無視されます。ユーザーは、ターゲット・コンピューター上のインストール・パッケージへの絶対パスを指定して、インストール・パッケージを提供する必要があります。さらに、パッケージ内のインストーラー・プログラムを指定する必要があります。次の例では、コマンド・ファイルにユーザー提供のプリンターを指定する方法を示します。

```
<Printers>

<!-- For Setup Install -->
  <AddPrinter>
   <PrinterType>UserProvided</PrinterType>
   <PrinterName>My Private Printer</PrinterName>

<InstallExePath>c:¥SMA5¥temp¥printer¥install.exe</InstallExePath>
   <InfFilePath />
   <PortName />
   <DriverName />
  </AddPrinter>

<!-- For Inf Install -->
  <AddPrinter>
   <PrinterType>UserProvided</PrinterType>
   <PrinterName>My Private Printer</PrinterName>
<InstallExePath />
   <InfFilePath>c:¥Windows¥inf¥myprinter.inf</InfFilePath>
   <PortName>USB</PortName>
   <DriverName>IBM Generic USB Printer</DriverName>
  </AddPrinter>

</Printers>
```

ネットワーク・プリンターの移行

ネットワーク・プリンターを識別するために、以下の主要情報が取り込まれます。

- プリンター名
- サーバー名

取り込みフェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターがネットワーク・プリンターのリストにあると、そのプリンターが取り込まれます。「$(all)」を指定すると、リストされたすべてのプリンターが取り込まれます。

適用フェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターが、移行ファイルのネットワーク・プリンターのリストにあると、そのプリンターがインストールされます。「$(all)」を指定すると、取り込まれたすべてのプリンターがインストールされます。

ネットワーク上で認識されるプリンターのみが、ターゲット PC でネットワーク・プリンターとしてインストールできます。

OS 組み込みプリンターの移行

OS 組み込みプリンターを識別するために、以下の主要情報が取り込まれます。

- プリンター名
- モニターの設定
- ポート名
- ドライバーの設定

取り込みフェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターが ntprint.inf ファイルの OS 組み込みプリンターのリストにあると、そのプリンターが取り込まれます。「$(all)」を指定すると、リストされたすべてのプリンターが取り込まれます。

適用フェーズでは、<Printer> セクション内の <PrinterName> タグによって名前が囲まれたプリンターが、OS 組み込みプリンターの 1 つとして ntprint.inf ファイルにリストされていると、そのプリンターがインストールされます。

ファイル移行コマンドの例

このセクションでは、ファイル移行コマンドの例を示します。これらの例は、ファイル選択を絞り込むために、ファイル組み込みコマンドとファイル除外コマンドを結合する方法を示しています。コマンド・ファイルのファイル処理セクションのみを示します。

取り込みフェーズでのファイルの選択

このセクションでは、取り込みフェーズでファイル選択のために使用する 4 つのコードの例を示します。

例 1: 次のコードでは、拡張子が .doc (Microsoft Word 文書) のすべてのファイルを選択し、それらのファイルを「d:¥My Documents」ディレクトリーに移動します。この例は次に、d:¥No_Longer_Used ディレクトリーに入っているすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
  <Description>*:¥*.doc /s</Description>
   <Dest>d:¥My Documents</Dest>
   <Operation>r</Operation>
 <IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>d:¥No_Longer_Used¥</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

例 2: 次のコードでは、*d* ドライブの内容を選択し、*d* ドライブのルートにあるすべてのファイルと拡張子 .tmp のすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
  <Description<d:¥*.* /s</Description>
 </IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>d:¥*.*</Description>
```

```
 </ExcDescription>
 <ExcDescription>
  <Description>*:¥*.tmp /s</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

例 3: 次のコードでは、c: ドライブの内容全体を選択し、Windows ディレクトリーを指定する %windir% の下にあるすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
   <Description>C:¥*.* /s</Description>
 </IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>%windir%¥</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

例 4: 次のコードでは、現在ログオンしているユーザーのユーザー・プロファイル・パスである %USERPROFILE% フォルダーの内容全体を選択し、拡張子が .dat で、なおかつ「Local Settings」サブフォルダー内にあるすべてのファイルを除外します。

```
<Inclusions>
 <IncDescription>
  <Description>%USERPROFILE%¥</Description>
 </IncDescription>
</Inclusions>
<Exclusions>
 <ExcDescription>
  <Description>%USERPROFILE%¥*.dat</Description>
 </EcxDescription>
 <ExcDesctription>
  <Description>%USREPROFILE%¥Local Settings¥</Description>
 </ExcDescription>
</Exclusions>
```

注: ファイルやサブフォルダーを記述する場合は、それぞれの環境変数のすぐ後に円記号 (¥) を追加する必要があります。

自動リブート

このオプションは、<MISC></MISC> セクションの「autoreboot」キーワードを使用してコマンド・ファイルの中で指定されます。

指定可能な値は以下のとおりです。

0 (デフォルト)
: バッチ適用処理の最後で、コンピューターを自動的にリブートしません。この設定を有効にするには、後でコンピューターを手動でリブートする必要があります。

1
: バッチ適用処理の最後で、コンピューターを自動的に再起動します。

2
: SMA が、リブートを即時に行うかどうかを選択するためのプロンプトを出します。バッチ処理中であってもポップアップ・ウィンドウが表示されます。この場合、必ずユーザーが介入する必要があります。

```
<MISC>
 <autoreboot>2</autoreboot>
</MISC>
```

コマンド・ファイル・テンプレートの作成

GUI を使用してコマンド・ファイル・テンプレートを作成することができます。次に、 SMA は、実際の移行ファイルを作成する代わりに、取り込みたい設定のタイプを取り込みます。この情報はコマンド・ファイルに書き込まれるので、このコマンド・ファイルを使用して移行ファイルをバッチ・モードで取り込むことができます。

注: ファイルの移行は 2 つのモードでは異なる処理をされるため、GUI を使用してファイル移行コマンドをコマンド・ファイル・テンプレートに追加することはできません。

コマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、次のようにします。

1. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで開きます。SMA をデフォルトの場所にインストールすると、このファイルは *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハードディスクのドライブ名です。
2. SMA が移行ファイルを作成しないようにするには、Just_Create_Command File オプションを次のストリングに変更します。

   ```
   Just_Create_Command_File = Yes
   ```
3. テンプレート・ファイルの名前とパスを指定するように Export_Command_File オプションを変更します。デフォルトでは、Export_Command_File は d:¥Program FIles¥ThinkVantage¥SMA¥etc¥data¥commands.xml ファイルに設定されます。*d* はハードディスクのドライブ名です。
4. SMA を開始し、取り込みフェーズを実行します。テンプレート・ファイル内の移行ファイルの場所と名前を取り込むには、「移行ファイルの場所 (Migration file Location)」ウィンドウを使用します。ただし、実際の移行ファイルは作成されません。
5. (オプション) ファイル移行コマンドを追加したい場合は、テンプレート・ファイルを編集し、適切な変更を行います。詳しくは、34 ページの『ファイル移行コマンド』 を参照してください。
6. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで再オープンし、Command_File および Just_Create_Command_File オプションをデフォルト設定に戻します。

バッチ・モードでの移行ファイルの適用

適用フェーズでは、smabat.exe ファイルが移行ファイルの内容をターゲット・コンピューターにコピーします。移行ファイルを適用する前にそれを変更することができます。以下の 2 つの例では、移行ファイルを適用するための **smabat** コマンドの使用方法を示しています。

最初の例では、選択した移行ファイル (receptionist.sma) がターゲット・コンピューターに適用されます。

```
smabat /a /n "c:¥sma_migration files¥receptionist.sma"
```

2 番目の例では、選択した移行ファイルを変更した後にターゲット・コンピューターに適用します。これらの変更は、EntryLevel.xml コマンド・ファイルに指定されます。

```
smabat /a c:¥EntryLevel.xml /n "c:¥sma_migration files¥receptionist.sma"
```

バッチ・モードで移行ファイルを適用する場合は、以下の点に注意してください。

- 指定された移行ファイルに設定やファイルを追加することができない。
- 適用フェーズでファイル除外コマンドを処理するときに、SMA は、取り込みフェーズで指定された宛先場所を使用せずに、ソース・コンピューター上のファイルとフォルダーのオリジナル場所を使用する。
- <ExcludeDrives> コマンドは無視される。

ファイルを、それと同名のファイルがすでに含まれているディレクトリーに移動する場合、コマンド・ファイルの <overwrite_existing_files> パラメーターがゼロに設定されているか、このパラメーターが指定されていないときは、コピーされるファイルの名前に数値文字列が付加されます。 例えば、宛先ディレクトリーにすでに readme.txt ファイルが含まれている場合は、コピーされるファイルが readme_01.txt に名前変更されます。readme.txt という名前のファイルがこのディレクトリーに移動されるたびに、付加される数値文字列は増分され、readme_02.txt や readme_03.txt などというようにファイル名が変更されます。

バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行

バックグラウンド・ローカル・ユーザーをバッチ・モードで移行するには、次のようにします。

1. ローカル管理者アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
2. オプション /c (ここで、移行するローカル・ユーザーが次のようにコマンド・ファイルで指定される) を指定して SMABAT.EXE を起動します。

   ```
   <IncUsers>
    <UserName>localuser1</UserName>
    <UserName>localuser2</UserName>
    <UserName>localuser3</UserName>
   </IncUsers>
   ```

   ユーザーを指定するとき、ワイルドカードを使用できます。すべてのローカル・ユーザーを移行するには、(*) を次のように使用します。

   ```
   <IncUsers>
    <UserName>*</UserName>
   </IncUsers>
   ```

3. ローカル管理者アカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします。
4. SMABAT.EXE ファイルをオプション /a (ここで、SMA 移行ファイルが指定される) で起動します。
5. コンピューターを再起動します。

SMA は、ターゲット・コンピューターのローカル・ユーザー・アカウントに設定を適用します。ローカル・ユーザーがターゲット・コンピューターにログオンすると、処理は自動的に起動されます。

6. ローカル・ユーザーにログオンします。
7. SMA の遅延適用タスクは自動的に開始します。

注: ステップ 4 でローカル・ユーザー・アカウント (1 つまたは複数) を移行する場合、SMA 移行ファイルをネットワーク・ドライブまたはリムーバブル・ディスクに保存すると、遅延適用タスクの場合、リブート後に SMA がそのドライブにアクセスできなくなる可能性があります。共用ネットワーク・ドライブを使用する必要がある場合は、次のステートメントをコマンド・ファイルに追加してください。

```
<PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
```

このステートメントを追加すると、遅延適用フェーズの開始前にプロンプトが現れます。このプロンプトが表示されている間に、ネットワーク接続を確立することができます。

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行するには、次のようにします。

1. ドメイン・コントローラーが移行ソース・コンピューターからネットワークを通して認識可能であることを確認します (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
2. ローカル管理者アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
3. オプション /c (ここで、移行するドメイン・ユーザーが次のようにコマンド・ファイルで指定される) を指定して SMABAT.EXE を起動します。

   ```
   <IncUsers>
    <UserName>ourdomain¥domainuser1</UserName>
    <UserName>ourdomain¥domainuser2</UserName>
    <UserName>ourdomain¥domainuser3</UserName>
   </IncUsers>
   ```

   ユーザーを指定するとき、ワイルドカードを使用できます。すべてのドメイン・ユーザーを移行するには、(*) を次のように使用します。

   ```
   <IncUsers>
    <UserName>*¥*</UserName>
   </IncUsers>
   ```

4. ドメイン・コントローラーがターゲット・コンピューターからネットワークを介して認識可能であることを確認します (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
5. ターゲット・コンピューターがドメインのメンバーであることを確認します。この確認を行うには、「システムのプロパティー」の「コンピューター名」タブを開き、そのパネルの「ドメイン」設定を確認します。ドメイン名が表示されていれば、ターゲット・コンピューターはそのドメインのメンバーということです。ドメイン名が表示されていない場合は、「変更」ボタンを押し、「コンピューター名の変更」パネルの指示に従ってそのコンピューターをドメインのメンバーとして入力します。
6. ローカル管理者アカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。

7. SMABAT.EXE をオプション /a (ここで、SMA 移行ファイルが指定される) で起動します。
8. コンピューターを再起動します。

SMA は、ターゲット・コンピューターのドメイン・ユーザー・アカウントに設定を適用します。ドメイン・ユーザーがターゲット・コンピューターにログオンすると、処理は自動的に起動されます。

9. ドメイン・ユーザーにログオンします。ドメイン・ユーザーが最初にログオンすると、Windows オペレーティング・システムが自動的に新規ユーザー・プロファイルを作成します。これには数分かかることがあります。
10. SMA の遅延適用タスクが自動的に実行を開始します。

注: ステップ 8 でドメイン・ユーザー・アカウント (1 つまたは複数) を移行する場合、SMA 移行ファイルをネットワーク・ドライブまたは取り外し可能ドライブに保存すると、遅延適用タスクの場合、再起動後に SMA がそのドライブにアクセスできなくなる可能性があります。共用ネットワーク・ドライブを使用する必要がある場合は、次のステートメントをコマンド・ファイルに追加してください。

```
<PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
```

このステートメントを追加すると、遅延適用フェーズの開始前にプロンプトが現れます。このプロンプトが表示されている間に、ネットワーク接続を確立することができます。

SMABAT の戻りコード

表 9. SMABAT の戻りコード

戻りコード	説明
0	正常終了。
901	lang.dll ファイルのロード・エラーです。
902	パラメーターが指定されていません。
903	オンライン・ヘルプ・ファイルを表示してください。
904	プロファイルが欠落しています。
905	パスワードが必要です。
906	複数の移行モードが指定されています。
907	無効なコマンド・ファイルが指定されています。
908	無効なユーザー名が指定されました。
909	無効なプロファイル・ファイルが指定されています。
910	一時ファイルの場所が必要です。
911	ログ・ファイルの場所が必要です。
912	TSM パスワードが必要です。
913	ドメイン・ユーザー・アカウント名が必要です。

表 9. SMABAT の戻りコード (続き)

戻りコード	説明
914	ドメイン・ユーザー・アカウント・パスワードが必要です。
915	ドメイン・ユーザー・アカウント・パスワードが指定されています。
916	入力パラメーターが無効です。
917	必要なディスク・サイズが空きディスク・スペースより大きいです。
918	コマンド・ファイルのインポートに失敗しました。
919	IBM マシンではありません。
920	フレームワークの初期化に失敗しました。
921	P2P キーワードの拡張環境ストリングのエラーです。
922	P2P セットアップの失敗です。
923	TSM モードのエラーです。
924	別の smabat.exe が実行中です。
925	抽出コマンドのみ。
926	アーカイブ・ファイルの抽出に失敗しました。
927	Get User List のエラーです。
928	Get App List のエラーです。
929	Get Printer List のエラーです。
931	CSmaBat フレームワークの作成に失敗しました。
932	CSmaLangResource の作成に失敗しました。
933	BIOS 設定を確認してハードウェア障害を識別してください。
934	CArrayPrinterGuiInfo の作成に失敗しました。

表 9. SMABAT の戻りコード (続き)

戻りコード	説明
999	エラー・コード 999 が戻される原因は、以下のいずれかです。 • SMA バッチの作成に失敗した。 • SMA バッチの言語リソース内に不明のエラーが発生した。 • カレントのマシンが IBM または Lenovo 製ではない。 • プリンターに不明のエラーが発生した。 • 取り込みまたは適用ボタンを使用する 1 つ以上のプラグインの実行が失敗した。例えば、デスクトップ・アイコンのプラグインが失敗しても、他のプラグインには影響しません。しかし、FileAndFolder プラグインが失敗すると、詳細な重大度は詳細ログを表示することで決定されます。 • 何らかの未処理例外が発生した。

第 5 章 移行の参考例

この章では、System Migration Assistant の移行の参考例を説明するいくつかのシナリオを示します。示すシナリオは次のとおりです。

- シングル・ユーザーの移行
- シングル・ドメイン・ユーザーの移行
- マルチユーザーのバッチ・モードでの移行
- マルチユーザーのバッチ・モードでの移行
- マルチユーザーの移行
- マルチユーザーの移行

シナリオ 1: シングル・ユーザーの移行

操作の概要

SMA の自動インストールを開始するには、エンド・ユーザーは共用ドライブ上のインストール用バッチ・コマンド・ファイルをダブルクリックします。インストールが完了すると、GUI モードの移行が自動的に開始します。取り込み操作を開始するには、コンピューターの選択画面が表示されたら、エンド・ユーザーは「**ソース・コンピューター**」を選択します。 SMA がソース・コンピューターで取り込み操作を完了すると、サーバーの共用フォルダーに移行ファイルが作成されます。次に、ターゲット PC のエンド・ユーザーは、コンピューターの選択画面が表示されたら「**ターゲット・コンピューター**」を選択することにより適用フェーズを開始します。SMA は共用フォルダー上の移行ファイルを検索し、データと設定の適用を開始します。

移行の条件

シングル・ユーザーの移行条件を表 10 に要約して示します。

表 10. シングル・ユーザーの移行条件

項目	ソース PC	ターゲット PC
操作者	エンド・ユーザー	エンド・ユーザー
Windows OS のバージョン	Windows 2000 Professional	Windows XP、Windows Vista、または Windows 7 (ターゲット OS が Windows Vista または Windows 7 の場合、System Migration Assistant はファイルとフォルダーのみが移行できます。)
ログオン・ユーザー・アカウントのタイプ	(デフォルト)	ローカル管理者
ツール (SMABAT または SMA)	SMA	SMA

表 10. シングル・ユーザーの移行条件 (続き)

項目		ソース PC	ターゲット PC
接続 (ファイルまたは PC から PC)		X: にマップされたドライブ上に配置されるファイル。 X:¥FileName	
移行される設定	デスクトップ設定	デスクトップ・アイコン タスクバー 壁紙	
	ネットワーク設定	マップされたドライブ ODBC データ・ソース	
	アプリケーション設定	Microsoft Access Microsoft Word Microsoft Excel Microsoft PowerPoint Microsoft Internet Explorer Microsoft Outlook	
	プリンター設定		
	移行されるファイルとフォルダー	C:¥My Documents *.mp3	
	移行から除外されるファイルとフォルダー	IE Cookies IE 一時ファイル	

移行前に管理者が実施する作業

1. サーバー上に次の 2 つの共用フォルダーを準備します。

   SMA_セットアップ用の SMA_Inst

   SMA_移行ファイルを置くための SMA_Files
2. SMA_Inst フォルダーに次のファイルを準備します。

   SMA GUI をカスタマイズするための config.ini

   移行コマンドをカスタマイズするための GUI_default_commands.xml

   SMA をインストールするための SMASetup.exe

   上記ファイルをセットアップするための Capture.bat と Apply.bat

移行前にエンド・ユーザーが実施する作業

ソースおよびターゲットの両 PC から SMA_Inst 共用フォルダーを Y: ドライブとしてマップします。
ソースおよびターゲットの両 PC から SMA_Files 共用フォルダーを X: ドライブとしてマップします。

移行中に管理者が実施する作業

何もありません

移行中にエンド・ユーザーが実施する作業

ソース PC で以下を行います。

1. Y: ドライブ上の Capture.bat ファイルをダブルクリックして SMA セットアップを開始します。
2. GUI モードの移行が開始したら、移行する設定に応じてアプリケーションを選択し、次に移行するファイルとフォルダーを選択します。
3. 「**名前を付けて保存**」ダイアログ・ウィンドウが開いたら、X: ドライブに移行ファイル名を指定します。
4. 取り込み操作が完了すると、移行ファイルが X:¥ ドライブに作成されます。
5. ターゲット PC の操作に移ります。

ターゲット PC で以下を行います。

1. Y: ドライブ上の Apply.bat ファイルをダブルクリックして SMA セットアップを開始します。OS が Windows Vista または Windows 7 で、管理者アカウントにログオンしているときは、「管理者として実行」オプションを指定した Apply.bat を使用して SMA のセットアップを開始します。
2. GUI モードの移行が開始し、移行方法の選択画面が表示されたら「**カスタム移行**」「**ターゲット**」「**移行ファイル**」を選択します。
3. 「**ファイルを開く**」ダイアログ・ウィンドウが開いたら、X:¥ ドライブの移行ファイルを選択します。ここで、移行するすべてのアプリケーション設定、ファイル、およびフォルダーが取り込まれていることを確認します。
4. 移行が完了したら、コンピューターを再起動して、選択された設定がすべて正しく移行されたことを確認します。

config.ini ファイルの例

```
;******************************************************************************
;
;    CONFIG.INI
;
; This file is intended for use with SMA version 6.0. It is used to override
; default settings within SMA.
;
; Important: Any text that appears after a semicolon ";" will be treated as a
;            comment.  The semicolon must appear at the beginning of the text
;            and must not be preceded by other characters.  Also, the text
;            in this file is not case sensitive.
; For example: C:¥COMMANDS.XML is treated exactly the same as
;         c:¥commands.xml.
;
;******************************************************************************
;------------------------------------------------------------------------------
;    GLOBAL OPTIONS
;------------------------------------------------------------------------------
Configuration_File_Show_Configuration_Messages = no
Import_Command_File = GUI_default_commands.xml
Import_Command_File_For_Apply = GUI_default_commands_apply.xml
Export_Command_File =
Just_Create_Command_File =
Verbose_Logging = yes
Enable_4GFat32_warning = yes
Preprocess Executable =
; Set YES/NO to display/hide the previous file selection dialog
Show_Previous_File_Selection_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the message for P2P migration
```

```
Show_P2P_Messagebox = no
; Set YES/NO to display/hide the file dialog to open and save migration file
Show_File_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the start processing message dialog
Show_Start_Processing_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the reboot message dialog
Show_Reboot_Dialog = yes
; Set YES/NO to display/hide the progress dialogs
Show_All_Progressbar_Dialogs = yes
; Set YES/NO to display/hide the all warning message dialogs
Show_All_Warning_Dialogs = yes
; Set YES/NO to enable/disable password protection
Enable_Password_Protection = no


;-------------------------------------------------------------------------------
;    SHOW/NOT SHOW PAGE OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Splash_Page_Show_Page = no
Welcome_Page_Show_Page = no
Begin_Page_Show_Page = no
TopOptions_Page_Show_Page = no
MigOptions_Page_Show_Page = no
Profiles_Page_Show_Page = no
Desktop_Page_Show_Page = no
Applications_Page_Show_Page = yes
Network_Page_Show_Page = no
Printers_Page_Show_Page = no
Selection_Page_Show_Page = yes
AutoManual_Page_Show_Page = no
P2P_Logon_Page_Show_Page = no
P2P_Auto_SRC_Page_Show_Page = no
P2P_Manual_TGT_Page_Show_Page = no
P2P_Manual_SRC_Page_Show_Page = no
P2P_SourceIni_Page_Show_Page = no
P2P_Keyword_Page_Show_Page = no
Receive_Data_Page_Show_Page = no
Log_Page_Show_Page = yes
SummaryTypical_Page_Show_Page = yes
;-------------------------------------------------------------------------------
;    WINDOW TITLE OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Welcome_Page_Title =
Begin_Page_Title =
TopOptions_Page_Title =
MigOptions_Page_Title =
Profiles_Page_Title =
Desktop_Page_Title =
Applications_Page_Title =
Network_Page_Title =
Printers_Page_Title =
Selection_Page_Title =
AutoManual_Page_Title =
P2P_Logon_Page_Title =
P2P_Auto_SRC_Page_Title =
P2P_Manual_TGT_Page_Title =
P2P_Manual_SRC_Page_Title =
P2P_SourceIni_Page_Title =
P2P_Keyword_Page_Title =
Receive_Data_Page_Title =
Log_Page_Title =
SummaryTypical_Page_Title =
;-------------------------------------------------------------------------------
;    GUIDANCE TEXT OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Welcome_Page_Guidance_Text =
Begin_Page_Guidance_Text =
```

```
TopOptions_Page_Guidance_Text =
MigOptions_Page_Guidance_Text =
Profiles_Page_Guidance_Text =
Desktop_Page_Guidance_Text =
Applications_Page_Guidance_Text =
Network_Page_Guidance_Text =
Printers_Page_Guidance_Text =
Selection_Page_Guidance_Text =
AutoManual_Page_Guidance_Text =
P2P_Logon_Page_Guidance_Text =
P2P_Auto_SRC_Page_Guidance_Text =
P2P_Manual_TGT_Page_Guidance_Text =
P2P_Manual_SRC_Page_Guidance_Text =
P2P_SourceIni_Page_Guidance_Text =
P2P_Keyword_Page_Guidance_Text =
Receive_Data_Page_Guidance_Text =
Log_Page_Guidance_Text =
SummaryTypical_Page_Guidance_Text =
;-------------------------------------------------------------------------------
;    SPLASH PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Splash_Page_Display_Time =
;-------------------------------------------------------------------------------
;    BEGIN PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
; Set Typical/Custom to perform a Typical/Custom migration.
Begin_Page_Choice_Type =
;-------------------------------------------------------------------------------
;    TOP OPTIONS PAGE
; Note: When you set Begin_Page_Choice_Type = Typical,
;       TopOptions_Page_xxxx options are unavailable.
;-------------------------------------------------------------------------------
; If this is the PC you want to move to, set Target.
; If this is the PC you want to move from, set Source.
TopOptions_Page_Choice_Mode =
; Choose the type of migration you want to perform below.
;  FileTransfer : Copy files and settings using a removable media
;  P2P          :  PCs are directly connected by an ethernet cable
TopOptions_Page_Choice_TransferMode =
; Set yes to perform a Target-Initiated migration,
; or set no to perform a standard migration.
TopOptions_Page_Target_Initiated_Migration =
;-------------------------------------------------------------------------------
;    INSTALL METHOD PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
; Set Network/Media to perform a Auto/Manual migration.
InstallMethod_Page_Choice_Method =
;-------------------------------------------------------------------------------
;    MIGRATION OPTIONS PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Options_Page_Choice_Profiles = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Desktop = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Applications = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Printers = hide,enabled,unchecked
Options_Page_Choice_Network = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Files = display,enabled,checked
;-------------------------------------------------------------------------------
;    DESKTOP PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Desktop_Page_Choice_Desktop_Settings = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Accessibility = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Active_Desktop = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Colors = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Desktop_Icons = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Display = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Icon_Font = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Keyboard = display,enabled
```

```
Desktop_Page_Choice_Mouse = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Pattern = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Screen_Saver = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Send_To_Menu = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Shell = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Sound = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Start_Menu = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Task_Bar = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Time_Zone = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Wallpaper = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Window_Metrics = display,enabled
;-------------------------------------------------------------------------------
;    APPLICATIONS PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Applications_Page_Show_Registry_Button = no
;-------------------------------------------------------------------------------
;    NETWORK PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Network_Page_Choice_TCP_IP_Configuration = display
Network_Page_Choice_IP_Subnet_Gateway = display,enabled
Network_Page_Choice_DNS_Configuration = display,enabled
Network_Page_Choice_WINS_Configuration = display,enabled
Network_Page_Choice_Network_Identification = display
Network_Page_Choice_Computer_Name = display,enabled
Network_Page_Choice_Computer_Description = display,enabled
Network_Page_Choice_Domain_Workgroup = display,enabled
Network_Page_Choice_Other = display
Network_Page_Choice_Mapped_Drives = display,enabled
Network_Page_Choice_Dial_Up_Networking = display,enabled
Network_Page_Choice_Shared_Folders_Drives = display,enabled
Network_Page_Choice_ODBC_DataSources = display,enabled
;-------------------------------------------------------------------------------
;    FILE AND FOLDER SELECTION PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Selection_Page_File_Quota =
Selection_Page_File_Warning_Message =
; Warnings
[Selection_Page_Warning_Extensions_Start]
exe
com
dll
[Selection_Page_Warning_Extensions_End]
```

GUI_default_commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
       <!--
              <comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#1</comment>
              <comment>Migration from Win2000 to Win XP by File Migration</comment>
       -->
       <Password>
              <PlainPassword></PlainPassword>
       </Password>

       <TransferMode>
              <mode>File</mode>
       </TransferMode>

       <P2P>
              <connection_id></connection_id>
       </P2P>

       <FilesAndFolders>
               <run>true</run>
```

```
</FilesAndFolders>

<ArchiveFile>
       <filename>X:¥FileName.sma</filename>
</ArchiveFile>

<Desktop>
     <desktop_settings>false</desktop_settings>
       <accessibility>false</accessibility>
       <active_desktop>false</active_desktop>
       <colors>false</colors>
       <desktop_icons>true</desktop_icons>
       <display>false</display>
       <icon_metrics>false</icon_metrics>
       <keyboard>false</keyboard>
       <mouse>false</mouse>
       <pattern>false</pattern>
       <screen_saver>false</screen_saver>
       <sendto_menu>false</sendto_menu>
       <shell>false</shell>
       <sound>false</sound>
       <start_menu>false</start_menu>
       <taskbar>true</taskbar>
       <time_zone>false</time_zone>
       <wallpaper>true</wallpaper>
       <window_metrics>false</window_metrics>
</Desktop>

<Network>
       <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
       <dns_configuration>false</dns_configuration>
       <wins_configuration>false</wins_configuration>
       <computer_name>false</computer_name>
       <computer_description>false</computer_description>
       <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
       <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
       <mapped_drives>true</mapped_drives>
       <dialup_networking>false</dialup_networking>
       <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
       <odbc_datasources>true</odbc_datasources>
</Network>

<Applications>
        <Application>Microsoft Access</Application>
        <Application>Microsoft Office Word</Application>
        <Application>Microsoft Office Excel</Application>
        <Application>Microsoft Office Power Point</Application>
        <Application>Microsoft Internet Explorer</Application>
        <Application>Microsoft Outlook</Application>
</Applications>

<Inclusions>
         <IncDescription>
               <Description>C:¥My Documents¥ /s</Description>
               <Dest>%USERPROFILE%¥My Documents</Dest>
               <Operation>P</Operation>
               <DateCompare>
                     <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
               </DateCompare>
               <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
                </SizeCompare>
        </IncDescription>
        <IncDescription>
               <Description>*:¥*.mp3 /s</Description>
```

```
                    <Dest>%USERPROFILE%¥My Documents</Dest>
                    <Operation>P</Operation>
                    <DateCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Date></Date>
                    </DateCompare>
                    <SizeCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Size></Size>
                    </SizeCompare>
              </IncDescription>
       </Inclusions>

       <Exclusions>
               <ExcDescription>
                    <Description>%WINDIR%¥Temporary Internet Files¥</Description>
                    <DateCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Date></Date>
                    </DateCompare>
                    <SizeCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Size></Size>
                    </SizeCompare>
               </ExcDescription>
       </Exclusions>

       <IncUsers>
              <UserName></UserName>
       </IncUsers>

       <ExcUsers>
              <UserName>ASPNET</UserName>
       </ExcUsers>

       <MigrationNote>
              <Note></Note>
       </MigrationNote>

 <Printers>
  <Printer></Printer>
 </Printers>

 <MISC>
  <bypass_registry>false</bypass_registry>
  <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
  <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
 </MISC>

</controlcard>
```

Capture.bat ファイルの例

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...

start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"

copy config.ini "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥config.ini" /y
copy GUI_default_commands.xml "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥GUI_default_commands.xml" /y

"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥sma.exe"
```

Apply.bat ファイルの例

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...

start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"

copy GUI_default_commands.xml "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥GUI_default_commands.xml" /y

"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥sma.exe" "¥¥ServerName¥Folder¥FileName.sma"
```

シナリオ 2: シングル・ドメイン・ユーザーの移行

操作の概要

ユーザーは管理者特権を持たないため SMA はソフトウェア配布ツールにより自動的にインストールされるものとします。エンド・ユーザーはドメインの信用証明を保管し、ドメインへ参加してターゲット PC にユーザー・プロファイルを作成します。エンド・ユーザーはソース PC とターゲット PC をイーサネットを使用して接続し、2 つの CD を準備します。片方の CD はソース PC 上で Capture.bat ファイルを実行するようにセットし、もう片方の CD はターゲット PC 上で Apply.bat ファイルを実行するようにセットします。

移行の条件

シングル・ドメイン・ユーザーの移行条件を表 11 に要約して示します。

表 11. シングル・ドメイン・ユーザーの移行条件

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>ソース PC</th><th>ターゲット PC</th></tr>
<tr><td colspan="2">操作者</td><td>エンド・ユーザー</td><td>エンド・ユーザー</td></tr>
<tr><td colspan="2">Windows OS のバージョン</td><td>Windows 2000 Professional</td><td>Windows XP Professional</td></tr>
<tr><td colspan="2">ログオン・ユーザー・アカウントのタイプ</td><td>ドメイン・パワー・ユーザー</td><td>ドメイン・パワー・ユーザー</td></tr>
<tr><td colspan="2">ツール (SMABAT または SMA)</td><td>SMABAT</td><td>SMABAT</td></tr>
<tr><td colspan="2">接続: ファイルまたは PC から PC へ</td><td colspan="2">イーサネット経由の PC から PC へ (ピアツーピア)</td></tr>
<tr><td rowspan="6">移行される設定</td><td>デスクトップ設定</td><td colspan="2">デスクトップ・アイコンの表示 (アイコンのリンクの解決オプションはこのケースでは使用されません)</td></tr>
<tr><td>ネットワーク設定</td><td colspan="2">マップされたドライブ</td></tr>
<tr><td>アプリケーション設定</td><td colspan="2">Lotus Sametime®
Lotus Notes</td></tr>
<tr><td>プリンター設定</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>移行されるファイルとフォルダー</td><td colspan="2">ユーザーの「マイ ドキュメント」フォルダー内の全ファイル</td></tr>
<tr><td>移行から除外されるファイルとフォルダー</td><td colspan="2">すべての .mp3 ファイル。デスクトップ・アイコンで移行されたファイルは除外できません。</td></tr>
</table>

移行前に管理者が実施する作業

移行 CD を準備します。

取り込み CD

以下のファイルを取り込み CD のルート・ディレクトリーに準備します。

- 移行コマンドをカスタマイズするための Commands.xml

  ユーザー特権が「制限ユーザー」(管理者は除く) の場合は、Commands.xml ファイルの <IncUsers> 選択にユーザー名を追加しないでください。
- SMA 取り込み処理を開始するための Capture.bat
- Capture.bat を自動的に実行するための autorun.inf

適用 CD

以下のファイルを適用 CD のルート・ディレクトリーに準備します。

- SMA 適用処理を開始するための Apply.bat
- Apply.bat を自動的に実行するための autorun.inf

移行前にエンド・ユーザーが実施する作業

何もありません

移行中に管理者が実施する作業

何もありません

移行中にエンド・ユーザーが実施する作業

ソース PC で以下を行います。

1. ドメイン・ユーザーとしてログオンします。
2. SMA がインストールされていることを確認します。
3. ソース PC に取り込み CD を挿入します。Capture.bat ファイルが自動的に立ち上がり、取り込み処理が開始します。

ターゲット PC で以下を行います。

1. ドメイン・ユーザーとしてログオンします。ログオン・ユーザー名はソース PC のものと同じ必要があります。
2. SMA がインストールされていることを確認します。
3. ターゲット PC に適用 CD を挿入します。Apply.bat ファイルが自動的に立ち上がり、適用処理が開始します。
4. コンピューターの再起動を促すプロンプトが表示されたら、移行は完了です。
5. ターゲット PC を再起動します。

取り込み CD 内容の例

Capture.bat ファイルの例

```
@echo off
md C:¥SMAWORK
copy /y commands.xml C:¥SMAWORK¥
:start
set connectionID=
set /p connectionID="type connection id >"
if /i "%connectionID%"=="" goto start
if /i "%connectionID%"=="exit" goto end
```

```
echo Start Capture operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /c "C:¥SMAWORK¥commands.xml" /p2p %connectionID%
:end
set connectionID=
```

commands.xml ファイルの例


```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
       <!--
              <comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#2</comment>
              <comment>Migration single domain user from Win2000 to Win XP by PC to PC Migration</comment>
       -->
       <Password>
              <PlainPassword></PlainPassword>
       </Password>

       <TransferMode>
              <mode>P2P</mode>
       </TransferMode>

       <P2P>
              <connection_id>unique_password</connection_id>
       </P2P>

       <FilesAndFolders>
               <run>true</run>
       </FilesAndFolders>

       <ArchiveFile>
              <filename></filename>
       </ArchiveFile>

       <Desktop>
             <desktop_settings>false</desktop_settings>
              <accessibility>false</accessibility>
              <active_desktop>false</active_desktop>
              <colors>false</colors>
              <desktop_icons>true</desktop_icons>
              <display>true</display>
              <icon_metrics>false</icon_metrics>
              <keyboard>false</keyboard>
              <mouse>false</mouse>
              <pattern>false</pattern>
              <screen_saver>false</screen_saver>
              <sendto_menu>false</sendto_menu>
              <shell>false</shell>
              <sound>false</sound>
              <start_menu>false</start_menu>
              <taskbar>false</taskbar>
              <time_zone>false</time_zone>
              <wallpaper>false</wallpaper>
              <window_metrics>false</window_metrics>
       </Desktop>

       <Network>
              <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
              <dns_configuration>false</dns_configuration>
              <wins_configuration>false</wins_configuration>
              <computer_name>false</computer_name>
              <computer_description>false</computer_description>
              <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
              <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
              <mapped_drives>true</mapped_drives>
              <dialup_networking>false</dialup_networking>
              <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
```

```
            <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
       </Network>

       <Applications>
                <Application>Lotus Notes</Application>
                <Application>Lotus Sametime</Application>
       </Applications>

       <Inclusions>
                <IncDescription>
                     <Description>%USERPROFILE%¥My Documents¥ /s</Description>
                     <Dest></Dest>
                     <Operation></Operation>
                     <DateCompare>
                          <Operand></Operand>
                          <Date></Date>
                     </DateCompare>
                     <SizeCompare>
                          <Operand></Operand>
                          <Size></Size>
                     </SizeCompare>
               </IncDescription>
       </Inclusions>

       <Exclusions>
               <ExcDescription>
                    <Description>*:¥*.mp3 /s</Description>
                    <DateCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Date></Date>
                    </DateCompare>
                    <SizeCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Size></Size>
                    </SizeCompare>
                </ExcDescription>
       </Exclusions>

       <IncUsers>
              <UserName></UserName>
       </IncUsers>

       <ExcUsers>
              <UserName>ASPNET</UserName>
       </ExcUsers>

       <MigrationNote>
              <Note></Note>
       </MigrationNote>

      <Printers>
              <Printer></Printer>
      </Printers>

      <MISC>
          <bypass_registry>false</bypass_registry>
          <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
          <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
          <autoreboot>2</autoreboot>
      </MISC>

</controlcard>
```

適用 CD 内容の例

Apply.bat ファイルの例

```
@echo off
md C:¥SMAWORK
copy /y commands.xml C:¥SMAWORK¥

:start
set connectionID=
set /p connectionID="type connection id >"
if /i "%connectionID%"=="" goto start
if /i "%connectionID%"=="exit" goto end
echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /a "C:¥SMAWORK¥commands.xml" /p2p %connectionID%
:end
set connectionID=
```

commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
       <!--
              <comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#2</comment>
              <comment>Migration single domain user from Win2000 to Win XP by PC to PC Migration</comment>
       -->
       <Password>
              <PlainPassword></PlainPassword>
       </Password>

       <TransferMode>
              <mode>P2P</mode>
       </TransferMode>

       <P2P>
              <connection_id>unique_password</connection_id>
       </P2P>

       <FilesAndFolders>
                     <run>true</run>
       </FilesAndFolders>

       <ArchiveFile>
              <filename></filename>
       </ArchiveFile>

       <Desktop>
             <desktop_settings>false</desktop_settings>
              <accessibility>false</accessibility>
              <active_desktop>false</active_desktop>
              <colors>false</colors>
              <desktop_icons>true</desktop_icons>
              <display>true</display>
              <icon_metrics>false</icon_metrics>
              <keyboard>false</keyboard>
              <mouse>false</mouse>
              <pattern>false</pattern>
              <screen_saver>false</screen_saver>
              <sendto_menu>false</sendto_menu>
              <shell>false</shell>
              <sound>false</sound>
              <start_menu>false</start_menu>
              <taskbar>false</taskbar>
              <time_zone>false</time_zone>
              <wallpaper>false</wallpaper>
```

```
        <window_metrics>false</window_metrics>
 </Desktop>

 <Network>
        <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
        <dns_configuration>false</dns_configuration>
        <wins_configuration>false</wins_configuration>
        <computer_name>false</computer_name>
        <computer_description>false</computer_description>
        <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
        <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
        <mapped_drives>true</mapped_drives>
        <dialup_networking>false</dialup_networking>
        <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
        <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
 </Network>

 <Applications>
         <Application>Lotus Notes</Application>
         <Application>Lotus Sametime</Application>
 </Applications>

 <Inclusions>
         <IncDescription>
               <Description>%USERPROFILE%¥My Documents¥ /s</Description>
               <Dest></Dest>
               <Operation></Operation>
               <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
               </DateCompare>
               <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
               </SizeCompare>
          </IncDescription>
 </Inclusions>

 <Exclusions>
         <ExcDescription>
              <Description>*:¥*.mp3 /s</Description>
              <DateCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Date></Date>
              </DateCompare>
              <SizeCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Size></Size>
              </SizeCompare>
         </ExcDescription>
 </Exclusions>

 <IncUsers>
        <UserName></UserName>
 </IncUsers>

 <ExcUsers>
        <UserName>ASPNET</UserName>
 </ExcUsers>

 <MigrationNote>
        <Note></Note>
 </MigrationNote>

<Printers>
       <Printer></Printer>
</Printers>
```

```
      <MISC>
           <bypass_registry>false</bypass_registry>
           <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
           <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
           <autoreboot>2</autoreboot>
       </MISC>

</controlcard>
```

シナリオ 3: マルチユーザーのバッチ・モードでの移行

操作の概要

ソース PC 上で、管理者は共用フォルダー内の Capture.bat ファイルをダブルクリックして SMA のインストールを開始します。インストールが完了すると、バッチ・モードでの移行が自動的に開始します。ターゲット PC 上で、管理者は Apply.bat ファイルをダブルクリックして SMA のインストールを開始します。この後、移行は適用フェーズになります。

移行の条件

マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件を表 12 に要約して示します。

表 12. マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件

項目	ソース PC	ターゲット PC
操作者	Administrator	Administrator
Windows OS のバージョン	Windows XP Professional	Windows XP Professional、Windows Vista、または Windows 7
ログオン・ユーザー・アカウントのタイプ	ドメイン管理者	ドメイン管理者
ツール (SMABAT または SMA)	SMABAT	SMABAT
接続: ファイルまたは PC から PC へ	サーバー上のファイルは ¥¥Server¥folder¥FileName	

表 12. マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件 (続き)

項目		ソース PC	ターゲット PC
移行される設定	デスクトップ設定	デスクトップ・アイコンの表示 (アイコンのリンクの解決オプションがこのケースでは使用されます) スクリーン・セーバー 壁紙	
	ネットワーク設定	マップされたドライブ	
	アプリケーション設定	Microsoft Access 2000 から 2003 Microsoft Word 2000 から 2003 Microsoft Excel 2000 から 2003 Microsoft PowerPoint 2000 から 2003 Microsoft Outlook 2000 から 2003	
	プリンター設定	いいえ	
	含まれるファイルとフォルダー	「マイ ドキュメント」フォルダー内の全ユーザーのファイル (Documents and Settings¥*¥My Documents) PC 上の全 .doc ファイル PC 上の全 .ppt ファイル PC 上の全 .xls ファイル	
	移行から除外されるファイルとフォルダー	Documents and Settings¥Administrator folder and Documents and Settings¥All Users folder	

移行前に管理者が実施する作業

1. サーバー上に次の 2 つの共用フォルダーを準備します。
   - SMA_セットアップ用の SMA_Inst
   - 移行ファイルを配置するための SMA_Files
2. SMA_Inst フォルダーに次のファイルを準備します。
   - SMA をインストールするための SMASetup.exe
   - ソース PC 上で移行コマンドをカスタマイズするための Commands.xml
   - ソース PC 上で SMA をセットアップし呼び出すための Capture.bat
   - ターゲット PC 上で SMA をセットアップし呼び出すための Apply.bat
3. エンド・ユーザーに対して、移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動またはコピーするように依頼します。

移行前にエンド・ユーザーが実施する作業

移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動またはコピーします。

移行中に管理者が実施する作業

ソース PC で以下を行います。

1. ドメイン管理者アカウントを使用してコンピューターにログオンします。

2. SMA_Inst 共用フォルダーを Y:¥ ドライブとしてマップします。
3. SMA インストールを開始するために Capture.bat ファイルをダブルクリックします。
4. SMABAT オペレーションが完了したら、移行ファイルが作成されることを確認します。

```
¥¥Server¥Folder
```

ここで、¥¥Server¥Folder は、UNC 形式の SMA_Files 共用フォルダーです。
5. ソース PC をシャットダウンし、ターゲット PC の操作に移ります。

ターゲット PC で以下を行います。

1. SMA_Inst 共用フォルダーを Y: ドライブとしてマップします。
2. 移行ファイルの適用を開始するために Apply.bat ファイルをダブルクリックします。
3. 移行が完了し、コンピューターの再起動を促すプロンプトが表示されます。
4. ターゲット PC を再起動します。
5. 移行済みユーザーに対して、ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理を完了するように依頼します。

移行後にエンド・ユーザーが実施する作業

1. ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理が開始することを確認します。
2. 遅延適用処理が完了したらコンピューターを再起動します。

commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
	<!--
		<comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#3</comment>
		<comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via File
Migration
</comment>
	-->
	<Password>
		<PlainPassword></PlainPassword>
	</Password>

	<TransferMode>
		<mode>File</mode>
	</TransferMode>

	<P2P>
		<connection_id></connection_id>
	</P2P>

	<FilesAndFolders>
		 <run>true</run>
	</FilesAndFolders>

	<ArchiveFile>
		<filename>¥¥ServerName¥Folder¥FileName.sma</filename>
	</ArchiveFile>
```

```
<Desktop>
      <desktop_settings>false</desktop_settings>
       <accessibility>false</accessibility>
       <active_desktop>false</active_desktop>
       <colors>false</colors>
       <desktop_icons>true</desktop_icons>
       <display>false</display>
       <icon_metrics>false</icon_metrics>
       <keyboard>false</keyboard>
       <mouse>false</mouse>
       <pattern>false</pattern>
       <screen_saver>true</screen_saver>
       <sendto_menu>false</sendto_menu>
       <shell>false</shell>
       <sound>false</sound>
       <start_menu>false</start_menu>
       <taskbar>false</taskbar>
       <time_zone>false</time_zone>
       <wallpaper>true</wallpaper>
       <window_metrics>false</window_metrics>
</Desktop>

<Network>
       <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
       <dns_configuration>false</dns_configuration>
       <wins_configuration>false</wins_configuration>
       <computer_name>false</computer_name>
       <computer_description>false</computer_description>
       <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
       <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
       <mapped_drives>true</mapped_drives>
       <dialup_networking>false</dialup_networking>
       <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
       <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
</Network>

<Applications>
         <Application>Microsoft Access</Application>
         <Application>Microsoft Office Word</Application>
         <Application>Microsoft Office Excel</Application>
         <Application>Microsoft Office Power Point</Application>
         <Application>Microsoft Outlook</Application>
</Applications>

<Inclusions>
         <IncDescription>
              <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥*¥My Documents¥ /s</Description>
         </IncDescription>
         <IncDescription>
              <Description>*:¥*.doc /s</Description>
              <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
              <Operation>P</Operation>
              <DateCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Date></Date>
              </DateCompare>
              <SizeCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Size></Size>
               </SizeCompare>
        </IncDescription>
        <IncDescription>
              <Description>*:¥*.xls /s</Description>
              <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
              <Operation>P</Operation>
              <DateCompare>
```

```
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
               </DateCompare>
               <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
               </SizeCompare>
         </IncDescription>
         <IncDescription>
               <Description>*:¥*.ppt /s</Description>
               <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
               <Operation>P</Operation>
               <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
               </DateCompare>
               <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
               </SizeCompare>
         </IncDescription>
 </Inclusions>

 <Exclusions>
         <ExcDescription>
              <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥Administrator¥ /s</Description>
              <DateCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Date></Date>
              </DateCompare>
              <SizeCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Size></Size>
              </SizeCompare>
         </ExcDescription>
         <ExcDescription>
              <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥ /s</Description>
              <DateCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Date></Date>
               </DateCompare>
              <SizeCompare>
                   <Operand></Operand>
                   <Size></Size>
              </SizeCompare>
         </ExcDescription>
 </Exclusions>

 <IncUsers>
        <UserName>$(all)</UserName>
 </IncUsers>

 <ExcUsers>
        <UserName>ASPNET</UserName>
        <UserName>Administrator</UserName>
        <UserName>Guest</UserName>
        <UserName>SQLDebugger</UserName>
 </ExcUsers>

 <MigrationNote>
        <Note></Note>
 </MigrationNote>

<Printers>
       <Printer></Printer>
</Printers>
```

```
      <MISC>
           <bypass_registry>false</bypass_registry>
           <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
           <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
           <autoreboot>2</autoreboot>
      </MISC>

</controlcard>
```

.bat ファイルの例

例 1: **Capture.bat**

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
md C:¥SMAWORK
copy commands.xml "C:¥SMAWORK¥commands.xml" /y
@echo Start Capture operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /c "C:¥SMAWORK¥commands.xml"
```

例 2: **Apply.bat**

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
md C:¥SMAWORK
copy commands.xml "C:¥SMAWORK¥commands.xml" /y
@echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /a "C:¥SMAWORK¥commands.xml"
```

シナリオ 4: マルチユーザーのバッチ・モードでの移行

操作の概要

エンド・ユーザーはソース PC とターゲット PC をイーサネットで接続し、2 つの CD を準備します。片方の CD は Capture.bat ファイル、もう片方は Apply.bat ファイルが自動的に実行されるようにセットします。ソース PC 上で、Capture.bat ファイルが SMA のインストールを開始し、インストールが完了すると、バッチ・モードの移行が開始します。ターゲット PC 上で、Apply.bat ファイルが SMA をインストールし、次にバッチ・モードによる適用フェーズが開始します。このケースでは、ソース PC の TCP/IP 設定は静的 IPで、TCP/IP、DNS、WINS 設定、コンピューター名、およびネットワーク名の移行が要求されています。これらの設定の移行では、適用処理は 4 つのステップに分けられます。

移行の条件

マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件を表 13 に要約して示します。ターゲット OS が Windows Vista または Windows 7 の場合、ソース PC の DNS 構成設定は、1 次ドメイン・コントローラー (PDC) にアクセスできる適切な値が入っている必要があります。

表 13. マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件

項目	ソース PC	ターゲット PC
操作者	Administrator	Administrator
Windows OS のバージョン	Windows 2000 Professional	Windows XP Professional、Windows Vista、または Windows 7
ログオン・ユーザー・アカウントのタイプ	ローカル管理者	ローカル管理者
ツール (SMABAT または SMA)	SMABAT	SMABAT
接続: ファイルまたは PC から PC へ	イーサネット経由の PC から PC へ (ピアツーピア)	

表 13. マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件 (続き)

項目		**ソース PC**	**ターゲット PC**
移行される設定	デスクトップ設定	デスクトップ・アイコンの表示 (アイコンのリンクの解決オプションがこのケースでは使用されます) スクリーン・セーバー 壁紙	
	ネットワーク設定	IP / サブネット / ゲートウェイ DNS 構成 WINS 構成 コンピューター名 ドメイン / ワークグループ マップされたドライブ	
	アプリケーション設定	Microsoft Access 2000 から 2003 Microsoft Word 2000 から 2003 Microsoft Excel 2000 から 2003 Microsoft PowerPoint 2000 から 2003 Microsoft Outlook 2000 から 2003	
	プリンター設定	いいえ	
	移行されるファイルとフォルダー	「マイ ドキュメント」フォルダー内の全ユーザーのファイル (Documents and Settings¥*¥My Documents) PC 上の全 .doc ファイル PC 上の全 .ppt ファイル PC 上の全 .xls ファイル	
	移行から除外されるファイルとフォルダー	Documents and Settings¥Administrator folder and Documents and Settings¥All Users folder	

移行前に管理者が実施する作業

1. 移行 CD を準備します。

取り込み CD

以下のファイルを取り込み CD のルート・ディレクトリーに準備します。

- 移行コマンドをカスタマイズするための Commands.xml
- 取り込み処理を開始するための Capture.bat
- Capture.bat を自動的に実行するための autorun.inf
- SMA をインストールするための SMASetup.exe

適用 CD

以下のファイルを適用 CD のルート・ディレクトリーに準備します。

- ターゲット PC 上に移行ファイルを作成するための Step1_Commands.xml
- TCP/IP、DNS、WINS 設定、およびコンピューター名を適用するための Step2_Commands.xml

- ネットワーク・グループ設定を適用するための Step3_Commands.xml
- 上記以外のすべてを適用するための Step4_Commands.xml
- Step1_Commands.xml を使用した適用処理を開始するための APPLY1.BAT
- Step2_Commands.xml を使用した適用処理を開始するための APPLY2.BAT
- Step3_Commands.xml を使用した適用処理を開始するための APPLY3.BAT
- Step4_Commands.xml を使用した適用処理を開始するための APPLY4.BAT
- APPLY1.BAT を自動的に実行するための autorun.inf
- SMA をインストールするための SMASetup.exe

2. それぞれのエンド・ユーザーに対して、移行対象のファイルをそれぞれの「マイ ドキュメント」フォルダーに置くように依頼します。

移行中にエンド・ユーザーが実施する作業

移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動またはコピーします。

移行中に管理者が実施する作業

ソース PC で以下を行います。

1. イーサネットを使用してネットワークに接続します。
2. ローカル管理者アカウントを使用してログオンします。
3. ソース PC の光ディスク・ドライブに取り込み CD を挿入します。
   SMA セットアップが自動的に立ち上がり、取り込み処理が開始します。
4. SMABAT 操作が完了したらソース PC の電源をオフにし、ターゲット PC の操作に移ります。

ターゲット PC で以下を行います。

1. イーサネットを使用してネットワークに接続します。
2. ローカル管理者アカウントを使用して、コンピューターにログオンします。ログオン・アカウント名はソース PC のものと同じ必要があります。
3. ターゲット PC の光ディスク・ドライブに適用 CD を挿入します。
   SMA セットアップと初期適用処理が自動的に立ち上がります。
4. SMABAT オペレーションが完了したら、SMA 移行ファイル (.sma) がターゲット PC の C:¥SMAWORK フォルダーに作成されることを確認します。
5. 再起動のプロンプトが出たら、ターゲット PC を再起動します。
6. ローカル管理者アカウントを使用して再度ログオンします。
7. TCP/IP、DNS、WINS、およびコンピューター名が移行される適用処理の 2 番目のステージを開始するために CD_DRIVE:¥APPLY2.BAT ファイルをダブルクリックします。
8. 再起動のプロンプトが出たら、ターゲット PC を再起動します。
9. ローカル管理者アカウントを使用して再度ログオンします。

10. TCP/IP、DNS、WINS 設定、およびコンピューター名が移行されたことを確認します。
11. ネットワーク・グループが移行される適用処理の 3 番目のステージを開始するために CD_DRIVE:¥APPLY3.BAT ファイル をダブルクリックします。
12. 再起動のプロンプトが出たら、ターゲット PC を再起動します。
13. ローカル管理者アカウントを使用して再度ログオンします。
14. ネットワーク・グループが移行されていることを確認します。
15. 4 番目のステージを開始するために CD_DRIVE:¥APPLY4.BAT ファイルをダブルクリックします。
16. 再起動のプロンプトが出たら、ターゲット PC を再起動します。
17. ローカル管理者アカウントを使用して再度ログオンします。
18. 移行済みユーザーに対して、ターゲット PC にもう一度ログオンし、遅延適用処理を完了するように依頼します。

移行後にエンド・ユーザーが実施する作業

1. ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理が自動的に開始することを確認します。
2. 遅延適用処理が完了したらコンピューターを再起動します。

取り込み CD 内容の例

Capture.bat ファイルの例

```
@echo off
echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
md C:¥SMAWORK
copy commands.xml "C:¥SMAWORK¥commands.xml" /y
:start
set connectionID=
set /p connectionID="type connection id >"
if /i "%connectionID%"=="" goto start
if /i "%connectionID%"=="exit" goto end
echo Start Capture operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /c C:¥SMAWORK¥commands.xml /p2p %connectionID%
:end
set connectionID=
```

commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
	<!--
		<comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#4</comment>
		<comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via PC to PC
Migration</comment>
	-->
	<Password>
		<PlainPassword></PlainPassword>
	</Password>

	<TransferMode>
		<mode>P2P</mode>
	</TransferMode>
```

```
<P2P>
       <connection_id>unique_data</connection_id>
</P2P>

<FilesAndFolders>
        <run>true</run>
</FilesAndFolders>

<ArchiveFile>
       <filename>C:¥SMAWORK¥Scenario4.sma</filename>
</ArchiveFile>

<Desktop>
      <desktop_settings>false</desktop_settings>
       <accessibility>false</accessibility>
       <active_desktop>false</active_desktop>
       <colors>false</colors>
       <desktop_icons>true</desktop_icons>
       <display>false</display>
       <icon_metrics>false</icon_metrics>
       <keyboard>false</keyboard>
       <mouse>false</mouse>
       <pattern>false</pattern>
       <screen_saver>true</screen_saver>
       <sendto_menu>false</sendto_menu>
       <shell>false</shell>
       <sound>false</sound>
       <start_menu>false</start_menu>
       <taskbar>false</taskbar>
       <time_zone>false</time_zone>
       <wallpaper>true</wallpaper>
       <window_metrics>false</window_metrics>
</Desktop>

<Network>
       <ip_subnet_gateway_configuration>true</ip_subnet_gateway_configuration>
       <dns_configuration>true</dns_configuration>
       <wins_configuration>true</wins_configuration>
       <computer_name>true</computer_name>
       <computer_description>true</computer_description>
       <domain_workgroup>true</domain_workgroup>
       <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
       <mapped_drives>true</mapped_drives>
       <dialup_networking>false</dialup_networking>
       <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
       <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
</Network>

<Applications>
         <Application>Microsoft Access</Application>
         <Application>Microsoft Office Word</Application>
         <Application>Microsoft Office Excel</Application>
         <Application>Microsoft Office Power Point</Application>
         <Application>Microsoft Outlook</Application>
</Applications>

<Inclusions>
         <IncDescription>
               <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥*¥My Documents¥ /s</Description>
               <Dest></Dest>
               <Operation></Operation>
               <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
               </DateCompare>
               <SizeCompare>
```

```
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
               </SizeCompare>
          </IncDescription>
          <IncDescription>
               <Description>*:¥*.doc /s</Description>
               <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
               <Operation>P</Operation>
               <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
               </DateCompare>
               <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
               </SizeCompare>
          </IncDescription>
          <IncDescription>
                <Description>*:¥*.xls /s</Description>
                <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
                <Operation>P</Operation>
                <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
                </DateCompare>
                <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
                </SizeCompare>
          </IncDescription>
          <IncDescription>
                <Description>*:¥*.ppt /s</Description>
                <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
                <Operation>P</Operation>
                <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
                </DateCompare>
                <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
                </SizeCompare>
          </IncDescription>
</Inclusions>

<Exclusions>
          <ExcDescription>
                <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥Administrator¥ /s</Description>
                <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
                </DateCompare>
                <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
                </SizeCompare>
          </ExcDescription>
          <ExcDescription>
                <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥ /s</Description>
                <DateCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Date></Date>
                </DateCompare>
                <SizeCompare>
                    <Operand></Operand>
                    <Size></Size>
                </SizeCompare>
```

```
                </ExcDescription>
        </Exclusions>

        <IncUsers>
               <UserName>$(all)</UserName>
        </IncUsers>

        <ExcUsers>
               <UserName>ASPNET</UserName>
               <UserName>Administrator</UserName>
               <UserName>Guest</UserName>
               <UserName>SQLDebugger</UserName>
        </ExcUsers>

        <MigrationNote>
               <Note></Note>
        </MigrationNote>

       <Printers>
               <Printer></Printer>
       </Printers>

       <MISC>
               <bypass_registry>false</bypass_registry>
               <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
               <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
               <autoreboot>2</autoreboot>
       </MISC>

</controlcard>
```

適用 CD 内容の例

.bat ファイルの例

例 1: **Apply1.bat ファイル**

```
@echo off
echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
md C:¥SMAWORK
copy /y Step1_commands.xml C:¥SMAWORK¥
:start
set connectionID=
set /p connectionID="type connection id >"
if /i "%connectionID%"=="" goto start
if /i "%connectionID%"=="exit" goto end
echo Start Migration file creation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /a C:¥SMAWORK¥Step1_commands.xml /p2p %connectionID%
:end
set connectionID=
```

例 2: **Apply2.bat ファイル**

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
copy Step2_commands.xml "C:¥SMAWORK¥Step2_commands.xml" /y
@echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /a "C:¥SMAWORK¥Step2_commands.xml"
```

例 3: **Apply3.bat ファイル**

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
copy Step3_commands.xml "C:¥SMAWORK¥Step3_commands.xml" /y
@echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /a "C:¥SMAWORK¥Step3_commands.xml"
```

例 4: **Apply4.bat ファイル**

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
copy Step4_commands.xml "C:¥SMAWORK¥Step4_commands.xml" /y
@echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /a "C:¥SMAWORK¥Step4_commands.xml"
```

.xml ファイルの例

例 1: **Step1_commands.xml ファイル**

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
	<!--
		<comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#4</comment>
		<comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via PC to PC
Migration</comment>
	-->
	<Password>
		<PlainPassword></PlainPassword>
	</Password>

	<TransferMode>
		<mode>P2P</mode>
	</TransferMode>

	<P2P>
		<connection_id>unique_data</connection_id>
	</P2P>

	<FilesAndFolders>
	     <run>false</run>
	</FilesAndFolders>

	<ArchiveFile>
		<filename>C:¥SMAWORK¥Scenario4.sma</filename>
	</ArchiveFile>

	<Desktop>
	       <desktop_settings>false</desktop_settings>
		<accessibility>false</accessibility>
		<active_desktop>false</active_desktop>
		<colors>false</colors>
		<desktop_icons>false</desktop_icons>
		<display>false</display>
		<icon_metrics>false</icon_metrics>
		<keyboard>false</keyboard>
		<mouse>false</mouse>
		<pattern>false</pattern>
		<screen_saver>false</screen_saver>
		<sendto_menu>false</sendto_menu>
		<shell>false</shell>
		<sound>false</sound>
		<start_menu>false</start_menu>
		<taskbar>false</taskbar>
		<time_zone>false</time_zone>
		<wallpaper>false</wallpaper>
		<window_metrics>false</window_metrics>
	</Desktop>

	<Network>
		<ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
		<dns_configuration>false</dns_configuration>
		<wins_configuration>false</wins_configuration>
		<computer_name>false</computer_name>
		<computer_description>false</computer_description>
		<domain_workgroup>false</domain_workgroup>
```

```
              <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
              <mapped_drives>false</mapped_drives>
              <dialup_networking>false</dialup_networking>
              <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
              <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
       </Network>

       <Applications>
            <Application></Application>
       </Applications>

       <IncUsers>
              <UserName></UserName>
       </IncUsers>

       <ExcUsers>
              <UserName></UserName>
       </ExcUsers>

       <MigrationNote>
              <Note></Note>
       </MigrationNote>

      <Printers>
            <Printer></Printer>
      </Printers>

      <MISC>
            <bypass_registry>false</bypass_registry>
            <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
            <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
            <autoreboot>2</autoreboot>
      </MISC>

</controlcard>
```

例 2: **Step2_commands.xml ファイル**

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
       <!--
              <comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#4</comment>
              <comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via PC to PC
Migration</comment>
       -->
       <Password>
              <PlainPassword></PlainPassword>
       </Password>

       <TransferMode>
              <mode></mode>
       </TransferMode>

       <P2P>
              <connection_id></connection_id>
       </P2P>

       <FilesAndFolders>
            <run>false</run>
       </FilesAndFolders>

       <ArchiveFile>
              <filename>C:¥SMAWORK¥Scenario4.sma</filename>
       </ArchiveFile>

       <Desktop>
```

```
      <desktop_settings>false</desktop_settings>
       <accessibility>false</accessibility>
       <active_desktop>false</active_desktop>
       <colors>false</colors>
       <desktop_icons>false</desktop_icons>
       <display>false</display>
       <icon_metrics>false</icon_metrics>
       <keyboard>false</keyboard>
       <mouse>false</mouse>
       <pattern>false</pattern>
       <screen_saver>false</screen_saver>
       <sendto_menu>false</sendto_menu>
       <shell>false</shell>
       <sound>false</sound>
       <start_menu>false</start_menu>
       <taskbar>false</taskbar>
       <time_zone>false</time_zone>
       <wallpaper>false</wallpaper>
       <window_metrics>false</window_metrics>
 </Desktop>

 <Network>
       <ip_subnet_gateway_configuration>true</ip_subnet_gateway_configuration>
       <dns_configuration>true</dns_configuration>
       <wins_configuration>true</wins_configuration>
       <computer_name>true</computer_name>
       <computer_description>true</computer_description>
       <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
       <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
       <mapped_drives>false</mapped_drives>
       <dialup_networking>false</dialup_networking>
       <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
       <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
 </Network>

 <Applications>
      <Application></Application>
 </Applications>

 <IncUsers>
       <UserName></UserName>
 </IncUsers>

 <ExcUsers>
       <UserName></UserName>
 </ExcUsers>

 <MigrationNote>
       <Note></Note>
 </MigrationNote>

<Printers>
      <Printer></Printer>
</Printers>

<MISC>
      <bypass_registry>false</bypass_registry>
      <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
      <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
      <autoreboot>2</autoreboot>
</MISC>

</controlcard>
```

例 3: **Step3_commands.xml ファイル**

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
	<!--
		<comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#4</comment>
		<comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via PC to PC
Migration</comment>
	-->
	<Password>
		<PlainPassword></PlainPassword>
	</Password>

	<TransferMode>
		<mode></mode>
	</TransferMode>

	<P2P>
		<connection_id></connection_id>
	</P2P>

	<FilesAndFolders>
		 <run>false</run>
	</FilesAndFolders>

	<ArchiveFile>
		<filename>C:¥SMAWORK¥Scenario4.sma</filename>
	</ArchiveFile>

	<Desktop>
	       <desktop_settings>false</desktop_settings>
		<accessibility>false</accessibility>
		<active_desktop>false</active_desktop>
		<colors>false</colors>
		<desktop_icons>false</desktop_icons>
		<display>false</display>
		<icon_metrics>false</icon_metrics>
		<keyboard>false</keyboard>
		<mouse>false</mouse>
		<pattern>false</pattern>
		<screen_saver>false</screen_saver>
		<sendto_menu>false</sendto_menu>
		<shell>false</shell>
		<sound>false</sound>
		<start_menu>false</start_menu>
		<taskbar>false</taskbar>
		<time_zone>false</time_zone>
		<wallpaper>false</wallpaper>
		<window_metrics>false</window_metrics>
	</Desktop>

	<Network>
		<ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
		<dns_configuration>false</dns_configuration>
		<wins_configuration>false</wins_configuration>
		<computer_name>false</computer_name>
		<computer_description>false</computer_description>
		<domain_workgroup>true</domain_workgroup>
		<shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
		<mapped_drives>false</mapped_drives>
		<dialup_networking>false</dialup_networking>
		<microsoft_networking>false</microsoft_networking>
		<odbc_datasources>false</odbc_datasources>
	</Network>

	<Applications>
		  <Application></Application>
	</Applications>
```

```
       <IncUsers>
              <UserName></UserName>
       </IncUsers>

       <ExcUsers>
              <UserName></UserName>
       </ExcUsers>

       <MigrationNote>
              <Note></Note>
       </MigrationNote>

      <Printers>
           <Printer></Printer>
      </Printers>

      <MISC>
           <bypass_registry>false</bypass_registry>
           <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
           <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
           <autoreboot>2</autoreboot>
 </MISC>

</controlcard>
```

例 4: **Step4_commands.xml ファイル**

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
       <!--
              <comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#4</comment>
              <comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via PC to PC
Migration</comment>
       -->
       <Password>
              <PlainPassword></PlainPassword>
       </Password>

       <TransferMode>
              <mode></mode>
       </TransferMode>

       <P2P>
              <connection_id></connection_id>
       </P2P>

       <FilesAndFolders>
               <run>true</run>
       </FilesAndFolders>

       <ArchiveFile>
              <filename>C:¥SMAWORK¥Scenario4.sma</filename>
       </ArchiveFile>

       <Desktop>
             <desktop_settings>true</desktop_settings>
              <accessibility>true</accessibility>
              <active_desktop>true</active_desktop>
              <colors>true</colors>
              <desktop_icons>true</desktop_icons>
              <display>true</display>
              <icon_metrics>true</icon_metrics>
              <keyboard>true</keyboard>
              <mouse>true</mouse>
              <pattern>true</pattern>
```

```
            <screen_saver>true</screen_saver>
            <sendto_menu>true</sendto_menu>
            <shell>true</shell>
            <sound>true</sound>
            <start_menu>true</start_menu>
            <taskbar>true</taskbar>
            <time_zone>true</time_zone>
            <wallpaper>true</wallpaper>
            <window_metrics>true</window_metrics>
     </Desktop>

     <Network>
            <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
            <dns_configuration>false</dns_configuration>
            <wins_configuration>false</wins_configuration>
            <computer_name>false</computer_name>
            <computer_description>false</computer_description>
            <domain_workgroup>true</domain_workgroup>
            <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
            <mapped_drives>false</mapped_drives>
            <dialup_networking>false</dialup_networking>
            <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
            <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
     </Network>

     <Applications>
              <Application>$(all)</Application>
     </Applications>

     <IncUsers>
         <UserName>$(all)</UserName>
     </IncUsers>

     <ExcUsers>
         <UserName></UserName>
     </ExcUsers>

     <MigrationNote>
         <Note></Note>
     </MigrationNote>

    <Printers>
       <Printer>$(all)</Printer>
    </Printers>

    <MISC>
       <bypass_registry>false</bypass_registry>
       <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
       <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
       <autoreboot>2</autoreboot>
    </MISC>

</controlcard>
```

シナリオ 5: マルチユーザーの移行

操作の概要

ソース PC 上で、管理者は共用ドライブ上の Capture.bat ファイルをダブルクリックして SMA のインストールを開始します。GUI モードによる移行が自動的に開始します。移行ファイルがサーバーの共用フォルダーに作成されます。ターゲット PC 上で、管理者は Apply.bat ファイルをダブルクリッ

クして SMA のインストールを開始します。GUI モードの移行が開始し、管理者はターゲット PC 上のGUI 選択ウィンドウで移行中の設定を選択しなおすことができます。

移行の条件

マルチユーザーの移行条件を表 14 に要約して示します。

表 14. マルチユーザーの移行条件

項目		ソース PC	ターゲット PC
操作者		Administrator	Administrator
Windows OS のバージョン		Windows 2000 Professional	Windows XP または Windows Vista または Windows 7
ログオン・ユーザー・アカウントのタイプ		ローカル管理者	ローカル管理者
ツール (SMABAT または SMA)		SMA	SMA
接続: ファイルまたは PC から PC へ		サーバーの共用ドライブ上のファイル「¥¥Server¥folder¥FileName」	
移行される設定	デスクトップ設定	デスクトップ・アイコン スクリーン・セーバー 壁紙	
	ネットワーク設定	マップされたドライブ	
	アプリケーション設定	Microsoft Access Microsoft Word Microsoft Excel Microsoft Power Point Microsoft Outlook	
	プリンター設定		
	移行されるファイルとフォルダー	「マイ ドキュメント」フォルダー内の全ユーザーのファイル (Documents and Settings¥*¥My Documents)	
	移行から除外されるファイルとフォルダー	Documents and Settings¥Administrator Documents and Settings¥All Users	
	他の設定値	Resolve_icon_links = YES	

移行前に管理者が実施する作業

1. サーバー上に次の 2 つの共用フォルダーを準備します。
   - SMA_セットアップ用の SMA_Inst
   - 移行ファイルを配置するための SMA_Files
2. SMA_Inst フォルダーに次のファイルを準備します。
   - GUI をカスタマイズするための config.ini
   - 移行コマンドをカスタマイズするための GUI_default_commands.xml
   - SMA をインストールするための SMASetup.exe
   - ソース PC 上で SMA をセットアップし呼び出すための Capture.bat
   - ターゲット PC 上で SMA をセットアップし呼び出すための Apply.bat

3. エンド・ユーザーに対して、移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに置くように依頼します。

移行前にエンド・ユーザーが実施する作業

移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動またはコピーします。

移行中に管理者が実施する作業

ソース PC で以下を行います。

1. SMA_Inst 共用フォルダーを Y:¥ ドライブとしてマップします。
2. SMA のインストールを開始するために Capture.bat をダブルクリックします。
3. GUI モードによる取り込み操作が完了したら、SMA 移行ファイルが

   ```
   ¥¥Server¥folder
   ```

   に作成されることを確認します。ここで、`¥¥Server¥folder` は、UNC 形式の SMA_Files 共用フォルダーです。
4. ソース PC をシャットダウンし、ターゲット PC の操作に移ります。

ターゲット PC で以下を行います。

1. SMA_Inst 共用フォルダーを Y: ドライブとしてマップします。
2. SMA を開始するために Apply.bat ファイルをダブルクリックします。
3. 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開いたら、移行しないアカウントのチェック・ボックスをクリアします。
4. 画面の指示に従って進みます。
5. 移行済みユーザーに対して、ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理を完了するように依頼します。

移行後にエンド・ユーザーが実施する作業

1. ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理が開始することを確認します。
2. 遅延適用処理が完了したらコンピューターを再起動します。

config.ini ファイルの例

```
;*******************************************************************************
; CONFIG.INI
;
; This file is intended for use with SMA version 6.0. It is used to override
; default settings within SMA.
;
; Important: Any text that appears after a semicolon ";" will be treated as a
; comment. The semicolon must appear at the beginning of the text
; and must not be preceded by other characters. Also, the text
; in this file is not case sensitive.
; For example: C:¥COMMANDS.XML is treated exactly the same as
; c:¥commands.xml.
;
;*******************************************************************************
;-------------------------------------------------------------------------------
; GLOBAL OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Configuration_File_Show_Configuration_Messages = no
Import_Command_File = GUI_default_commands.xml
```

```
Import_Command_File_For_Apply = GUI_default_commands_apply.xml
Export_Command_File =
Just_Create_Command_File =
Verbose_Logging = yes
Enable_4GFat32_warning = yes
Preprocess_Executable =
; Set YES/NO to display/hide the previous file selection dialog
Show_Previous_File_Selection_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the message for P2P migration
Show_P2P_Messagebox = no
; Set YES/NO to display/hide the file dialog to open and save migration file
Show_File_Dialog = no
Set YES/NO to display/hide the start processing message dialog
Show_Start_Processing_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the reboot message dialog
Show_Reboot_Dialog = yes
; Set YES/NO to display/hide the progress dialogs
Show_All_Progressbar_Dialogs = yes
; Set YES/NO to display/hide the all warning message dialogs
Show_All_Warning_Dialogs = yes
; Set YES/NO to enable/disable password protection
Enable_Password_Protection = no
;-------------------------------------------------------------------------------
; SHOW/NOT SHOW PAGE OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Splash_Page_Show_Page = no
Welcome_Page_Show_Page = no
Begin_Page_Show_Page = no
TopOptions_Page_Show_Page = no
MigOptions_Page_Show_Page = no
Profiles_Page_Show_Page = no
Desktop_Page_Show_Page = no
Applications_Page_Show_Page = no
Network_Page_Show_Page = no
Printers_Page_Show_Page = no
Selection_Page_Show_Page = yes ; Show F&F view
AutoManual_Page_Show_Page = no
P2P_Logon_Page_Show_Page = no
P2P_Auto_SRC_Page_Show_Page = no
P2P_Manual_TGT_Page_Show_Page = no
P2P_Manual_SRC_Page_Show_Page = no
P2P_SourceIni_Page_Show_Page = no
P2P_Keyword_Page_Show_Page = no
Receive_Data_Page_Show_Page = no
Log_Page_Show_Page = yes
SummaryTypical_Page_Show_Page = yes
;-------------------------------------------------------------------------------
; WINDOW TITLE OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Welcome_Page_Title =
Begin_Page_Title =
TopOptions_Page_Title =
MigOptions_Page_Title =
Profiles_Page_Title =
Desktop_Page_Title =
Applications_Page_Title =
Network_Page_Title =
Printers_Page_Title =
Selection_Page_Title =
AutoManual_Page_Title =
P2P_Logon_Page_Title =
P2P_Auto_SRC_Page_Title =
P2P_Manual_TGT_Page_Title =
P2P_Manual_SRC_Page_Title =
P2P_SourceIni_Page_Title =
P2P_Keyword_Page_Title =
Receive_Data_Page_Title =
```

```
Log_Page_Title =
SummaryTypical_Page_Title =
;-------------------------------------------------------------------------------
; GUIDANCE TEXT OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Welcome_Page_Guidance_Text =
Begin_Page_Guidance_Text =
TopOptions_Page_Guidance_Text =
MigOptions_Page_Guidance_Text =
Profiles_Page_Guidance_Text =
Desktop_Page_Guidance_Text =
Applications_Page_Guidance_Text =
Network_Page_Guidance_Text =
Printers_Page_Guidance_Text =
Selection_Page_Guidance_Text =
AutoManual_Page_Guidance_Text =
P2P_Logon_Page_Guidance_Text =
P2P_Auto_SRC_Page_Guidance_Text =
P2P_Manual_TGT_Page_Guidance_Text =
P2P_Manual_SRC_Page_Guidance_Text =
P2P_SourceIni_Page_Guidance_Text =
P2P_Keyword_Page_Guidance_Text =
Receive_Data_Page_Guidance_Text =
Log_Page_Guidance_Text =
SummaryTypical_Page_Guidance_Text =
;-------------------------------------------------------------------------------
; SPLASH PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Splash_Page_Display_Time =
;-------------------------------------------------------------------------------
; BEGIN PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
; Set Typical/Custom to perform a Typical/Custom migration.
Begin_Page_Choice_Type =
;-------------------------------------------------------------------------------
; TOP OPTIONS PAGE
; Note: When you set Begin_Page_Choice_Type = Typical,
; TopOptions_Page_xxxx options are unavailable.
;-------------------------------------------------------------------------------
; If this is the PC you want to move to, set Target.
; If this is the PC you want to move from, set Source.
TopOptions_Page_Choice_Mode =
; Choose the type of migration you want to perform below.
; FileTransfer : Copy files and settings using a removable media
; P2P : PCs are directly connected by an ethernet cable
TopOptions_Page_Choice_TransferMode =
; Set yes to perform a Target-Initiated migration,
; or set no to perform a standard migration.
TopOptions_Page_Target_Initiated_Migration =
;-------------------------------------------------------------------------------
; INSTALL METHOD PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
; Set Network/Media to perform a Auto/Manual migration.
InstallMethod_Page_Choice_Method =
;-------------------------------------------------------------------------------
; MIGRATION OPTIONS PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Options_Page_Choice_Profiles = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Desktop = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Applications = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Printers = hide,enabled,unchecked
Options_Page_Choice_Network = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Files = display,enabled,checked
;-------------------------------------------------------------------------------
; DESKTOP PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Desktop_Page_Choice_Desktop_Settings = display,enabled
```

```
Desktop_Page_Choice_Accessibility = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Active_Desktop = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Colors = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Desktop_Icons = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Display = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Icon_Font = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Keyboard = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Mouse = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Pattern = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Screen_Saver = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Send_To_Menu = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Shell = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Sound = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Start_Menu = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Task_Bar = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Time_Zone = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Wallpaper = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Window_Metrics = display,enabled
;-------------------------------------------------------------------------------
; APPLICATIONS PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Applications_Page_Show_Registry_Button = no
;-------------------------------------------------------------------------------
; NETWORK PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Network_Page_Choice_TCP_IP_Configuration = display
Network_Page_Choice_IP_Subnet_Gateway = display,enabled
Network_Page_Choice_DNS_Configuration = display,enabled
Network_Page_Choice_WINS_Configuration = display,enabled
Network_Page_Choice_Network_Identification = display
Network_Page_Choice_Computer_Name = display,enabled
Network_Page_Choice_Computer_Description = display,enabled
Network_Page_Choice_Domain_Workgroup = display,enabled
Network_Page_Choice_Other = display
Network_Page_Choice_Mapped_Drives = display,enabled
Network_Page_Choice_Dial_Up_Networking = display,enabled
Network_Page_Choice_Shared_Folders_Drives = display,enabled
Network_Page_Choice_ODBC_DataSources = display,enabled
;-------------------------------------------------------------------------------
; FILE AND FOLDER SELECTION PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Selection_Page_File_Quota =
Selection_Page_File_Warning_Message =
; Warnings
[Selection_Page_Warning_Extensions_Start]
exe
com
dll
[Selection_Page_Warning_Extensions_End]
```

GUI_default_commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
	<!--
		<comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#5</comment>
		<comment>MultiUsers Migration from WinXP to Win XP by Domain Administrator via File
Migration</comment>
	-->
	<Password>
		<PlainPassword></PlainPassword>
	</Password>

	<TransferMode>
		<mode>File</mode>
```

```
</TransferMode>

<P2P>
       <connection_id></connection_id>
</P2P>

<FilesAndFolders>
     <run>true</run>
</FilesAndFolders>

<ArchiveFile>
       <filename>¥¥ServerName¥Folder¥FileName</filename>
</ArchiveFile>

<Desktop>
      <desktop_settings>false</desktop_settings>
       <accessibility>false</accessibility>
       <active_desktop>false</active_desktop>
       <colors>false</colors>
       <desktop_icons>true</desktop_icons>
       <display>false</display>
       <icon_metrics>false</icon_metrics>
       <keyboard>false</keyboard>
       <mouse>false</mouse>
       <pattern>false</pattern>
       <screen_saver>true</screen_saver>
       <sendto_menu>false</sendto_menu>
       <shell>false</shell>
       <sound>false</sound>
       <start_menu>false</start_menu>
       <taskbar>false</taskbar>
       <time_zone>false</time_zone>
       <wallpaper>true</wallpaper>
       <window_metrics>false</window_metrics>
</Desktop>

<Network>
       <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
       <dns_configuration>false</dns_configuration>
       <wins_configuration>false</wins_configuration>
       <computer_name>false</computer_name>
       <computer_description>false</computer_description>
       <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
       <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
       <mapped_drives>true</mapped_drives>
       <dialup_networking>false</dialup_networking>
       <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
       <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
</Network>

<Applications>
     <Application>Microsoft Access</Application>
     <Application>Microsoft Office Word</Application>
     <Application>Microsoft Office Excel</Application>
     <Application>Microsoft Office Power Point</Application>
     <Application>Microsoft Outlook</Application>
</Applications>

<Inclusions>
     <IncDescription>
          <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥*¥My Documents¥ /s</Description>
          <Dest></Dest>
          <Operation></Operation>
          <DateCompare>
               <Operand></Operand>
               <Date></Date>
          </DateCompare>
```

```
            <SizeCompare>
                 <Operand></Operand>
                 <Size></Size>
            </SizeCompare>
      </IncDescription>
      <IncDescription>
            <Description>*:¥*.doc /s</Description>
            <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
            <Operation>P</Operation>
            <DateCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Date></Date>
            </DateCompare>
            <SizeCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Size></Size>
            </SizeCompare>
      </IncDescription>
      <IncDescription>
            <Description>*:¥*.xls /s</Description>
            <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
            <Operation>P</Operation>
            <DateCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Date></Date>
            </DateCompare>
            <SizeCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Size></Size>
            </SizeCompare>
      </IncDescription>
      <IncDescription>
            <Description>*:¥*.ppt /s</Description>
            <Dest>C:¥other_office_files</Dest>
            <Operation>P</Operation>
            <DateCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Date></Date>
            </DateCompare>
            <SizeCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Size></Size>
            </SizeCompare>
      </IncDescription>
</Inclusions>

<Exclusions>
      <ExcDescription>
            <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥Administrator¥ /s</Description>
            <DateCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Date></Date>
            </DateCompare>
            <SizeCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Size></Size>
            </SizeCompare>
      </ExcDescription>
      <ExcDescription>
            <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥ /s</Description>
            <DateCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Date></Date>
            </DateCompare>
            <SizeCompare>
                  <Operand></Operand>
                  <Size></Size>
```

```
                </SizeCompare>
          </ExcDescription>
     </Exclusions>

     <IncUsers>
         <UserName>$(all)</UserName>
     </IncUsers>

     <ExcUsers>
          <UserName>ASPNET</UserName>
          <UserName>Administrator</UserName>
          <UserName>Guest</UserName>
          <UserName>SQLDebugger</UserName>
     </ExcUsers>

     <MigrationNote>
           <Note></Note>
     </MigrationNote>

    <Printers>
         <Printer></Printer>
    </Printers>

    <MISC>
         <bypass_registry>false</bypass_registry>
         <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
         <resolve_icon_links>false</resolve_icon_links>
          <PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
    </MISC>

</controlcard>
```

.bat ファイルの例

例 1: Capture.bat ファイル

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
copy config.ini "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥config.ini" /y
copy GUI_default_commands.xml "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥GUI_default_commands.xml" /y
@echo Start Capture operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥sma.exe"
```

例 2: Apply.bat ファイル

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
copy GUI_default_commands.xml "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥GUI_default_commands.xml" /y
@echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥sma.exe" "¥¥ServerName¥Folder¥FileName.sma"
```

シナリオ 6: マルチユーザーの移行

操作の概要

ソース PC 上で、管理者は共用ドライブ上の Capture.bat ファイルをダブルクリックして SMA のインストールを開始します。インストールが完了すると、バッチ・モードでの移行が自動的に開始します。移行ファイルがサーバーの共用フォルダーに作成されます。ターゲット PC 上で、管理者は共用ドライブ上の Apply.bat ファイルをダブルクリックして SMA のインストールを開始します。インストールが完了すると、GUI モードによる移行が自動的に開始し、管理者はターゲット PC 上の GUI 選択ビューで移行中の設

定を選択しなおすことができます。「シナリオ 5: マルチユーザーの移行」との違いは、ソース PC での移行がバッチ・モードで実行されることです。

移行の条件

マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件を表 15 に要約して示します。

表 15. マルチユーザーのバッチ・モードでの移行条件

項目		ソース PC	ターゲット PC
操作者		Administrator	Administrator
Windows OS のバージョン		Windows 2000 Professional	Windows XP または Windows Vista または Windows 7
ログオン・ユーザー・アカウントのタイプ		ローカル管理者	ローカル管理者
ツール (SMABAT または SMA)		SMABAT	SMA
接続: ファイルまたは PC から PC へ		サーバー上のファイル ¥¥Server¥folder¥FileName	
移行される設定	デスクトップ設定	デスクトップ・アイコン スクリーン・セーバー 壁紙	
	ネットワーク設定	マップされたドライブ	
	アプリケーション設定	Microsoft Access Microsoft Word Microsoft Excel Microsoft Power Point Microsoft Outlook	
	プリンター設定		
	移行されるファイルとフォルダー	「マイ ドキュメント」フォルダー内の全ユーザーのファイル (Documents and Settings¥*¥My Documents)	
	移行から除外されるファイルとフォルダー	Documents and Settings¥Administrator Documents and Settings¥All Users	
	他の各種設定	Resolve_icon_links = YES	

移行前に管理者が実施する作業

1. サーバー上に次の 2 つの共用フォルダーを準備します。
   - SMA をセットアップするための SMA_Inst
   - SMA_移行ファイルを置くための SMA_Files
2. SMA_Inst フォルダーに次のファイルを準備します。
   - ターゲット PC 上で GUI をカスタマイズするための config.ini
   - ターゲット PC 上で移行コマンドをカスタマイズするための GUI_default_commands.xml
   - ソース PC 上で移行コマンドをカスタマイズするための Commands.xml
   - SMA をインストールするための SMASetup.exe

- ソース PC 上で SMA をセットアップし呼び出すための Capture.bat
- ターゲット PC 上で SMA をセットアップし呼び出すための Apply.bat

3. エンド・ユーザーに対して、移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに置くように依頼します。

移行前にエンド・ユーザーが実施する作業

移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動またはコピーします。

移行中に 管理者が実施する作業

ソース PC で以下を行います。

1. SMA_Inst 共用フォルダーを Y: ドライブとしてマップします。
2. SMA のインストールを開始するために Capture.bat ファイルをダブルクリックします。
3. SMABAT オペレーションが完了したら、SMA 移行ファイルが

   `¥¥Server¥folder`

   に作成されることを確認します。ここで、`¥¥Server¥folder` は、UNC 形式の SMA_Files 共用フォルダーです。
4. ソース PC をシャットダウンし、ターゲット PC の操作に移ります。

ターゲット PC で以下を行います。

1. SMA_Inst 共用フォルダーを Y: ドライブとしてマップします。
2. SMA を開始するために Apply.bat ファイルをダブルクリックします。
3. 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開いたら、移行しないアカウントのチェック・ボックスをクリアします。
4. 画面の指示に従って進みます。
5. 移行済みユーザーに対して、ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理を完了するように依頼します。

移行後にエンド・ユーザーが実施する作業

1. ターゲット PC にログオンし、遅延適用処理が開始することを確認します。
2. 遅延適用処理が完了したらコンピューターを再起動します。

commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
	<!--
		<comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#6</comment>
		<comment>MultiUsers Migration from Win2000 to WinXP by Local Administrator by File
Migration</comment>
	-->
	<Password>
		<PlainPassword></PlainPassword>
	</Password>

	<TransferMode>
		<mode>File</mode>
```

```
</TransferMode>

<P2P>
       <connection_id></connection_id>
</P2P>

<FilesAndFolders>
     <run>true</run>
</FilesAndFolders>

<ArchiveFile>
       <filename>¥¥ServerName¥Folder¥FileName.sma</filename>
</ArchiveFile>

<Desktop>
      <desktop_settings>false</desktop_settings>
       <accessibility>false</accessibility>
       <active_desktop>false</active_desktop>
       <colors>false</colors>
       <desktop_icons>true</desktop_icons>
       <display>false</display>
       <icon_metrics>false</icon_metrics>
       <keyboard>false</keyboard>
       <mouse>false</mouse>
       <pattern>false</pattern>
       <screen_saver>true</screen_saver>
       <sendto_menu>false</sendto_menu>
       <shell>false</shell>
       <sound>false</sound>
       <start_menu>false</start_menu>
       <taskbar>false</taskbar>
       <time_zone>false</time_zone>
       <wallpaper>true</wallpaper>
       <window_metrics>false</window_metrics>
</Desktop>

<Network>
       <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
       <dns_configuration>false</dns_configuration>
       <wins_configuration>false</wins_configuration>
       <computer_name>false</computer_name>
       <computer_description>false</computer_description>
       <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
       <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
       <mapped_drives>true</mapped_drives>
       <dialup_networking>false</dialup_networking>
       <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
       <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
</Network>

<Applications>
     <Application>Microsoft Access</Application>
     <Application>Microsoft Office Word</Application>
     <Application>Microsoft Office Excel</Application>
     <Application>Microsoft Office Power Point</Application>
     <Application>Microsoft Outlook</Application>
</Applications>

<Inclusions>
     <IncDescription>
           <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥*¥My Documents¥ /s</Description>
           <Dest></Dest>
           <Operation></Operation>
           <DateCompare>
                <Operand></Operand>
                <Date></Date>
           </DateCompare>
```

```
                    <SizeCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Size></Size>
                    </SizeCompare>
                              </IncDescription>
          </Inclusions>

          <Exclusions>
               <ExcDescription>
                    <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥Administrator¥ /s</Description>
                    <DateCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Date></Date>
                    </DateCompare>
                    <SizeCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Size></Size>
                    </SizeCompare>
               </ExcDescription>
               <ExcDescription>
                    <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥ /s</Description>
                    <DateCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Date></Date>
                    </DateCompare>
                    <SizeCompare>
                         <Operand></Operand>
                         <Size></Size>
                    </SizeCompare>
               </ExcDescription>
          </Exclusions>

          <IncUsers>
                 <UserName>$(all)</UserName>
          </IncUsers>

          <ExcUsers>
                 <UserName>ASPNET</UserName>
                 <UserName>Guest</UserName>
                 <UserName>SQLDebugger</UserName>
          </ExcUsers>

          <MigrationNote>
                 <Note></Note>
          </MigrationNote>

         <Printers>
              <Printer></Printer>
         </Printers>

         <MISC>
              <bypass_registry>false</bypass_registry>
              <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
              <resolve_icon_links>true</resolve_icon_links>
              <autoreboot>2</autoreboot>
         </MISC>

</controlcard>
```

Capture.bat ファイルの例

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
md C:¥SMAWORK
```

```
copy commands.xml "C:¥SMAWORK¥commands.xml" /y
@echo Start Capture operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥smabat.exe" /c "C:¥SMAWORK¥commands.xml"
```

config.ini ファイルの例

```
;******************************************************************************
; CONFIG.INI
;
; This file is intended for use with SMA version 6.0. It is used to override
; default settings within SMA.
;
; Important: Any text that appears after a semicolon ";" will be treated as a
; comment. The semicolon must appear at the beginning of the text
; and must not be preceded by other characters. Also, the text
; in this file is not case sensitive.
; For example: C:¥COMMANDS.XML is treated exactly the same as
; c:¥commands.xml.
;
;******************************************************************************
;------------------------------------------------------------------------------
; GLOBAL OPTIONS
;------------------------------------------------------------------------------
Configuration_File_Show_Configuration_Messages = no
Import_Command_File = GUI_default_commands.xml
Import_Command_File_For_Apply = GUI_default_commands_apply.xml
Export_Command_File =
Just_Create_Command_File =
Verbose_Logging = yes
Enable_4GFat32_warning = yes
Preprocess_Executable =
; Set YES/NO to display/hide the previous file selection dialog
Show_Previous_File_Selection_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the message for P2P migration
Show_P2P_Messagebox = no
; Set YES/NO to display/hide the file dialog to open and save migration file
Show_File_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the start processing message dialog
Show_Start_Processing_Dialog = no
; Set YES/NO to display/hide the reboot message dialog
Show_Reboot_Dialog = yes
; Set YES/NO to display/hide the progress dialogs
Show_All_Progressbar_Dialogs = yes
; Set YES/NO to display/hide the all warning message dialogs
Show_All_Warning_Dialogs = yes
; Set YES/NO to enable/disable password protection
Enable_Password_Protection = no
;------------------------------------------------------------------------------
; SHOW/NOT SHOW PAGE OPTIONS
;------------------------------------------------------------------------------
Splash_Page_Show_Page = no
Welcome_Page_Show_Page = no
Begin_Page_Show_Page = no
TopOptions_Page_Show_Page = no
MigOptions_Page_Show_Page = no
Profiles_Page_Show_Page = no
Desktop_Page_Show_Page = no
Applications_Page_Show_Page = no
Network_Page_Show_Page = no
Printers_Page_Show_Page = no
Selection_Page_Show_Page = yes ; Show F&F view
AutoManual_Page_Show_Page = no
P2P_Logon_Page_Show_Page = no
P2P_Auto_SRC_Page_Show_Page = no
P2P_Manual_TGT_Page_Show_Page = no
P2P_Manual_SRC_Page_Show_Page = no
```

```
P2P_SourceIni_Page_Show_Page = no
P2P_Keyword_Page_Show_Page = no
Receive_Data_Page_Show_Page = no
Log_Page_Show_Page = yes
SummaryTypical_Page_Show_Page = yes
;-------------------------------------------------------------------------------
; WINDOW TITLE OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Welcome_Page_Title =
Begin_Page_Title =
TopOptions_Page_Title =
MigOptions_Page_Title =
Profiles_Page_Title =
Desktop_Page_Title =
Applications_Page_Title =
Network_Page_Title =
Printers_Page_Title =
Selection_Page_Title =
AutoManual_Page_Title =
P2P_Logon_Page_Title =
P2P_Auto_SRC_Page_Title =
P2P_Manual_TGT_Page_Title =
P2P_Manual_SRC_Page_Title =
P2P_SourceIni_Page_Title =
P2P_Keyword_Page_Title =
Receive_Data_Page_Title =
Log_Page_Title =
SummaryTypical_Page_Title =
;-------------------------------------------------------------------------------
; GUIDANCE TEXT OPTIONS
;-------------------------------------------------------------------------------
Welcome_Page_Guidance_Text =
Begin_Page_Guidance_Text =
TopOptions_Page_Guidance_Text =
MigOptions_Page_Guidance_Text =
Profiles_Page_Guidance_Text =
Desktop_Page_Guidance_Text =
Applications_Page_Guidance_Text =
Network_Page_Guidance_Text =
Printers_Page_Guidance_Text =
Selection_Page_Guidance_Text =
AutoManual_Page_Guidance_Text =
P2P_Logon_Page_Guidance_Text =
P2P_Auto_SRC_Page_Guidance_Text =
P2P_Manual_TGT_Page_Guidance_Text =
P2P_Manual_SRC_Page_Guidance_Text =
P2P_SourceIni_Page_Guidance_Text =
P2P_Keyword_Page_Guidance_Text =
Receive_Data_Page_Guidance_Text =
Log_Page_Guidance_Text =
SummaryTypical_Page_Guidance_Text =
;-------------------------------------------------------------------------------
; SPLASH PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Splash_Page_Display_Time =
;-------------------------------------------------------------------------------
; BEGIN PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
; Set Typical/Custom to perform a Typical/Custom migration.
Begin_Page_Choice_Type =
;-------------------------------------------------------------------------------
; TOP OPTIONS PAGE
; Note: When you set Begin_Page_Choice_Type = Typical,
; TopOptions_Page_xxxx options are unavailable.
;-------------------------------------------------------------------------------
; If this is the PC you want to move to, set Target.
; If this is the PC you want to move from, set Source.
```

```
TopOptions_Page_Choice_Mode =
; Choose the type of migration you want to perform below.
; FileTransfer : Copy files and settings using a removable media
; P2P : PCs are directly connected by an ethernet cable
TopOptions_Page_Choice_TransferMode =
; Set yes to perform a Target-Initiated migration,
; or set no to perform a standard migration.
TopOptions_Page_Target_Initiated_Migration =
;-------------------------------------------------------------------------------
; INSTALL METHOD PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
; Set Network/Media to perform a Auto/Manual migration.
InstallMethod_Page_Choice_Method =
;-------------------------------------------------------------------------------
; MIGRATION OPTIONS PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Options_Page_Choice_Profiles = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Desktop = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Applications = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Printers = hide,enabled,unchecked
Options_Page_Choice_Network = display,enabled,checked
Options_Page_Choice_Files = display,enabled,checked
;-------------------------------------------------------------------------------
; DESKTOP PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Desktop_Page_Choice_Desktop_Settings = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Accessibility = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Active_Desktop = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Colors = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Desktop_Icons = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Display = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Icon_Font = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Keyboard = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Mouse = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Pattern = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Screen_Saver = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Send_To_Menu = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Shell = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Sound = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Start_Menu = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Task_Bar = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Time_Zone = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Wallpaper = display,enabled
Desktop_Page_Choice_Window_Metrics = display,enabled
;-------------------------------------------------------------------------------
; APPLICATIONS PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Applications_Page_Show_Registry_Button = no
;-------------------------------------------------------------------------------
; NETWORK PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
Network_Page_Choice_TCP_IP_Configuration = display
Network_Page_Choice_IP_Subnet_Gateway = display,enabled
Network_Page_Choice_DNS_Configuration = display,enabled
Network_Page_Choice_WINS_Configuration = display,enabled
Network_Page_Choice_Network_Identification = display
Network_Page_Choice_Computer_Name = display,enabled
Network_Page_Choice_Computer_Description = display,enabled
Network_Page_Choice_Domain_Workgroup = display, enabled
Network_Page_Choice_Other = display
Network_Page_Choice_Mapped_Drives = display,enabled
Network_Page_Choice_Dial_Up_Networking = display,enabled
Network_Page_Choice_Shared_Folders_Drives = display,enabled
Network_Page_Choice_ODBC_DataSources = display,enabled
;-------------------------------------------------------------------------------
; FILE AND FOLDER SELECTION PAGE
;-------------------------------------------------------------------------------
```

```
Selection_Page_File_Quota =
Selection_Page_File_Warning_Message =
; Warnings
[Selection_Page_Warning_Extensions_Start]
exe
com
dll
[Selection_Page_Warning_Extensions_End]
```

GUI_default_commands.xml ファイルの例

```
<?xml version="1.0" ?>
<?sma version="6.0" ?>
<controlcard>
       <!--
              <comment>SMA6.0 Deployment Guide Sample Senario#6</comment>
              <comment>MultiUsers Migration from Win2000 to WinXP by Local Administrator by File
Migration</comment>
       -->
       <Password>
              <PlainPassword></PlainPassword>
       </Password>

       <TransferMode>
              <mode>File</mode>
       </TransferMode>

       <P2P>
              <connection_id></connection_id>
       </P2P>

       <FilesAndFolders>
            <run>true</run>
       </FilesAndFolders>

       <ArchiveFile>
              <filename>¥¥ServerName¥Folder¥FileName.sma</filename>
       </ArchiveFile>

       <Desktop>
             <desktop_settings>false</desktop_settings>
              <accessibility>false</accessibility>
              <active_desktop>false</active_desktop>
              <colors>false</colors>
              <desktop_icons>true</desktop_icons>
              <display>false</display>
              <icon_metrics>false</icon_metrics>
              <keyboard>false</keyboard>
              <mouse>false</mouse>
              <pattern>false</pattern>
              <screen_saver>true</screen_saver>
              <sendto_menu>false</sendto_menu>
              <shell>false</shell>
              <sound>false</sound>
              <start_menu>false</start_menu>
              <taskbar>false</taskbar>
              <time_zone>false</time_zone>
              <wallpaper>true</wallpaper>
              <window_metrics>false</window_metrics>
       </Desktop>

       <Network>
              <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
              <dns_configuration>false</dns_configuration>
              <wins_configuration>false</wins_configuration>
              <computer_name>false</computer_name>
```

```
        <computer_description>false</computer_description>
        <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
        <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
        <mapped_drives>true</mapped_drives>
        <dialup_networking>false</dialup_networking>
        <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
        <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
</Network>

<Applications>
    <Application>Microsoft Access</Application>
    <Application>Microsoft Office Word</Application>
    <Application>Microsoft Office Excel</Application>
    <Application>Microsoft Office Power Point</Application>
    <Application>Microsoft Outlook</Application>
</Applications>

<Inclusions>
    <IncDescription>
          <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥*¥My Documents¥ /s</Description>
          <Dest></Dest>
          <Operation></Operation>
          <DateCompare>
               <Operand></Operand>
               <Date></Date>
          </DateCompare>
          <SizeCompare>
               <Operand></Operand>
               <Size></Size>
          </SizeCompare>
    </IncDescription>
</Inclusions>

<Exclusions>
    <ExcDescription>
          <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥Administrator¥ /s</Description>
          <DateCompare>
               <Operand></Operand>
               <Date></Date>
          </DateCompare>
          <SizeCompare>
               <Operand></Operand>
               <Size></Size>
          </SizeCompare>
    </ExcDescription>
    <ExcDescription>
          <Description>%SystemDrive%¥Documents and Settings¥All Users¥ /s</Description>
          <DateCompare>
               <Operand></Operand>
               <Date></Date>
          </DateCompare>
          <SizeCompare>
               <Operand></Operand>
               <Size></Size>
          </SizeCompare>
    </ExcDescription>
</Exclusions>

<IncUsers>
       <UserName>$(all)</UserName>
</IncUsers>

<ExcUsers>
       <UserName>ASPNET</UserName>
       <UserName>Guest</UserName>
       <UserName>SQLDebugger</UserName>
</ExcUsers>
```

```
     <MigrationNote>
            <Note></Note>
     </MigrationNote>

    <Printers>
         <Printer></Printer>
    </Printers>

    <MISC>
         <bypass_registry>false</bypass_registry>
         <overwrite_existing_files>true</overwrite_existing_files>
         <resolve_icon_links>true</resolve_icon_links>
         <PromptBeforeDelayedApply>true</PromptBeforeDelayedApply>
    </MISC>

</controlcard>
```

Apply.bat ファイルの例

```
@echo SMA6.0 Installation is in progress...
start /WAIT SMAsetup.exe /s /v"/qn"
copy GUI_default_commands.xml "C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥GUI_default_commands.xml" /y
@echo Start Apply operation...
"C:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥sma.exe" "¥¥ServerName¥Folder¥FileName"
```

第 6 章 移行可能なアプリケーション設定

この付録では、SMA で移行できるアプリケーションと設定をリストしています。オペレーティング・システム、移行シナリオ、およびソース・マシンとターゲット・マシンのアプリケーション・バージョンの違いなどによって、異なる結果が生じる可能性があります。ユーザー設定を含むファイルをデフォルト・フォルダー以外の場所に保存すると、アプリケーション設定が正しく移行されない場合があります。こうした場合、最初にご使用の環境に従ってアプリケーション・ファイルを編集し、その後にアプリケーション設定を移行するようにしてください。

ソース PC とターゲット PC に違うバージョンのアプリケーションがインストールされている場合は、ターゲット PC のバージョンの方が新しいことが必要です。

一般的なアプリケーション設定の移行

以下の表で、一般的なアプリケーション設定の移行に関する情報を示します。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定

アプリケーション	設定	注記
ThinkVantage Access Connections™ バージョン 3.x、4.x、5.12 および 5.2	ロケーション・プロファイル	
ThinkVantage Client Security Solution バージョン 7.0、8.0、8.2、8.21、および 8.3	• セキュリティー・ポリシー設定 • 認証モード • パスフレーズ	システム・ドライブの Private Disk ファイルだけが移行できます。 Private Disk がマウントされていると SMA を使用した移行は実行できません。移行を始める前にすべての Private Disks をアンマウントしてください。Private Disk のアンマウント方法については、ThinkVantage Client Security Solution のヘルプを参照してください。 ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、Private Disk は正しく移行されません。
ThinkVantage 指紋認証ユーティリティー (UPEK) バージョン 5.5、5.6、5.6.1、5.8、および 5.9	• パスポート・データ • 一般 • ログオン • セキュリティー・モード • サウンド • Bio (バージョン 5.6 以降) • パワーオン・セキュリティー (バージョン 5.6 以降)	移行済みの指紋認証ユーティリティー (Fingerprint Software) のデータを正しく使用するためには、Windows のログオン・パスワードをソース・コンピューターの Windows ログオン・パスワードと同じになるように再設定する必要があります。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
ThinkVantage 指紋認証ユーティリティー (Authentec) 3.2	• 認証 • 追加セキュリティー • ユーザー特権	
ThinkVantage Password Manager setting for Client Security Solution 7.0、8.0、8.1、8.21、および 8.3	• 設定	
ThinkVantage プレゼンテーション・ディレクター バージョン 2、3、および 4.01	• プロファイル • この表示体系をすぐに適用する: • プレゼンテーション・ディレクター・アイコンをタスクバーのシステム・トレイに表示する • オプション... • Fn + F7 設定	
ThinkVantage Rescue and Recovery バージョン 1.0、2.0、3.0、3.1、4.0、4.1、4.2、4.21、および 4.3	• バックアップのファイル・リストの組み込みと除外 • バックアップ設定	バージョン 4.0 と同じ設定のバージョン 4.1 および 4.2 の移行設定をサポートします。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Adobe Acrobat Reader バージョン 5.x、6.x、7.x および 8.x	• アクセシビリティー • 注釈 • ユーザー情報 • フルスクリーン・モード • アップデート • Web Buy	ほとんどの共通設定形式の バージョン 6、7 から 8 への移行をサポートします。 以下の共通設定は 7 から 8 には移行できません。 • 編集 / 設定 / 形成 / 一般 / フィールドの値は自動計算します • 編集 / 設定 / 形式 / 一般 / 形成データはディスクに保持するため一時的に使用可能です • 編集 / 設定 / フルスクリーン / フルスクリーン外観 / デフォルト・トランザクション • 編集 / 設定 / フルスクリーン / フルスクリーン外観 / マウス・カーソル • 編集 / 設定 / ユーザー情報 • 編集 / 設定 / インターネット / Web オプション / PDF をブラウザーに表示 • 編集 / 設定 / マルチメディア / • 編集 / 設定 / スペルチェック / 下線の色 • 編集 / 設定 / スペルチェック / 辞書 以下の共通設定は 6 から 8 には移行できません。 • 編集 / 設定 / 形成 / 一般 / フィールドの値は自動計算します • 編集 / 設定 / 形式 / 一般 / 形成データはディスクに保持するため一時的に使用可能です • 編集 / 設定 / フルスクリーン / フルスクリーン外観 / デフォルト・トランザクション • 編集 / 設定 / ユーザー情報 • 編集 / 設定 / インターネット / Web オプション / PDF をブラウザーに表示 • 編集 / 設定 / マルチメディア • 編集 / 設定 / 読み上げ / 読み上げ順序 • 編集 / 設定 / 読み上げ / 辞書 • 編集 / 設定 / 起動 / スプラッシュ・スクリーンを表示

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	**設定**	**注記**
Adobe Illustrator 12.0 および CS4	• 色設定 • エンベロープ変更 / エンベロープ・オプション • キーボード・ショートカット • ライブ・ペイント / ギャップ・オプション • ライブ・トレース / トレース・オプション • SWF プリセット • 設定 / 黒色の外観処理 • 設定 / ファイル処理およびクリップボード • 設定 / 一般 • 設定 / ガイドおよびグリッド • 設定 / ハイフン処理 • 設定 / プラグインおよびスクラッチ・ディスク • 設定 / セクションおよびアンカー表示 • 設定 / スライス • 設定 / スマート・ガイド • 設定 / タイプ • 設定 / 単位および表示性能 • 設定 / ユーザー・インターフェース • テキスト折り返し / テキスト折り返しオプション • ツール / オプション... / ネットワーク • トレース事前設定 • 透明度フラットナー事前設定 • ワークスペース / ワークスペース管理	
Adobe Pagemaker 7.0	• 文書のセットアップ • 設定 • ポリゴン設定 • 丸められたコーナー • リンク・オプション	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Adobe Photoshop 8.0 および CS4	• 色設定 • キーボードのショットカットとメニュー • 設定 • 校正セットアップ • 表示 / 特殊オプションの表示	
AOL Instant Messenger 6.0 および 7.0	• Edit / Away Messages • View / Buddy List Window Always On Top • Edit / My Buddy Info • Edit / Settings / Buddy List • Edit / Settings / Connection • Edit / Settings / Enhanced IM • Edit / Settings / Expressions • Edit / Settings / General IM • Edit / Settings / IM Logging • Edit / Settings / Notifications • Edit / Settings / Offline IM • Edit / Settings / Privacy • Edit / Settings / Sounds • Edit / Settings / Sign In / Sign Out • Edit / Settings / Style • View / Offline Buddies • View / Plugins • View / Show in Buddy List • View / Sort Buddy List By	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Apple iTunes 7 および 8.1	• 編集 / 設定 / 一般 • 編集 / 設定 / デバイス (ただし、このコンピューター上のデータが、... 個を超えて変更されるときに出される警告は除きます) • 編集 / 設定 / Podcast • 編集 / 設定 / 再生 • 編集 / 設定 / 共有 • 編集 / 設定 / Apple TV • 編集 / 設定 / Store • 編集 / 設定 / 拡張 • 編集 / 設定 / ペアレンタルコントロール • コントロール / シャフル • コントロール / リピートする • 表示 / ビジュアライザ・オプション • 表示 / リスト表示 • 表示 / アルバム表示 • 表示 / Cover Flow 表示 • 表示 / 表示オプション • 表示 / ビジュアライザ • 表示 / ブラウザを表示/ブラウザを隠す • 表示 / アートワークカラムを表示/アートワークカラムを隠す • 表示 / イコライザを表示 • 表示 / ミニプレイヤーに切り替え	
AT&T Network Client 5.0	• 一般 • 拡張電話設定	
AT&T Global Network Client 7.6	• Login Properties • Default profiles and user setup profiles	
Avaya IP Softphone 6.0	• View • Tools / Program Options • Settings / Audio / Options • Audio / Options • Settings / Font	ユーザーが View / Call Bar Style / Generic Phone を選択すると、Audio Options メニューが Settings メニューの下に表示され、Audio メニューは表示されません。ユーザーが View / Call Bar Style / Classic を選択した場合は、 Audio Options メニューが Audio メニューの下に表示され、Audio Options サブメニューは Setting メニューの下に表示されません。
Corel Presentations 12.0	• ワークスペース・マネージャー • 設定	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Corel Quattro Pro 12.0	• ワークスペース・マネージャー • 表示 • 設定	
Corel WordPerfect 12.0	• ワークスペース・マネージャー • 設定	
Google Desktop 4.2	• Desktop Use Habit/Local Index • Desktop Use Habit/Display • Desktop Use Habit/Others	
Google Earth 4.0	• PlaceMark • オプション • ウィンドウ位置	
Google Picasa 2.2 および 3.1	• Tools / Configure Buttons • View / Folder View • View / Hidden Pictures • Tools / Network • Tools / Options / E-mails • Tools / Options / File Types • Tools / Options / General • Tools / Options / Printing • Tools / Options / Slideshow • View / Small Pictures • View / Small Thumbnails / Normal Thumbnails • View / Thumbnail Caption • Tools / Web Albums	
Google Talk 1.0	• Account • View • Setting / General / Friends list • Setting / General / Change font • Setting / Notification • Setting / Audio • Setting / Appearance	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
IBM® Global Network Dialer 4.0 Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server で稼働するターゲット・コンピューターのみをサポートします。	• アクセス • 外観 • プログラム • ブラウザー • メール • ニュース • サーバー	
Intuit Quicken 2007	• Edit / Costomize Account Bar • Edit / Customize Toolbar • Edit / Preferences / Quicken Program (exclude: Register, Reminders) • Edit / Preferences / Customize Online Updates (exclude: Connection) • Tools / Edit Personal Information • Account List • Category List (exclude: Display tax information) • Scheduled Transaction List • Memorized Payee List • Class List • Currency List • Calendar • Show All Alerts • Set Up Alerts • Address Book • Cash Flow / Reconcile • Cash Flow / Write Checks • Cash Flow / Budget • Cash Flow / Calendar • Investing / Portfolio • Investing / Security Detail View • Investing / Portfolio Analyzer • Investing / Security List • Investing / Security Type List • Investing / Investing Goal List • Property & Debt / Loan • Planning / Saving Goals • Tax / Tax Planner	SMA は、Quicken により設定されたデフォルト・ディレクトリー内の Quicken データおよび設定ファイルのみを移行します。 ターゲット・コンピューターに適用された後、Quicken は、ソース・コンピューターで最後にオープンされたデータ・ファイルを自動的にオープンできません。そのため、ユーザーは Quicken データ・ファイルを手動でオープンしてから、データおよび設定ファイルにアクセスしてください。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Intuit QuickBooks 2007	• Edit / Preferences • View / Open Window List • View / Navigation Bar • View / Icon Bar • View / One Window / Multiple Windows • Company / Company Information • Company / Set Up Users • Company / Planning & Budgeting / Set Up Budgets • Company / Planning & Budgeting / Set Up Forecast • Company / To Do List • Company / Alerts Manager • Customers / Customer Center • Vendors / Vendor Center • Vendors / Item List • Employees / Employee Center	SMA は、QuickBooks により設定されたデフォルト・ディレクトリー内の QuickBooks 会社のデータ・ファイルのみを移行します。
Lotus Notes、バージョン 4.x、5.x、6.x、7.x、および 8.5	• ホーム • ファイル / データベース / アクセス制御 • ファイル / レプリケーター / 設定 • ファイル / プリファレンス • ビュー • メール • ID ファイル • INI ファイル • アドレス帳	異なるバージョン間で移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
Lotus Organizer®, バージョン 6.0	• To Do プリファレンス • 環境 • アラーム • 祝日の設定 • 記念日	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます。 Lotus Notes は例外です。 良い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Lotus¥Wordpro¥ • C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Program files¥Wordpro¥ • D:¥Lotus¥Organizer¥

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Lotus SmartSuite® for Windows バージョン 9.8	• Approach® – 表示 – グリッド – 設計の表示 (Show in design) – デフォルト・ソートの維持 – データベース – 表示 – ナビゲーション – データ • Freelance Graphics® – グリッド – 設定 – ビュー • Lotus 1-2-3® – 一般 – 新規ワークブック・デフォルト – 再計算 – 互換メニュー – ビュー – 一般 – セキュリティー – 表示 / 非表示 • Word Pro® – 一般 – ロケーション – 個人情報 – 一般使用 – パフォーマンス – ビュー – 設定 • SmartCenter – フォルダー・オプション (カラーおよびアイコン)	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます。 Lotus Notes は例外です。 良い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Lotus¥Wordpro¥ • C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: • C:¥Lotus¥123¥ • C:¥Program files¥Wordpro¥ • D:¥Lotus¥Organizer¥ 「設定」内の「場所」の設定は移行されません。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
McAfee VirusScan バージョン 7.0 および 8.0	• システム・スキャン/アクション • システム・スキャン/レポート • システム・スキャン/除外 • E メール・スキャン/検出 • E メール・スキャン/アクション • E メール・スキャン/アラート • E メール・スキャン/レポート • スクリプト・ストッパー	McAfee VirusScan バージョン 7.0 からバージョン 8.0 への移行はサポートされていません。
Microsoft Access®、バージョン 2000、2003、XP および 2007	• ツールバー • オプション • ビュー • 一般 • 検索 • キーボード • データ・シート • レポート作成 • 拡張オプション • 照会	
Microsoft Internet Explorer、バージョン 5.0、5.5、6.0、7.0、および 8.0	• お気に入り • ツール / ビュー設定の互換性 • 表示 / エンコード • 表示 / 全画面表示 • 表示 / エクスプローラ バー • ツール / インプライベート フィルタリング設定 • ツール / インターネット オプション • 表示 / 文字のサイズ • 表示 / ツールバー	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	**設定**	**注記**
Microsoft Money 2007	• Tools / Settings / Account settings • Tools / Settings / Backup Settings • Tools / Settings / Bill Settings • Tools / Settings / Browser Settings • Tools / Settings / Category Settings • Tools / Settings / Home page display settings • Tools / Settings / Investment settings • Tools / Settings / Online service settings • Tools / Settings / Planner settings • Tools / Settings / Print checks • Tools / Settings / Program settings	SMA は、Microsoft Money により設定されたデフォルト・ディレクトリー内の Microsoft Money ファイルおよび Microsoft Money バックアップ・ファイルのみを移行します。ユーザーが Microsoft Money ファイルおよび Microsoft Money バックアップ・ファイルを保存するためにディレクトリーを変更した場合は、SMA はデフォルト・ディレクトリー内に存在しないこれらのファイルを取り込みません。 ターゲット・コンピューターに適用後、ソース・コンピューターで最後にオープンされた Microsoft Money ファイルを Microsoft Money は自動的にオープンできないため、ユーザーは Money ファイルを手動でオープンする必要があります。
Microsoft NetMeeting、バージョン 2.x および 3.x	• ビュー • 一般 • 呼び出し • 拡張呼び出しオプション • セキュリティー	
Microsoft Office、バージョン 97、2000、2003、XP、および 2007 (Excel、PowerPoint および Word)	• ツールバー • オプション • テンプレート • 保存オプション • ユーザー情報 (ツール・オプションの下)	ソース・コンピューターの Microsoft Office のバージョンがターゲット・コンピューターのバージョンと異なる場合、 Word および PowerPoint アプリケーションのツールバーとテンプレートの設定は移行されません。 「オプション」設定の「互換性」の設定は移行されません。
Microsoft Office 2003 Publisher 11.0、Microsoft Office 2007 Publisher 12.0	• ウィンドウ位置 • プライバシー・オプション • プリンターおよび用紙 / ポケベル設定	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook®、バージョン 98、2000、2003、XP および 2007	• ツールバー • ビュー • カスタマイズ・オプション • アドレス帳 • アカウント • 設定/E メール・オプション • トラッキング・オプション • カレンダー・オプション • メール・デリバリー • リソース・スケジューリング	Microsoft Outlook と Internet Explorer は同時に移行してください。 Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合は、ターゲット・コンピューターの Microsoft Outlook を開始する前に、次の手順を実行します。 1. 「**コントロール パネル**」を開きます。 2. 「**フォルダー オプション**」をダブルクリックします。 3. 「**表示**」タブを選択します。 4. 「**すべてのファイルとフォルダを表示する**」を選択します。 5. 「**OK**」をクリックし、次に「Folder Options」ウィンドウを閉じます。 6. 「コントロール パネル」で「**メール**」をダブルクリックします。 7. 「**データ・ファイル**」をクリックします。 8. 「**設定**」をクリックします。 9. Outlook.pst が無効のメッセージが表示されたら、「**OK**」をクリックします。 10. 次のディレクトリーに進みます。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥ Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Outlook と進み、Outlook.pst を選択します。 (%USERNAME% は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 11. 「メールのセットアップ」を閉じます。 12. Microsoft Outlook を始動します。 ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動する前にこの手順を完了していない場合は、Microsoft Microsoft Outlook を移行し直し、あらためてこの手順を実行しなければならなくなります。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook Express、バージョン 5.x、および 6.x / Microsoft Windows Mail	• 一般 • メール送信フォーマット • ニュース送信フォーマット • 送信 • 読み取り • セキュリティー • 拡張オプション • アドレス帳	Microsoft Outlook Express と Internet Explorer は同時に移行してください。Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 アドレス帳が移行されなかった場合は、次のようにします。 1. 「**コントロール パネル**」を開きます。 2. 「**フォルダー オプション**」をダブルクリックします。 3. 「**表示**」タブを選択します。 4. 「**すべてのファイルとフォルダを表示する**」を選択します。 5. 「**OK**」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x/6.x を始動します。 7. メニュー・バーで「**ファイル**」を選択します。 8. 「**インポート**」を選択してから、「**アドレス帳**」を選択します。 9. 「アドレス帳」ファイル (*.wab) を次のように指定します。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME %¥Application Data¥Microsoft¥address book¥%SOURCEUSERNAME%.wab (%SOURCEUSERNAME% は、ソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 10. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。 アドレス帳のフォルダーは移行されません。これは Outlook Express の制約事項です。詳しくは、http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;268716 を参照してください。
Microsoft Project、バージョン 98、2000 および 2002	• ツールバー • 設定 • 保存オプション • ファイル場所 • 最新の文書	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Visio®、バージョン 2000 および 2002	• ビュー • ツールバー • カスタマイズ / オプション • 一般 • 作図 • 設定 • 拡張オプション	
Microsoft Windows Media Player 9、10、 11、および 12	• ファイル / オフラインで実行 • 再生 / オーディオおよび言語トラック • 再生 / キャプションと字幕 • ツール / オプション... / 音楽の取り込み • ツール / オプション... / デバイス • ツール / オプション... / DVD • ツール / オプション... / ライブラリ • ツール / オプション... / ネットワーク • ツール / オプション... / パフォーマンス • ツール / オプション... / プレーヤー • ツール / オプション... / プラグイン / バッテリーのプロパティ • ツール / オプション... / プライバシー • ツール / オプション... / リップ ミュージック • ツール / オプション... / セキュリティ • ツール / プラグイン / オプション • 表示 / フル モード • 表示 / プラグイン / オプション • 表示 / スキン セレクタ • 表示 / スキン • 表示 / メニュー バーを表示 • 表示 / ビデオのサイズ	バージョン 9 から移行可能なすべての設定はバージョン 10、11、および 12 に組み込まれていますが、すべての設定がバージョン 10、11、および 12 と同じとは限りません。そのため、SMA は 10 から 11 および 12 に設定を移行する場合、共通設定のみを移行し、「ツール/オプション.../パフォーマンス/詳細...」の下の設定は 10 から 11 および 12 に移行しません。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Windows Live Messenger 7.5、8.1、8.5、および 2009	• ツール / オプション / アラート • ツール / オプション / 接続 (「詳細設定 / ユーザー名、パスワード」は除外) • ツール / オプション / ファイルの送信 • ツール / オプション / レイアウト • ツール / オプション / メッセージ (「メッセージ履歴」は除外) • ツール / オプション / 個人設定 • ツール / オプション / 電話 • ツール / オプション / プライバシー • ツール / オプション / セキュリティ • ツール / オプション / サインイン (「Windows へのログオン時に Windows Live Messenger を実行する」は除外) • ツール / オプション / サウンド	SMA は、バージョン 5 から 7.5、8.1、8.5、および 2009 への移行をサポートしていません。また、SMA は、7.5 から 8.1 、8.1、8.5 および 2009 への以下の共通設定の移行もサポートしていません。 • コンタクト / コンタクト先の表示 • ツール / 表示アイコンの変更 / アイコンを表示しない • ツール / オプション / タブ • ツール / 接続 / 詳細設定 / 接続の問題を解決するために、サーバー接続のログを保存する • ツール / 個人設定 / Windows Media Player の音楽情報を表示メッセージで公開する SMA は、Live Messenger により設定されたデフォルト・ディレクトリー内の受信ファイルの移行のみをサポートしています。ユーザーが受信ファイルの場所を変更した場合は、SMA はデフォルトの受信ディレクトリー内に存在しないこれらのファイルを取り込みません。
Microsoft Windows MSN® Messenger 5.0	• 個人情報 • メッセージ • プライバシー • 一般 • アカウント • 接続	
Microsoft Works Suite 2006	• Home / Calendar • Home / Contacts • Projects / Saved Projects	SMA は Windows XP または Windows 2000 から Windows Vista または Windows 7 への Works Suite の設定の移行をサポートしていません。理由は、Works Suite が Windows XP、Windows 2000 と Windows Vista 、Windows 7 の間で異なる設定ファイルを使用しているためです。
Mozilla Firefox 1.5, 2.0, 3.0, and 3.5	• Tools / Clear Recent History... • Tools / Options... • View / Character Encoding • View / Page Style • View / Sidebar • View / Status Bar • View / Toolbars • View / Zoom / Zoom Test Only	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Netscape Navigator、バージョン 6.x および 7.x (続き)		ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、移行を開始する前に、次の手順を実行します。 1. 「**コントロール パネル**」を開きます。 2. 「**フォルダー オプション**」をダブルクリックします。 3. 「**表示**」タブを選択します。 4. 「**すべてのファイルとフォルダを表示する**」を選択します。 5. 「**OK**」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. 移行する前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。(ここで、 %USERNAME%は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) このフォルダーの名前を `SMABACK` に変更します。 7. Netscape を移行します。 8. ターゲット・コンピューターをリブートします。 9. 「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」を開きます (xxxxx には、ソース側と同じ名前を選択します)。 10. メニュー・バーで「**編集**」を選択します。 11. 「**設定**」を選択します。 12. 「**カテゴリー**」から「**拡張**」を選択します。 13. 「**キャッシュ**」を選択します。 14. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% ¥Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx には、ソース側と同じ名前を選択します)。 15. 「prefs.js」ファイルを右クリックし、「**編集**」を選択します。 16. 「C:¥Documents and Settings¥%SOURCEUSER%¥¥」を検索して、すべての %SOURCEUSER% を %USERNAME% と置き換えます (%SOURCEUSER% はソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名、%USERNAME% はターゲット・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名)。 17. Netscape を開始します。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Norton Antivirus バージョン 7.x および更新版	• スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション • ランダム・オプション	
Palm Desktop 4.1	• ウィンドウ位置 • アドレス帳 • ToDo • メモ • 経費	Windows Vista または Windows 7 では、ウィンドウ位置のみが移行可能です。

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Skype 3.2 および 4.0	• Skype / online Status • Skype / Profile • Tools / Change Language • Tools / Options / Advanced / Advanced settings • Tools / Options / Advanced / Connection • Tools / Options / Advanced / Hotkeys • Tools / Options / Calls / Call Settings • Tools / Options / General / AudioSettings • Tools / Options / General / General Settings • Tools / Options / General / Sounds • Tools / Options / General / Video settings / Automatically receive video from • Tools / Options / General / Video settings / Show that I have video to • Tools / Options / IM & SMS / IM Appearance • Tools / Options / IM & SMS / IM Settings • Tools / Options / Privacy / Privacy Settings • Tools / Options / Notifications / Notifications Settings • Tools / Options / Notifications / Alerts & Messages • Tools / Options / Notifications / Sounds • View / Character Encoding • View / Default View or Compact View	
Symantec Antivirus 9.x	• 更新スケジュール • スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション • ランダム・オプション	

表 16. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
タブレット OS の設定	• タブレット入力ウィンドウの設定 • タブレット・ペンの設定	
WinZip バージョン 8.x および 11	• 列 • 一般 • セクション • ボタン • システム・デフォルト・フォルダー • エクスプローラー機能拡張 • コンテキスト・メニュー・コマンド • その他	バージョン 8 から 11 への共通設定の移行は、以下の一部の共通設定を除き、大部分がサポートされています。 • Options / Configuration / System / Associate Winzip with archives • Options / Configuration / System / include winzip in start menu • Options / Configuration / System / include winzip on desktop • Options / Configuration / Explorer enhancements / Display context menu items in a submenu • Options / Configuration / Miscellaneous / • Options / Configuration / Other / Show comments when opening ZIP files
Yahoo Messenger 8.1	• Messenger / Preferences / General (Edit Mobile Device を除く) • Messenger / Preferences / Alert & Sounds • Messenger / Preferences / Appearance • Messenger / Preferences / Archive • Messenger / Preferences / Chat • Messenger / Preferences / Connection • Messenger / Preferences / Display Image • Messenger / Preferences / Ignore List • Messenger / Preferences / Yahoo! Music • Messenger / Preferences / LiveWords • Messenger / Preferences / Messages • Messenger / Preferences / Privacy • Messenger / Preferences / Webcam • Messenger / Preferences / Super Webcam • Contacts / Show Offline Contracts • Contacts / Show Empty Groups • Contacts / Show Messenger List • Contacts / Show Address Book	

追加アプリケーション設定の移行

注: カスタム・アプリケーション・ファイルを作成する場合は、カスタマイズされた設定が保存されている場所を含め、アプリケーションについて完全な知識を持っている必要があります。

デフォルトでは、いくつかのアプリケーションの設定を移行するように SMA が事前構成されています。また、カスタム・アプリケーション・ファイルを作成して追加アプリケーションの設定を移行することもできます。

このファイルの名前は必ず *application*.xml または *application*.smaapp とし、*d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Apps ディレクトリーに保存する必要があります。ここで、*application* はアプリケーションを示し、*d* はハードディスクのドライブ名です。同じアプリケーションに対し、*application*.smaapp と *application*.xml の両方のカスタム・アプリケーション・ファイルが存在する場合は、*application*.smaapp ファイルが優先されます。

新規アプリケーションをサポートするために、既存のアプリケーション・ファイルをコピーして必要な変更を行います。

アプリケーション・ファイルについて、以下の特性を知っておいてください。

- *application*.xml
  - 「<!--」と「-->」で囲まれた <!--タグ--> はコメントとして扱われます。例えば、次の例です。

    ```
    <!--Files_From_Folders>
     <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.* /s</Fil
    es_From_Folder>
     <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
    </Files_From_Folders-->
    ```
  - 各コマンドは別々のセクションで記述する必要があります。
  - 各セクションは、<AppInfo> または <Install_Directories> などのように、タグで囲まれたコマンドで始まります。1 つのセクションに 1 つ以上のフィールドを入力できますが、各フィールドは別々の行に分かれている必要があります。
  - アプリケーション・ファイルに構文エラーが含まれていると、SMA の操作は続行され、エラー・メッセージがログ・ファイルに書き込まれます。
  - アプリケーション・ファイルでは大文字と小文字が区別されます。
- *application*.smaapp

  application.smaapp ファイルの使用について詳しくは、149 ページの『付録 C. それ以前のバージョンとの互換性』を参照してください。

124 ページの表 17 は、アプリケーション・ファイルに関する情報を示します。

表 17. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル

設定	パラメーター	説明

<Applications>	<Family>	アプリケーションのバージョンに依存しない固有名を指定するテキスト・ストリングです。 SMA をバッチ・モードで実行する場合は、このストリングをコマンド・ファイルのアプリケーション・セクションで使用します。先行スペースは無視されます。テキスト・ストリングを引用符で囲まないでください。
		
		例:
		
		`<Family>Adobe`
		`Acrobat Reader</Family>`

	<SMA_Version>	テキスト・ストリング。SMA バージョン番号を指定します。 例: `<SMA_Version>SMA 6.0</SMA_Version>`
	<App>	*ShortName*。*ShortName* は 1 つ以上のアプリケーションのバージョン固有のショート・ネームです。 例: `<APP>Acrobat_Reader_50</APP>`
<Application ShortName="*ShortName*">	<Name>	アプリケーションの名前を指定するテキスト・ストリングです。
	<Version>	アプリケーションのバージョンを指定する数値で表すバージョンです。

	<Detects>
	<Detect>
		レジストリー・キーを指定します。SMA は、指定されたレジストリー・キーを検索してアプリケーションを検出します。
		
		例:
		
		`<Name>ThinkVantage`
		`Technology`
		`- Client Security Solution</Name>`
		`<Version>7.0</Version>`
		`<Detects>`
		` <Detect>`
		`  <hive>HKLM</hive>`
		`  <keyname>Software¥Lenovo`
		`Client Security Solution¥</keyname>`
		`   <value>Version</value>`
		` </Detect>`
		`</Detects>`
		
		<value> タグがあると、指定されたレジストリーの値を使用して、アプリケーションの特定のバージョンを検出するために <version> 記述と比較します。

表 17. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

<table>
<tr><th>設定</th><th>パラメーター</th><th>説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2"><Install_Directories.>

例:

<Install_Directories>
 <Install_Directory>
  <OS>WinXP</OS>
   <Registry>
    <hive>HKLM</hive>
    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
    <value>(Default)</value>
   </Registry>
 </Install_Directory>
 <Install_Directory>
  <OS>Win2000</OS>
   <Registry>
    <hive>HKLM</hive>
    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat
Reader
¥5.0¥InstallPath</keyname>
    <value>(Default)</value>
   </Registry>
 </Install_Directory>
</Install_Directories></td><td><OS></td><td>オペレーティング・システムを指定するテキスト・ストリングで、以下のいずれかです。
• Windows 7
• Windows Vista
• Windows XP
• Windows 2000</td></tr>
<tr><td><Registry></td><td>レジストリーにリストされているようにインストール・ディレクトリーを指定します。
hive は、HKLM または HKCU のいずれかです。
keyname はキー名です。
value はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。</td></tr>
</table>

表 17. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

設定	パラメーター	説明
<Files_From_Folders>	*SMAvariable*¥*Location*¥[*File*] [/s] ここで、 • *SMAvariable* は、カスタマイズ・ファイルの場所を指定する次のいずれかの変数です。 – %Windows Directory% (オペレーティング・システム・ファイルの場所) – %Install Directory% (Install_Directories セクションで定義されたアプリケーションの場所) – %Appdata Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Application Data ディレクトリー) – %LocalAppdata Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Local Settings フォルダーの Application Data ディレクトリー) – %Cookies Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリー) – %Favorites Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリー) – %Personal Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである My Documents ディレクトリー。この環境変数は Windows NT4 では使用できません。) – %UserProfile Directory% は「ユーザー・プロファイル」ディレクトリーです。	移行したいカスタマイズ・ファイルを指定します。この設定はオプションです。 例: <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥</Files_From_Folder> %AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルは含まれません。 <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥ /s</Files_From_Folder> %AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルも含まれます。 <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.*</Files_From_Folder> %AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルは含まれません。 <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.* /s</Files_From_Folder> %AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi フォルダー内のファイルが SMA で取り込まれます。サブディレクトリー内のファイルも含まれます。 <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi</Files_From_Folder> 「Whapi」の後ろに「¥」がない場合、SMA では「Whapi」はフォルダーではなくファイルとして扱われます。

表 17. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

設定	パラメーター	説明
<Files_From_Folders> (続き)	• *Location¥* は、完全修飾のディレクトリーを指定します。パスにワイルドカード文字を使用してもかまいません。ディレクトリーを指定すると、すべてのファイルがコピーされます。 • [*File*] はオプション・パラメーターで、Location がディレクトリーを指定し、File がコピー対象のファイルである場合にのみ使用できます。ファイル名にはワイルドカード文字を使用できます。 • [/s] はオプショナル・パラメーターです。 [/s] を使用すると、すべてのサブディレクトリー内のすべてのファイルがコピーされます。 SMA 6.0 を使用している場合は、Windows 環境変数を使用することができます。 SMA を開始したユーザーの環境変数が、Windows 環境変数の値として使用されます。	

<Registries>	*hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。
	keyname はキー名です。
	value はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。
		移行したいレジストリー項目を指定します。
		
		例えば、次の例です。
		`<Registries>`
		`<Registry>`
		`<hive>HKCU</hive>`
		`<keyname>Software¥Adobe¥Acrobat`
		`</keyname>`
		`<value></value>`
		`</Registry>`
		`</Registries>`

<Registry_Excludes>	*hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。
	keyname はキー名です。
	value はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。
		選択したレジストリー項目から除外したいレジストリー・キーと値を指定します。
		
		例えば、次の例です。
		`<Registry_Excludes>`
		`<Registry>`
		`<hive>HKCU</hive>`
		`<keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader`
		`¥5.0¥AdobeViewer`
		`</keyname>`
		`<value>xRes</value>`
		`</Registry>`
		`</Registry_Excludes>`

表 17. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

設定	パラメーター	説明
<Files_Through_Registries>	<OS> は、オペレーティング・システムを指定し、以下のいずれかの値です。 • Win7 • WinVista • WinXP • Win2000 <Registry> はレジストリー項目を指定し、*hive*,*keyname*,*value* のフォーマットになっています。ここで、 • *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。 • *keyname* はキー名です。 • *value* はオプショナル・コマンドで、移行するレジストリー値を指定します。 *File* はファイル名です。ワイルドカード文字を使用できます。	移行するカスタマイズ・ファイルを指定します。 以下に例を示します。 <Files_Through_Registries> <Files_Through_Registry> <OS>WinXP</OS> <Registry> <hive>HKCU</hive> <keyname>Software¥Lotus¥Organizer ¥99.0¥Paths</keyname> <value>Backup</value> </Registry> <File>*.*/s</File> </Files_Through_Registry> </Files_Through_Registries>
<SourceBatchProcessing>	<SourceBatchProcessing> <!CDATA[batch commands]] </SourceBatchProcessing>	<SourceBatchProcessing> は取り込みフェーズで、<Files_From_Folders> が処理される前にバッチ処理を実行します。 以下に例を示します。 <SourceBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] </SourceBatchProcessing>
<PreTargetBatchProcessing>	<PreTargetBatchProcessing> <!CDATA[batch commands]] </PreTargetBatchProcessing>	<PreTargetBatchProcessing> は適用フェーズで、<Registries> が処理される前にバッチ処理を実行します。 以下に例を示します。 <PreTargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] </PreTargetBatchProcessing>
<TargetBatchProcessing>	<TargetBatchProcessing> <!CDATA[batch commands]] </TargetBatchProcessing>	<TargetBatchProcessing> は適用フェーズで、<Registries> が処理された後にバッチ処理を実行します。 以下に例を示します。 <TargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] </TargetBatchProcessing>

アプリケーション・ファイルの作成

カスタム・アプリケーション・ファイル用にどのアプリケーション設定を移行する必要があるかを決定するには、アプリケーションを慎重にテストしなければなりません。

アプリケーション・ファイルを作成するには、次のようにします。

1. ASCII テキスト・エディターを使用して既存の application.XML ファイルを開きます。SMA をデフォルトの場所にインストールした場合、application.XML ファイルは *d*:¥Program Files¥IBM ThinkVantage¥SMA¥Apps ディレクトリーに入れられます。*d* はハードディスクのドライブ名です。
2. 移行したいアプリケーションとアプリケーション設定についてこの application.XML ファイルを変更します。
3. <Applications> セクションの情報を変更します。
4. <Application ShortName="ShortName"> セクションの <Name> コマンドおよび <Version> コマンドを変更します。
5. 移行する必要があるレジストリー・キーを決定します。
   a. 「**スタート**」 → 「**ファイル名を指定して実行**」とクリックします。「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが開きます。「**名前 (O)**」フィールドに `regedit` と入力して「**OK**」をクリックします。「レジストリ エディタ」ウィンドウが開きます。
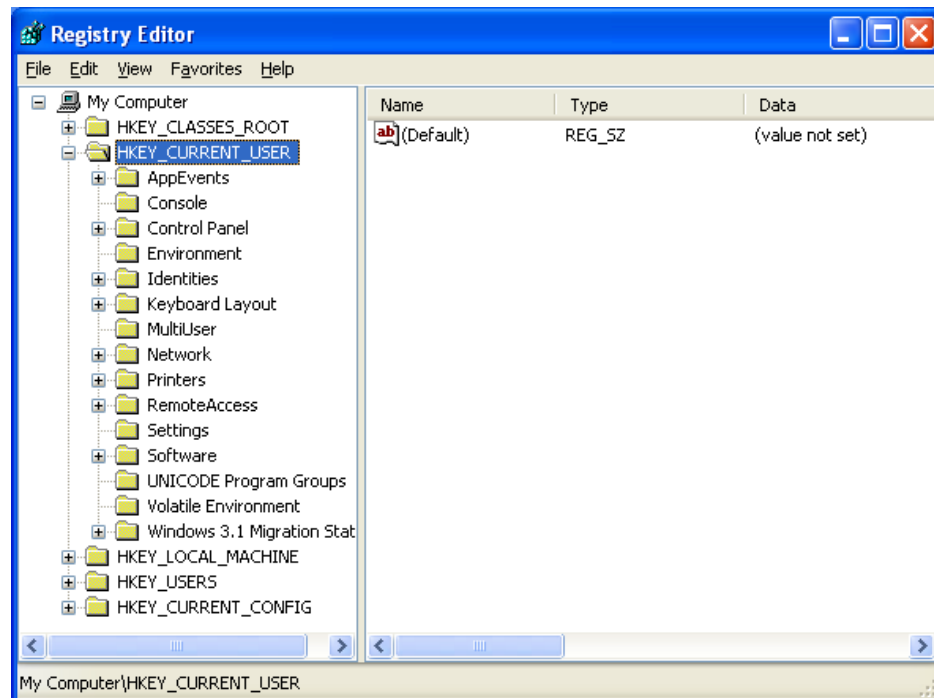
図 1. 拡張管理トピック:「レジストリ エディタ」ウィンドウ

   b. 左側のペインで「**HKEY_LOCAL_MACHINE**」ノードを展開します。
   c. 「**Software**」ノードを展開します。
   d. ベンダー固有のノード (例えば、「**Adobe**」) を展開します。

e. アプリケーションのレジストリー・キーが見つかるまで、ナビゲートを続行します。この例では、レジストリー・キーは SOFTWARE¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0 です。
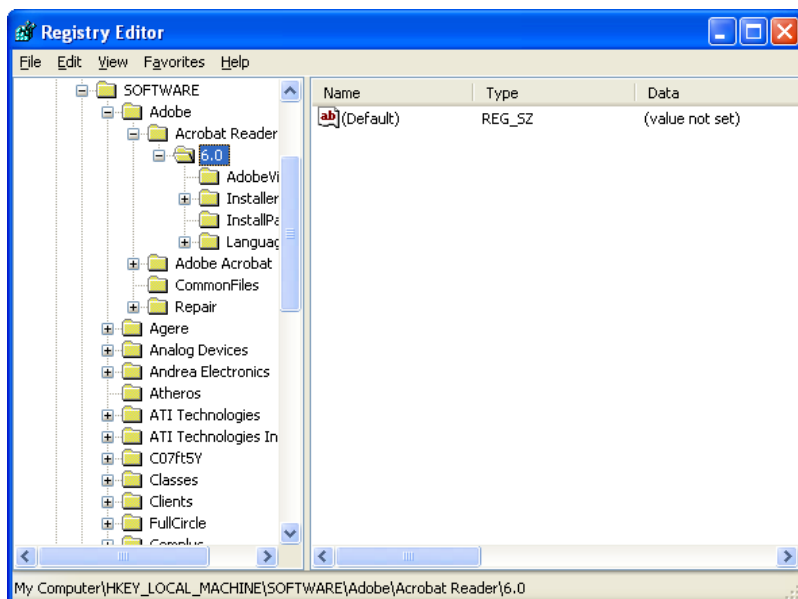
図 2. 拡張管理トピック:「レジストリエディタ」ウィンドウでのレジストリー・キーの検索

f. 「**Detect**」フィールドの値を設定します。例:

```
<Detects>
 <Detect>
  <hive>HKLM</hive>
  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0</keyname>
 </Detect>
<Detects>
```

6. <Install_Directories> セクションを変更します。
7. アプリケーションがインストールされるディレクトリーへのパスを決定します。

a. 「レジストリ エディタ」ウィンドウから、HKLM¥SOFTWARE¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath ノードにナビゲートします。
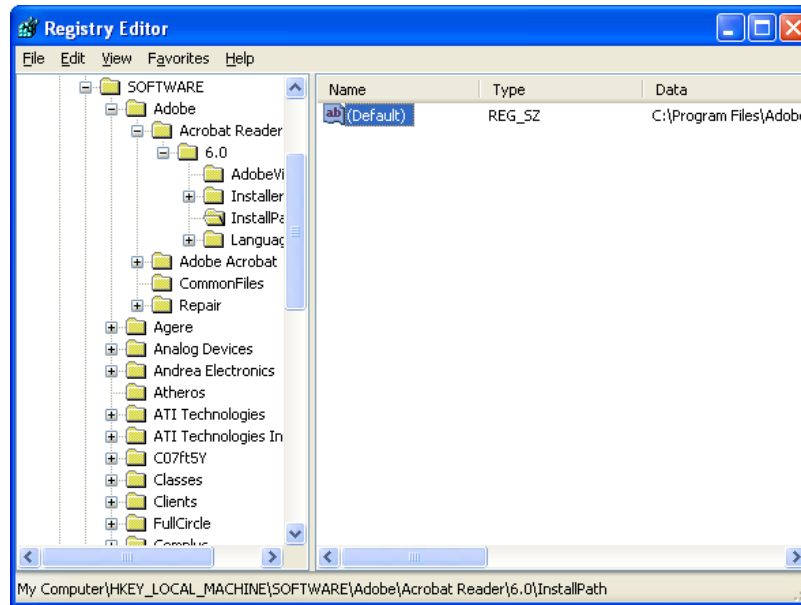
図 3. 拡張管理トピック:「レジストリ エディタ」ウィンドウ :インストール・パスの検索

b. 該当するコマンドをアプリケーション・ファイルの <Install_Directories> セクションに追加します。例:

```
<Install_Directory>
 <OS>WinXP</OS>
  <Registry>
   <hive>HKLM</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
   <value>(Default)</value>
  </Registry>
</Install_Directory>
```

注: アプリケーション固有のディレクトリーが HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥AppPaths ディレクトリーにない場合は、HKLM¥Software ツリー内の他の場所で、インストール・パスを含むディレクトリーを見つける必要があります。ディレクトリーを見つけたら、そのキーを <Install_Directories> セクションで使用します。

8. <Files_From Folders> セクションで、移行したいカスタマイズ・ファイルを指定します。

a. 多くのアプリケーションは、デフォルトで、ファイルを Documents and Settings サブディレクトリーに保存しているので、Application Data ディレクトリーでこのアプリケーションに関連するディレクトリーを調べてください。それが存在している場合は、次のコマンドを使用してそのディレクトリーとファイルを移行することができます。

```
<Files_From_Folder>SMAvariable¥Location¥[File]
[/s] </Files_From_Folder>
```

ここで、*Location/* は完全修飾ファイルまたはディレクトリー、[*File*] は、*Location/* がディレクトリーを指定する場合に限り使用可能なオプショナル・パラメーターです。

Adobe Reader の例では、カスタマイズ・ファイルは Preferences ディレクトリーに入っています。
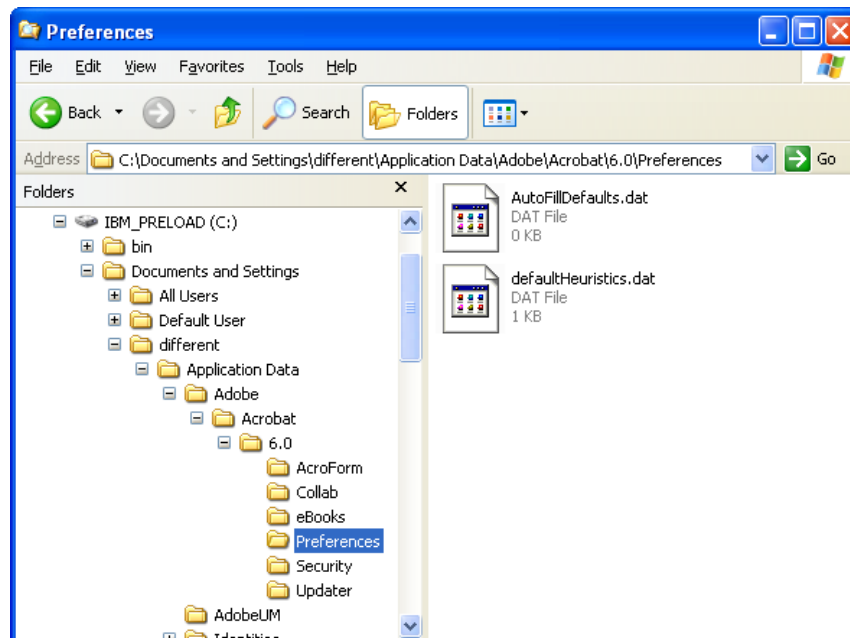
図 4. 拡張管理トピック:「Documents and settings」フォルダーの下のカスタマイズ・ファイル

b. 個人用設定が保存されている可能性があるすべての関連ディレクトリーを調べます。

c. Local Settings ディレクトリーを調べます。

9. 移行したいレジストリー項目を決定します。それらは HKCU (HKEY_CURRENT_USER) に入っています。アプリケーション・ファイルの <Registries> セクションで、該当するコマンドを追加します。

10. application.XML ファイルを *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥Apps ディレクトリーに保存します。ここで、*d* は、ハードディスク・ドライブのドライブ名です。

11. 新規のアプリケーション・ファイルをテストします。

Adobe Reader 用の application.XML ファイルの例

このセクションでは、Adobe Reader プログラムのアプリケーション・ファイルを紹介します。

```
<?xml version="1.0"?>
<Applications>
 <Family>Adobe Acrobat Reader</Family>
 <SMA_Version>SMA 6.0</SMA_Version>
 <APP>Acrobat_Reader_80</APP>
 <APP>Acrobat_Reader_70</APP>
 <APP>Acrobat_Reader_60</APP>
 <APP>Acrobat_Reader_50</APP>

<Application ShortName="Acrobat_Reader_50">
  <AppInfo>
   <Name>Acrobat_Reader_5.0</Name>
   <Version>5.0</Version>
   <Detects>
                 <Detect>
                     <hive>HKLM</hive>
            <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0</keyname>
                 </Detect>
          </Detects>
  </AppInfo>
  <Install_Directories>
            <Install_Directory>
                <OS>WinVista</OS>
                <Registry>
                        <hive>HKLM</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
                        <value>(Default)</value>
                </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                <OS>WinXP</OS>
                <Registry>
                         <hive>HKLM</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
                         <value>(Default)</value>
                </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                 <OS>Win2000</OS>
                 <Registry>
                         <hive>HKLM</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath<keyname>
                         <value>(Default)</value>
                 </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                 <OS>Win98</OS>
                 <Registry>
                          <hive>HKLM</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
                          <value>(Default)</value>
     </Registry>
            </Install_Directory>
            <Install_Directory>
                 <OS>WinNT</OS>
                 <Registry>
                          <hive>HKLM</hive>
                          <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath</keyname>
                          <value>(Default)</value>
                 </Registry>
            </Install_Directory>
</Install_Directories>
```

```
<Files_From_Folders>
           <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.*
/s</Files_From_Folder>
           <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
<Files_From_Folders>
<Files_Through_Registries></Files_Through_Registries>
<Registries>
            <Registry>
                       <hive>HKCU</hive>
                       <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>
            </Registry>
            <Registry>
                       <hive>HKCU</hive>
                       <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader</keyname>
            </Registry>
            <Registry>
                       <hive>HKLM</hive>
                       <keyname>Software¥Adobe¥Persistent Data</keyname>
            </Registry>
    <Registry>
                       <hive>HKLM</hive>
       <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer</keyname>
 <value></value>
</Registry>
</Registries>
<Registry_Excludes>
            <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer</keyname>
                        <value>xRes</value>
            </Registry>
            <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥Adobe¥Viewer</keyname>
                        <value>yRes</value>
            </Registry>
<Registry_Excludes>
<SourceBatchProcessing></SourceBatchProcessing>
<PreTargetBatchProcessing>
      <![CDATA[
   if /i "%SourceUserName%" == "SYSTEM" goto Done
   if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Update50
   goto Done
   :Update50
   regfix  /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"
   regfix  /delete "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"
   :Done
   ]]
</PreTargetBatchProcessing>
<TargetBatchProcessing></TargetBatchProcessing>
</Application>
<Application ShortName="Acrobat_Reader_6.0">
         <AppInfo>
                    <Name>Adobe Acrobat Reader 6.0<¥Name>
                           <Version>6.0</Version>
                           <Detects>
                                  <Detect>
                                         <hive>HKLM</hive>
                                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥6.0</keyname>
                                  </Detect>
                           </Detects>
  <¥AppInfo>

<Install_Directories>
           <Install_Directory>
                <OS>WinVista</OS>
                <Registry>
```

```
                    <hive>HKLM</hive>
                    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
                    <value>(Default)</value>
          </Registry>
     </Install_Directory>
     <Install_Directory>
          <OS>WinXP</OS>
          <Registry>
                    <hive>HKLM</hive>
                    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
                    <value>(Default)</value>
          </Registry>
     </Install_Directory>
     <Install_Directory>
          <OS>Win2000</OS>
          <Registry>
                    <hive>HKLM</hive>
                    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
                    <value>(Default)</value>
          </Registry>
     </Install_Directory>
   <Install_Directory>
          <OS>Win98</OS>
          <Registry>
                     <hive>HKLM</hive>
                     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
                     <value>(Default)</value>
          </Registry>
     </Install_Directory>
  <Install_Directory>
          <OS>WinNT</OS>
          <Registry>
                    <hive>HKLM</hive>
                    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath</keyname>
                    <value>(Default)</value>
          </Registry>
          </Install_Directory>
</Install_Directories>
<Files_From_Folders>
            <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥6.0¥*.*
/s</Files_From_Folder>
            <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
</Files_From_Folders>
<Files_Through_Registries></Files_Through_Registries>
<Registries>
              <Registry>
                         <hive>HKCU</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>
              </Registry>
              <Registry>
                         <hive>HKCU</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader</keyname>
              </Registry>
</Registries>

<Registry_Excludes>
              <Registry>
                         <hive>HKCU</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer</keyname>
                         <value>xRes</value>
              </Registry>
              <Registry>
                         <hive>HKCU</hive>
                         <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥Adobe¥Viewer</keyname>
                         <value>yRes</value>
              </Registry>
<Registry_Excludes>
<SourceBatchProcessing></SourceBatchProcessing>
```

```
<PreTargetBatchProcessing></PreTargetBatchProcessing>
<TargetBatchProcessing>
           <![CDATA[
          if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Update50
          goto Done
          :Update50
          regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0"  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥6.0"
          regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥6.0¥AdobeViewer"
          :Done
    ]]
  </TargetBatchProcessing>
</Application>
<Application ShortName="Acrobat_Reader_7.0">
              <AppInfo>
                         <Name>Adobe Acrobat Reader 7.0<¥Name>
                         <Version>6.0</Version>
                         <Detects>
                                    <Detect>
                                           <hive>HKLM</hive>
                                           <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥7.0</keyname>
                                    </Detect>
                         </Detects>
              <¥AppInfo>
<Install_Directories>
             <Install_Directory>
                           <OS>WinVista</OS>
                           <Registry>
                                    <hive>HKLM</hive>
                                    <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥InstallPath</keyname>
                                    <value>(Default)</value>
                           </Registry>
             </Install_Directory>
             <Install_Directory>
                           <OS>WinXP</OS>
                           <Registry>
                                     <hive>HKLM</hive>
                                     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥InstallPath</keyname>
                                     <value>(Default)</value>
                           </Registry>
             </Install_Directory>
<Install_Directory>
                            <OS>Win2000</OS>
                            <Registry>
                                      <hive>HKLM</hive>
                                      <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥InstallPath</keyname>
                                      <value>(Default)</value>
                            </Registry>
</Install_Directory>
<Install_Directory>
        <OS>Win98</OS>
                           <Registry>
                                      <hive>HKLM</hive>
                                      <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥InstallPath</keyname>
                                      <value>(Default)</value>
                            </Registry>
</Install_Directory>
<Install_Directory>
                            <OS>WinNT</OS>
                            <Registry>
                                      <hive>HKLM</hive>
                                      <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥InstallPath</keyname>
                                      <value>(Default)</value>
                            </Registry>
              </Install_Directory>
```

```
</Install_Directories>
<Files_From_Folders>
            <Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥Acrobat¥7.0¥*.*
/s</Files_From_Folder>
            <Files_From_Folder>%Personal Directory%¥*.pdf</Files_From_Folder>
</Files_From_Folders>
<Files_Through_Registries></Files_Through_Registries>
<Registries>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</keyname>
             </Registry>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader</keyname>
             </Registry>
</Registries>
<Registry_Excludes>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer</keyname>
                        <value></value>
             </Registry>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer</keyname>
                        <value></value>
             </Registry>
             <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer</keyname>
                        <value>xRes</value>
             </Registry>
    <Registry>
                        <hive>HKCU</hive>
                        <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer</keyname>
                        <value>yRes</value>
             </Registry>
             <Registry_Excludes>
<SourceBatchProcessing></SourceBatchProcessing>
<PreTargetBatchProcessing></PreTargetBatchProcessing>

<TargetBatchProcessing>
            <![CDATA[
           if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Update50
           if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_60" goto Update60
            goto Done
           :Update50
           regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0"  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥7.0"
           regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"
 "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer"
           goto Done
           :Update60
           regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0"  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat
Reader¥7.0"
           regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer"
 "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer"
           :Done
           ]]
</TargetBatchProcessing>
</Application>
<Application ShortName="Adobe Acrobat Reader 80">
  <AppInfo>
    <Name>Adobe Acrobat Reader 8.0</Name>
    <Version>8.0</Version>
    <Detects>
      <Detect>
```

```
      <hive>HKLM</hive>
      <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0</keyname>
      </Detect>
    </Detects>
  </AppInfo>
  <Install_Directories>
    <Install_Directory>
                        <OS>Win7</OS>
                        <Registry>
                                  <hive>HKLM</hive>
                                  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥InstallPath</keyname>
                                  <value>(Default)</value>
                        </Registry>
              </Install_Directory>
    <Install_Directory>
                        <OS>WinVista</OS>
                        <Registry>
                                  <hive>HKLM</hive>
                                  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥InstallPath</keyname>
                                  <value>(Default)</value>
                        </Registry>
             </Install_Directory>
    <Install_Directory>
                        <OS>WinXP</OS>
                        <Registry>
                                  <hive>HKLM</hive>
                                  <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥InstallPath</keyname>
                                  <value>(Default)</value>
                        </Registry>
             </Install_Directory>
</Install_Directories>
<Files_From_Folders>
<Files_From_Folder>%AppData Directory%¥Adobe¥*.* /s</Files_From_Folder>
<Files_From_Folder>%LocalAppData Directory%¥Adobe¥Updater5¥AdobeUpdaterPrefs.dat</Files_From_Folder>

</Files_From_Folders>
<Files_Through_Registries></Files_Through_Registries>
<Registries>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥3D¥</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Access</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Accessibility</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Annots¥cPrefs</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Appearance</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AVDisplay</keyname>
     <value></value>
```

```
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AVGeneral</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AVGenaral¥cDockables¥cOCGs</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AVGenaral¥cToolbars</keyname>
   <value></value>
</Registry>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AVTracker</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AutoSaveDocs</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥AutoScroll</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥FullScreen</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥FormsPrefs</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥HandTool</keyname>
   <value></value>
</Registry>

<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥HostedServices¥cProtectPDF</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥HostedServices¥cMeeting</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥HostedServices¥cMeetingInfo</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Identity</keyname>
   <value></value>
```

```
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Intl</keyname>
   <value></value>
</Registry>

<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥JSPrefs</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Language</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Measuring</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Measuring3D</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥multimedia</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥multimediaLanguage</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Originals</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥OptionalContent</keyname>
   <value></value>
</Registry>

<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥PICommonPrefs</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥PrefsDialog</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥ReadAloud</keyname>
   <value></value>
</Registry>
<Registry>
   <hive>HKCU</hive>
   <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥RememberedViews</keyname>
   <value></value>
```

```
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Search¥cOptions</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Security</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Selection</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥SDI</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Spelling</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Tracker</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥TrustManager</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
  <Registry>
     <hive>HKCU</hive>
     <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Window</keyname>
     <value></value>
  </Registry>
</Registries>
<Registry_Excludes></Registry_Excludes>
<SourceBatchProcessing></SourceBatchProcessing>
<PreTargetBatchProcessing>
  <![CDATA[
  if /i "%SourceUserName%" == "SYSTEM" goto Done

  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Originals"

  goto Done

  :Done
  ]]
</PreTargetBatchProcessing>
<TargetBatchProcessing>
<![CDATA[
  if /i "%SourceUserName%" == "SYSTEM" goto Done
  if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Done
  if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_60" goto Update60
  if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_70" goto Update70
  goto Done

  :Update60
  regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0"  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0"
  regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer"
 "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdobeViewer"
```

```
  goto Update70

  :Update70
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥AdslnReader"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Annots¥cAnnots¥cAnnot¥¥tauthor"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥DocumentStatus"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥EBookPlugin"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥FindSearch"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Installer"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Identity"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥InstallPath"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Multimedia"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥TaskButtons"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Updater"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Settings"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥Highlight"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥FocusRect"

  regfix /rename "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥3D" "b3DShowToolbar" "i3DShowToolbar"

  regfix "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥DiskCabs" "HKCU¥Software
¥Adobe¥Adobe Acrobat¥8.0¥DiskCabs"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0¥DiskCabs"

  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0¥Originals"

  regfix "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0" "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥8.0"

  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Adobe Acrobat¥6.0"
  regfix /delete "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥7.0"

  goto Done

  :Done
  ]]
  </TargetBatchProcessing>
  </Application>
</Applications>
```

付録 A. ファイルおよびレジストリーの除外

この付録では、SMA を使用して移行できないファイルとレジストリー項目について説明します。

ファイルとディレクトリーの除外

以下のファイルとディレクトリーは、取り込むことはできません。

- pagefile.sys
- hal.dll
- ntuser.dat
- ntuser.dat.log
- ntuser.dat.ini
- system.dat
- user.dat
- bootsect.dos
- io.sys
- msdos.sys
- ntdetect.com
- ntldr
- ldr
- win386.swp
- hiberfil.sys
- boot.ini
- system.ini
- msdos.---
- command.com
- system.ini
- system.1st
- config.sys
- autoexec.bat
- *systemdir*¥config。ここで、*systemdir* はオペレーティング・システム・ディレクトリーです。
- SMA 一時ディレクトリー

また、システム・ボリューム情報もスキャンできません。このため、取り込むことはできません。

レジストリーの除外

SMA は、以下のレジストリーを取り込むことはできません。

- HKCU¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Explorer
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Microsoft¥¥Windows NT¥¥CurrentVersion
- HKLM¥¥Hardware
- HKLM¥¥sam
- HKLM¥¥security
- HKLM¥¥system¥¥ControlSet00N
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥enum
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥services¥¥Tcpip
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥hardware profiles
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Microsoft¥¥Cryptography
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Policies
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥Class
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥Network
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥DeviceClasses
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥RPC
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Group Policy
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Syncmgr
- HKLM¥¥Software¥¥Classes¥¥CID
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Services¥¥Class¥¥Net
- HKCU¥¥AppEvents
- HKCU¥¥Control Panel
- HKCU¥¥Identities
- HKCU¥¥InstallLocationsMRU
- HKCU¥¥Keyboard layout
- HKCU¥¥Network
- HKLM¥¥Config
- HKLM¥¥Driver
- HKLM¥¥Enum
- HKLM¥¥Network
- HKLM¥¥Hardware
- HKLM¥¥Security

また、最終ノードに以下のいずれかのテキスト・ストリングを含むレジストリー・キーも、取り込みから除外されます。

- StreamMRU
- Cache
- Enum

付録 B. SMA 6.0 でサポートされるユーザー・プロファイルの移行

SMA 6.0 は、次の 2 種類の移行をサポートします。

- フォアグラウンドのシングル・ユーザー・プロファイル
- マルチユーザー・プロファイル

シングル・ユーザー・プロファイルは次の方法で移行できます。

- 異なるユーザー名へ
- ローカル・アカウントからドメイン・アカウントへ
- ドメイン・アカウントからローカル・アカウントへ

以下の表では、シングル・ユーザー移行 (表 18) とマルチユーザー (表 19) 移行での有効なシナリオを示します。

表 18. シングル・ユーザー・プロファイルの移行

ソース・コンピューターのユーザー・アカウント	ターゲット・コンピューターのユーザー・アカウント			
	ソース・アカウントとターゲット・アカウントが同じユーザー名の場合		ソース・アカウントとターゲット・アカウントが異なるユーザー名の場合	
	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント
ローカル・アカウント	はい	はい	はい	はい
ドメイン・アカウント	はい	はい	はい	はい

表 19. マルチユーザーの移行

ソース・コンピューターのユーザー・アカウント	ターゲット・コンピューターのユーザー・アカウント (遅延適用による移行)			
	フォアグラウンドのソース・アカウントとターゲット・アカウントが同じユーザー名の場合		フォアグラウンドのソース・アカウントとターゲット・アカウントが異なるユーザー名の場合	
	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント	ローカル・アカウント	ドメイン・アカウント
ローカル・アカウント	はい	はい	いいえ[1]	いいえ[1]
ドメイン・アカウント	はい	はい	いいえ[1]	いいえ[1]

[1] 異なるユーザー名アカウントへの移行は、フォアグラウンド・ユーザーの移行の場合にのみサポートされます。

表 20 と 146 ページの表 21 では、ソース・コンピューターのどのユーザーがターゲット・コンピューターに移行されるかを示しています。

表 20. 事例 1. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのユーザー名が同じ場合

ユーザー名	User A	User B	User C
User A (ログオン)	はい[1]		

表 20. 事例 1. ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのユーザー名が同じ場合 (続き)

ユーザー名	User A	User B	User C
User B		**はい**[2]	
User C			**はい**[3]

[1] フォアグラウンド・ユーザー「User A」の設定は、ターゲット・コンピューターに正しく移行されます。
[2] バックグラウンド・ユーザー「User B」の設定は、「User B」のパスワードがユーザー名と同じ、つまり「User B」の場合にターゲット・コンピューターに正しく移行されます。パスワードがユーザー名と異なる場合は、「user B」は移行されません。
[3]「User C」がターゲット・コンピューター上に作成され、「User C」の設定がソース・コンピューターからコピーされます。

表 21. 事例 2: ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのユーザー名が異なる場合

ユーザー名	User A	User B (ログオン)	User C	User D
User A (ログオン)	**いいえ**[4]	**はい**[5]		
User B		**いいえ**[6]		
User C			**いいえ**[7]	
User D				**いいえ**[8]

[4] ソース・コンピューターの「User A」の設定は、ターゲット・コンピューターの「User A」に移行されません。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が異なる場合、ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。
[5]「User A」の設定が「User B」に移行されます。これは、「User B」が現在ターゲット・コンピューターにログオンしているためです。
[6] ソース PC 上の「User B」の設定は移行されません。これは、ソース PC の「User A」の設定がターゲット PC の「User B」に適用されるためです。
[7]「User C」はターゲット PC 上に作成されません。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が異なる場合、ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。
[8]「User D」はターゲット PC に移行されません。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が異なる場合、ログオン・ユーザーの設定のみが移行されます。

移行可能なユーザー・プロファイルを識別するには、次のようにします。

1. ソース PC に管理特権でログオンします。
2. SMA がインストールされているディレクトリーに USRCHK.BAT および USRCHK_CMD.XML ファイルを作成します。
3. コマンド・プロンプトから USRCHK.BAT を実行すると、移行可能なユーザー・アカウントがリストされます。
4. 希望するドメイン・ユーザー・プロファイルがリストされない場合は、ユーザーのキャッシュ信用証明情報が期限切れの可能性があります。キャッシュ信用証明情報を更新するには、このアカウントにログオンします。

USRECHK.BAT の例

```
@echo off
 "%sma%smabat" /c "%sma%USRCHK_CMD.XML" /n "%sma%usrchk.sma"
 find "I1200" "%sma%sma.log"
 del /q "%sma%*.log"
 del /q "%sma%usrchk.sma"
 pause
```

USERCHK_CMD.xml の例

```
<?xml version="1.0" ?>
 <?sma version="5.0" ?>
 <controlcard>
        <FilesAndFolders>
     <run>false</run>
        </FilesAndFolders>
        <Desktop>
       <desktop_settings>false</desktop_settings>
        <accessibility>false</accessibility>
        <active_desktop>false</active_desktop>
        <colors>false</colors>
        <desktop_icons>false</desktop_icons>
        <display>false</display>
        <icon_metrics>false</icon_metrics>
        <keyboard>false</keyboard>
        <mouse>false</mouse>
        <pattern>false</pattern>
        <screen_saver>false</screen_saver>
        <sendto_menu>false</sendto_menu>
        <shell>false</shell>
        <sound>false</sound>
        <start_menu>false</start_menu>
        <taskbar>false</taskbar>
        <time_zone>false</time_zone>
        <wallpaper>false</wallpaper>
        <window_metrics>false</window_metrics>
        </Desktop>
        <Network>
        <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subnet_gateway_configuration>
        <dns_configuration>false</dns_configuration>
        <wins_configuration>false</wins_configuration>
        <computer_name>false</computer_name>
        <computer_description>false</computer_description>
        <domain_workgroup>false</domain_workgroup>
        <shared_folders_drives>false</shared_folders_drives>
        <mapped_drives>false</mapped_drives>
        <dialup_networking>false</dialup_networking>
        <microsoft_networking>false</microsoft_networking>
        <odbc_datasources>false</odbc_datasources>
        </Network>
        <IncUsers>
        <UserName>$(all)</UserName>
        </IncUsers>
 </controlcard>
```

付録 C. それ以前のバージョンとの互換性

この付録では、SMA 6.0 以前のバージョンとの互換性情報を提供します。

SMA 6.0 および SMA 5.2 のアーキテクチャーは、SMA 4.2 以前のバージョンと比較して、設計し直されました。そのため、SMA 4.2 を使用して作成された SMA プロファイル (移行ファイル) は、SMA 6.0 または SMA 5.2. では使用できません。

SMA 6.0 および 5.2 では、そのコマンド・ファイルとアプリケーション・ファイルに XML ファイル・フォーマットを採用していますが、SMA 4.2 を使用して作成されたコマンド・ファイルとアプリケーション・ファイルでも、SMA 5.2 で使用できます。SMA 6.0 または 5.2 の XML ファイルの代わりに古い SMA 4.2 バージョンのコマンド・ファイルまたはアプリケーション・ファイルを指定すると、SMA 5.1 によってそれらのファイルが自動的に SMA 6.0 または 5.2 のデータに変換されます。

SMA 4.2 の以下のコマンドは、使用されなくなりました。

- capture_ntfs_attribute ([MISC] セクション)
- removable_media ([MISC] セクション)
- createselfextractingexe ([MISC] セクション)

以下のコマンドは SMA 5.x および SMA 6.0 で追加されたものです。

- time_zone (<Desktop> セクション)
- desktop_settings (Desktop theme/Color scheme/Visual effect) (<Desktop> セクション)

コマンド・ファイル

SMA 5.2 または SMA 6.0 コマンドとして処理できる SMA 4.2 コマンドについて、表 22 で簡単に説明します。

表 22. コマンド・ファイルのコマンド

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.2 および SMA 6.0
パスワード	[password_start] plain_password = xxxx [password_end]	<Password> <PlainPassword>xxxx</PlainPassword> </Password>
移行ファイル	[profile_path_and_name_start] output_profile = c:¥migrate.sma [profile_path_and_name_end]	<ArchiveFile> <filename>c:¥migrate.sma</filename> </ArchiveFile>
PC から PC への移行	[misc_settings_end] using_peer_to_peer_migration = 1 [misc_settings_end]	<TransferMode> <mode>P2P</mode> </TransferMode> <P2P> <connection_id>xxxx<connection_id> </P2P>

表 22. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.2 および SMA 6.0
デスクトップ設定	[desktop_start] accessibility = 0 active_desktop = 1 colors = 1 desktop_icons = 1 display = 1 icon_font = 0 keyboard = 0 mouse = 0 pattern = 0 screen_saver = 1 sendto_menu = 0 shell = 0 sound = 0 start_menu = 0 taskbar = 1 wallpaper = 1 window_metrics = 0 [desktop_end]	<Desktop> <accessibility<false</accessibility> <active_desktop>true</active_desktop> <colors>true</colors> <desktop_icons>true</desktop_icons> <display>true</display> <icon_metrics>false</icon metrics) <keyboard>false</keyboard> <mouse>false</mouse> <pattern>false</pattern> <screen_saver>true</screen_saver> <sendto_menu>false</sendto_menu> <shell>false</shell> <sound>false</sound> <start_menu>false</start_menu> <taskbar>true</taskbar> <wallpaper>true</wallpaper> <window_metrics>false</window_metrics> <time_zone>true</time_zone> <desktop_settings>true</desktop_settings> </Desktop> **注:** 以前のバージョンとは異なり、SMA 5.2 および SMA 6.0 では「タイム・ゾーン」および「デスクトップ設定 (デスクトップ・テーマ/カラー・スキーム/視覚効果)」の移行がサポートされます。
ネットワーク設定	[network_start] ip_subnet_gateway_configuration = 0 dns_configuration = 0 wins_configuration = 0 computer_name = 0 computer_description = 0 domain_workgroup = 0 shared_folders_drives = 1 mapped_drives = 1 dialup_networking = 0 microsoft_networking = 0 odbc_datasources = 0 [network_end]	<Network> <ip_subnet_gateway_configuration>false</ip_subn et_gateway_configuration> <dns_configuration>false</dns_configuration> <wins_configuration>false</wins_configuration> <computer_name>false</computer_name> <computer_description>false</computer_description> <domain_workgroup>false</domain_workgroup> <shared_folders_drivers>true</shared_folders_driv es> <mapped_drives>true</mapped_drives> <dialup_networking>false</dialup_networking> <microsoft_networking>false</microsoft_networking> <odbc_datasources>false</odbc_datasources> </Network>
アプリケーション	[applications_start] Adobe Acrobat Reader Lotus Notes Microsoft Internet Explorer [applications_end]	<Applications> <Application>Adobe Acrobat Reader</Application> <Application>Lotus Notes</Application> <Application>Microsoft Internet Explorer</Applica tion> </Applications>
レジストリー	[registry_start] HKLM,"software¥microsoft¥currentversi on", "value"[registry_end]	<Registry> <hive>HKLM</hive> <keyname>sofware¥microsoft¥currentversion</key name> <value>value</value> </Registry>
ドライブの除外	[exclude_drive_start] d: [exclude_drive_end]	<ExcludeDrives> <Drive>d</Drive> </ExcludeDrives>

表 22. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.2 および SMA 6.0
ファイルの組み込み	[includefile_start] c:¥data¥*.cpp [includefile_end] [includepath_start] c:¥data [includepath_end] [includefiledescription_start] *.cpp,c:¥data,c:¥NewData,P,NEWER, 05/01/2005 [includefiledescription_end]	<IncDescription> <Description>c:¥data¥*.cpp /s</Description> <DataCompare> <Operand>NEWER</Operand> <Date>05/01/2005</Date> </DateCompare> <SizeCompare> <Operand></Operand> <Size></Size> </SizeCompare> <Dest>c:¥NewData</Dest> <Operation>P/Operation> </IncDescription>
ファイルの除外	[excludefile_start] c:¥data¥*.cpp [excludefile_end] [excludepath_start] c:¥data [excludepath_end] [excludefiledescription_start] *.cpp,c:¥data,c:¥NewData,OLDER, 05/01/2005 [excludefiledescription_end] [excludefilesandfolders_start] %:¥data¥text%¥*.cpp [excludefilesandfolders_end]	<ExcDescription> <Description>c:¥data¥*.cpp /s</Description> <DataCompare> <Operand>OLDER</Operand> <Date>05/01/2005</Date> </DateCompare> <SizeCompare> <Operand></Operand> <Size></Size> </SizeCompare> </ExcDescription>
ユーザーの組み込み	[userprofiles_start] GetAllUserProfiles = 1 Administrator [userprofiles_end]	<IncUsers> <UserName>$(all)</UserName> <UserName>Administrator</UserName> </IncUsers>
ユーザーの除外	[excludeuserprofiles_start] localuser2 SMADOM1¥domainuser2 [excludeuserprofiles_end]	<ExcUsers> <UserName>localuser2</UserName> <UserName>SMADOM1¥domainuser2</UserName> </ExcUsers>
プリンター	[misc_settings_start] printers = 0 defaultprinteronly = [misc_settings_end]	<Printer> <PrinterName>IBM Network Printer</PrinterName> </Printer>
その他	[misc_settings_start] bypass_registry = quota=0 stop_if_quota_exceeded = 0 capture_ntfs_attribute = user_exit = C:¥EXIT.EXE overwrite_existing_files = 1 temp_file_location = c:¥templog_fi le_location = c:¥log removable_media = 0 AutoReboot = 2 resolve_icon_links = 1 createselfextractingexe = 0using_peer_to_peer_migration = 1 [misc_settings_end]	<MISC> <bypass_registry>true</bypass_registry> <quota></quota> <user_exit_after_apply>c:¥EXIT.EXE</user_exit_af ter_apply> <overwrite_existing_files>true</overwrite_existi ng_files> <temp_file_location>c:¥temp</temp_file_location> <log_file_location>c:¥log</log_file_location> <AutoReboot>2</AutoReboot> <resolve_icon_links>true</resolve_icon_links> <span_size>124</span_size> </MISC> **注:** capture_ntfs_attribute、removable_media、および createselfextractingexe は SMA 5.1 では使用されなくなりました。

アプリケーション・ファイル

SMA 4.2 のアプリケーション・ファイルを SMA 6.0 で使用するには、それらのファイルを SMA6.0_Install_Directory/apps フォルダーにコピーします (SMA6.0_Install_Directory は SMA 6.0 の導入先ディレクトリー)。 表 23 には、アプリケーション・ファイル・コマンドと、SMA 4.2、SMA 5.2、および SMA 6.0 としてどのように処理されるかの説明をリストしています。

表 23. 付録: アプリケーション・ファイル・コマンド

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.2 および SMA 6.0
アプリケーション情報	[General] Family= Application Name SMA_Version= 4.2 APP1= Application_1 (=shortname) APP2= Application_2	<Applications> <Family>Application name</Family> <SMA_Version>5.0</SMA_Version> <APP>Application_1</APP> <APP>Application_2</APP>
	[App_Info.shortname] Name= Application Name Version= 5.0 Detect_1= hive, "Registry keyname"	<Application ShortName="Application_1"> <AppInfo> <Name>Application Name</Name> <Version>5.0</Version> <Detects> <Detect> <hive>hive</hive> <keyname>Registry keyname</keyname> </Detect> <Detects> </AppInfo>
%Install Directory% SMA 変数の設定	[Install_Directories.shortname] WinXP= HKLM, "SOFTWARE¥SMA ", "INSTALLDIR"	<Install_Directories> <Install_Directory> <OS>WinXP</OS> <Registry> <hive>HKLM</hive> <keyname>SOFTWARE¥SMA</keyname> <value>INSTALLDIR</value> </Registry> </Install_Directory> </Install_Directories>
ファイルの組み込み	[Files_From_Folders.shortname] %Install Directory%, Data, *.txt	<Files_From_Folders> <Files_From_Folder>%InstallDirectory%¥D ata¥*.txt</Files_From_Folder> </Files_From_Folders>
レジストリーの組み込み	[Registry.shortname] HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat", "(Default)"	<Registries> <Registry> <hive>HKCU</hive> <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</key name> <value>(Default)</value> </Registry> </Registries>
レジストリーの除外	[Registry.shortname] HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat", "(Default)"	<Registry_Excludes> <Registry> <hive>HKCU</hive> <keyname>Software¥Adobe¥Acrobat</key name> <value>(Default)</value> <Registry> </Registry_Excludes>

表 23. 付録: アプリケーション・ファイル・コマンド (続き)

コマンド	SMA 4.2	SMA 5.2 および SMA 6.0
SourceBatchProcessing	SMA 4.2 はサポートしません。 SourceBatchProcessing	<SourceBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migra tion del c:¥migration¥*.mp3]] </SourceBatchProcessing>
PreTargetBatchProcessing	[PreTargetBatchProcessing] copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] [/PreTargetBatchProcessing]	<PreTargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migra tion del c:¥migration¥*.mp3]] </PreTargetBatchProcessing>
TargetBatchProcessing	[TargetBatchProcessing] copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migration del c:¥migration¥*.mp3]] </TargetBatchProcessing>	<TargetBatchProcessing> <!CDATA[copy /y c:¥temp¥*.* c:¥migra tion del c:¥migration¥*.mp3]] </TargetBatchProcessing>

アプリケーション・ファイルの変換

SMA には、SMA 4.2 のアプリケーション・ファイルを SMA 5.2 または SMA 6.0 のアプリケーション・ファイルに変換するツールが組み込まれています。

SMA をデフォルトの場所にインストールすると、AppFileTransfer.exe が d:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA ディレクトリーに入れられます。*d* はハードディスクのドライブ名です。

AppFileTransfer.exe コマンドでは、次の構文が使用されます。

```
AppFileTransfer "SMA42ApplicationFile" "SMA51ApplicationFile"
```

例えば、SMA 4.2 の Lotus_Notes.smaapp を SMA 5.2 または SMA 6.0 の Lotus_Notes.xml に変換するには、コマンド・プロンプトで次のストリングを入力します。

```
d:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA¥AppFileTransfer C:¥Apps¥Lotus_Notes.smaapp C:¥Ap
ps¥Converted¥Lotus_Notes.xml
```

Lotus_Notes.xml が C:¥Apps¥Converted フォルダー内に作成されます。

付録 D. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品, プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

Lenovo (United States), Inc
1009 Think Place
Building One
Morrisville, NC 27560
USA
Attention: Lenovo Director of Licensing

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の稼働環境では、結果が異なる場合があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

商標

以下は、Lenovo の米国およびその他の国における商標です。

Lenovo
Rescue and Recovery
ThinkVantage

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

IBM (ライセンスに基づき使用しています)
Approach
Lotus
Lotus Notes
Lotus Organizer
Freelance Graphics
Sametime
SmartSuite
Word Pro
1-2-3

以下は、Microsoft グループの商標です。

Microsoft
Access
Internet Explorer
Media Player
MSN
Outlook
Visio
Windows
Windows NT
Windows Vista

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。